令和５年度 事業報告書

学校法人 村崎学園

目　次

Ⅰ. 法　人　の　概　要 …… 1

1. 基本情報
2. 建学の精神、使命・目的
3. めざす大学像
4. 沿革
5. 設置学校等
6. 役員の概要
7. 評議員の概要
8. 教職員の概要

Ⅱ. 事　業　の　概　要 …… 8

1. 令和５年度の主な事業
2. 教育研究の概要
3. ３ポリシー
4. 就職状況
5. 管理運営の概要
6. 中期目標・中期計画
7. 特長ある取り組み

Ⅲ. 財　務　の　概　要 …… 84

1. 決算の概要
2. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

Ⅰ．法人の概要

１．基本情報

(1)法人の名称

学校法人　村崎学園

(2)学園本部の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス

住　　所　　〒770-8560 徳島市寺島本町東一丁目八番地
電話番号　　088-622-0097
ＦＡＸ番号　　088-626-2998
ホームページアドレス
https://www.bunri-u.ac.jp

２．建学の精神、使命・目的

本学の建学精神は「自立協同」である。

この建学精神は、学祖村崎サイが明治28(1895)年7月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和20(1945)年7月、学園は戦火に包まれて灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人元理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。

この建学精神の意味するところは、成長してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「自立」を具現化する方法、とするものである。

「協同」は「力を合わせて物事をする」ことなので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「人」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。

爾来、学園はこのような歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、大学・短大、大学院併せて9学部27学科、6研究科、3専攻科、そして5研究所、1相談室を有する総合学園として発展してきた。

今後とも建学精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

大学の目的は「学則」第1条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」と定めている。大学院は学則第2条に、短期大学部は学則第1条にそれぞれの目的を定めている。また、教育研究上の目的についても大学は学則第3条2項に、大学院は学則第5条2項に、短期大学部は学則第4条2項に明記している。

このように、本学の使命は、建学精神の下、「学則」等に記した教育研究上の目的を達成することにある。本学の使命・目的は、学祖が女性の自立を唱えて建学したこと、村崎凡人元理事長が第2次世界大戦で軍役に服した経験を生かし、さらに、戦後の社会状況から芽生えた近代精神を取り入れたこと、村崎正人前理事長がドイツ留学において社会経済学を学んだ経験に基づき、新たな国際感覚を吹き込んだこと等から形作られている。

その目的は、「自立協同」の建学精神を基本に、高度な教養と専門的能力を身につけるための教育と研究を実践し、並びに、幅広い教養を身につけた社会人や、あるいは、研究心と独立心を持って社会の発展に寄与する人材を養成することである。また、本学は教育機関であると同時に研究機関でもある。研究機関としての本学の使命は、研究成果を社会に還元し、文化の創造と発展に貢献していくことである。

３．めざす大学像

(1)ブランドスローガン「あなたの未来を創る 徳島文理大学」

本学は、令和7(2025)年の学園創立130周年に向け、「あなたの未来を創る 徳島文理大学」をブランドスローガンに制定し、高松駅キャンパスの開学を見据えて、さらなるブランド力の向上を目指している。創立130周年に向けて特に力を入れているのが“地域のニーズに応える特色ある教育･研究”で、9学部が連携し、地域の健康や福祉･教育･食料･災害･公共政策など、SDGsに寄与する教育･研究を展開している。それぞれの分野での取組を一層強化し、AI・データサイエンスに関する教育も文系･理系問わず積極的に導入して、新時代を先導する人材の育成を推進する。

(2)文理融合の教育

本学は、人間教育の視点から、日常的な学生の交流をとおして成熟した社会人への成長を支援できるように、文系3学部（音楽学部・総合政策学部・文学部）、理系3学部（薬学部・理工学部・香川薬学部）のほかに、文理融合の2学部（人間生活学部・保健福祉学部）と短期大学部を設置し、総合大学の特性を生かした文理融合の教育をめざしている。

(3)教育目標･方法等の明示と自立学修

本学は各学部・学科の教育目標・方法等を履修ガイド及びシラバスに明示し、目標達成のため教員と学生はともに努力している。

また、カリキュラムの充実のほか、国家試験、資格試験での合格率の向上と、資格取得に努めている。そのために、学生自らが課題を見つけ解決するいわゆる「自立学修」ができる教育も実践している。

(4)教育への信頼（安心と安全）

～適切できめ細やかな教育と学生の成長を支援する充実した教育・研究環境～

本学が掲げる「安心」とは、学生に対し親切に接し、いい教育・わかる教育を行うことつまり教育の質を保証するものであり、「安全」とは、今後予測される南海トラフ地震の発生に備えた耐震化等、学生・教職員の教育環境を整えることである。

本学では、学年・学期の各段階で、学生に適切できめ細やかな教育を行うよう努めている。入学前教育は、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試に合格した段階から開始しており、学生の出身校と連携をとりながら、入学後の学修がスムーズに進むよう支援している。

また、新入生一人ひとりに各学部・学科のチューターあるいは担任が付き、平成25(2013)年からWeb化した「学習ポートフォリオ」をもとに面談を行い、教員とのきめ細かな連携を構築しながら、大学生活をサポートしている。

なお、新入生は、本学の特色である「文理学」を必修科目として履修している。「文理学」では、理事長の「徳島文理大学の建学精神と歴史」や学長の「大学とは」の講義に続いて、「学習ポートフォリオの使用説明」を行い、学生の自主学修を促している。

そのほか、全学共通教育センターでは、学生の個々の事情に合わせた各学部・学科教育の専門的な学修に備えるための支援として「学力充実講座」を開講している。また、eラーニングによる学修システムも導入し、個別メニューで効果的に独自学修が行えるようサポートをしている。それに加え、教員をめざす学生には「教員養成対策講座」、公務員をめざす学生に対しては「公務員試験対策講座」での指導を通じて、進路の実現を支援している。

さらに、「FD研究部会」は、FD(Faculty Development)研修会・講演会の開催、全学授業アンケート、在学生対象・学修状況アンケート、研究授業、卒業予定者対象・大学生活満足度アンケート等を行い、教育活動の質の向上に努めるだけでなく、学生と教員の連携を円滑に進めている。

教育・研究環境面では、メディアセンターにICT(情報通信技術)教育設備を設置し、語学や基礎学力向上を図るセンターや、生活面をサポートする施設等を置き、学生の自主的な学びの場や学生と教職員とのコミュニケーションの場として活用されている。

また、徳島及び香川両キャンパスにある図書館は、豊富な資料を揃えており、情報システムのもとDVD、CD、ビデオ等あらゆる視聴覚資料を学生に提供し、教育環境の完備に努めている。

さらに、徳島キャンパスには、世界最高水準の音楽ホール「むらさきホール」並びに「アカンサスホール」、「ボストンホール」を設置しており、学生のレッスン、学生による定期演奏会、OB定期演奏会等に利用している。同ホールでは、国際的に活躍している演奏家や指揮者による演奏も行われており、学生はそれらを直に聴くことができる。また香川キャンパスには、同様の機能を有した「村崎サイメモリアルホール」を設置している。

優れた教育を支える活発な研究活動は本学の特徴でもある。研究活動は学生の問題発見能力と問題解決能力の育成に役立ち、その成果を社会に発信できた時の喜びは学生と教員が共同して成し遂げた教育成果としても分かち合える。徳島・香川キャンパスには充実した教育・研究機器が整備され、最先端の研究が展開されている。

(5)地域に密着した教育貢献

本学は地域に密着した教育貢献を心がけている。これは、本学が徳島の地で戦災から復興し今日の発展に至ったのは、県民の教育への思いや、成功をおさめた多くの卒業生、多数の保護者、教育に尽力した教職員、地域住民等の限りない協力と支援に負うところが大きかったと考えるからである。

地域に密着する教育貢献としては、公開講座や公開講演会、定期演奏会、高等学校等への出張講義、児童・生徒を対象とした科学・工作教室等の開催、徳島・香川県等との地域連携事業の推進のほか、本学施設を一般の講演会と演奏会等の会場としても提供しており、地域住民の参加を歓迎している。

また、平成27(2015)年4月には、地域貢献・地域連携を担う中核として地域連携センターを設立し、社会的ニーズに対応した教育貢献に努めている。

(6)グローカル教育

本学は四国に位置していることから、日本や世界の流れを踏まえつつ地域とともに歩める人材を育成することを目的とし、グローバルに考え、ローカルに行動する「グローカル教育」を実践している。そして、そのために必要となるICT能力やコミュニケーション能力の向上を図れるように、メディアセンターの充実や、ICTの導入、総合大学の特色を生かした多様な講義の受講機会を設ける等、教育環境を整えている。また、地域を知り、厳しい社会環境を生き抜き活躍していけるよう、学生には地元企業や地域とのインターンシップに積極的に参加するよう推奨している。

そのほか、地方にある大学にとって、学生の就職支援は、学生の大学生活を成功に導くための極めて重要な課題である。必修科目である「文理学」のカリキュラムにキャリアガイダンスを取り入れ、キャリア形成への意識付けを初年次から始める。その後は就職活動の指導・支援を進め、3年次には就職相談や支援に努め、成果を上げている。

(7)国際交流

本学は総合大学である特徴を生かし、米国、カナダ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアなどの12ヶ国32大学と大学間の学術交流協定を締結している。また高大連携は9校となっている。

米国のマサチューセッツ工科大学との協定は日本で最初に締結したほか、音楽療法の先進校である米国のシェナンドー大学から日本の大学として初めて音楽療法教育を導入した。

このほか、オーストラリア・グリフィス大学、韓国・檀国大学校、水原大学校等、香港伍倫貢学院（旧香港城市大学）及び台湾の中山医学大学等とは、学生の短期・長期の滞在を含めた定期的な交流を行っている。また、音楽学部は、ウィーン国立音楽大学主催のサマーアカデミー等への音楽留学の道も開いている。

これらの国際交流を通じて、本学の学生は、海外の教育を受けたり異文化に触れたりすることができ、異文化への理解や国際的な視野をひろげることにつながっている。また、本学の教員も国際シンポジウムに招待されることが多く、本学が高い研究レベルを維持し、国際的に活躍できる大学としての特色を備えている証左でもある。

また、平成26(2014)年度、国際交流グループと語学センターを統合し、国際部を新設した。現在、10名体制で運営を行っており、平成28(2016)年度、学内横断的な組織である国際交流委員会を設立し、国際交流・グローバル化を推進する体制を整備した。

４．沿革

1895年（明治28年）	村崎サイ、私立裁縫専修学校創立　「女性の自立」を唱え、自立協同を建学の精神とする
1924年（大正13年）	徳島女子職業学校設置許可
1932年（昭和7年）	徳島女子職業学校経済科設置許可
1944年（昭和19年）	財団法人村崎女子商業学校認可
1947年（昭和22年）	財団法人村崎学園認可　村崎高等女学校と校名変更
1948年（昭和23年）	村崎女子高等学校と校名変更
1951年（昭和26年）	学校法人村崎学園認可
1958年（昭和33年）	徳島女子高等学校と校名変更
1961年（昭和36年）	徳島女子短期大学創立、家政科設置
1962年（昭和37年）	徳島女子短期大学家政科専修分離(家政専修、食物専修)
1963年（昭和38年）	徳島女子短期大学保育科設置
1966年（昭和41年）	徳島女子大学創立、家政学部家政学科設置
	徳島女子短期大学文科（国文専攻、英文専攻）、音楽科設置
1967年（昭和42年）	徳島女子大学家政学部家政学科専攻分離（家政学専攻、管理栄養士専攻）
1968年（昭和43年）	徳島女子大学音楽学部音楽学科設置
1970年（昭和45年）	徳島女子大学家政学部児童学科設置
	徳島女子短期大学商科設置
1972年（昭和47年）	徳島女子大学薬学部薬学科、衛生薬学科設置
	徳島女子大学を徳島文理大学と校名変更
1973年（昭和48年）	徳島女子短期大学を徳島文理大学短期大学と校名変更
	徳島文理大学附属幼稚園開設
1974年（昭和49年）	徳島文理大学短期大学家政科専攻分離(家政専攻、食物専攻)
1975年（昭和50年）	徳島文理大学音楽専攻科設置
	徳島文理大学附属中学校開設
1976年（昭和51年）	徳島女子高等学校を徳島文理高等学校と校名変更
	徳島文理大学附属中学校を徳島文理中学校と校名変更
1979年（昭和54年）	徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻[修士課程]設置
1980年（昭和55年）	徳島文理大学短期大学を徳島文理大学短期大学部と校名変更
1981年（昭和56年）	徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻[博士課程(後期)]設置

1983年（昭和58年）　香川キャンパスを開学
徳島文理大学文学部日本文学科、英米文学科設置（香川キャンパス）
1984年（昭和59年）　徳島文理小学校開設
1987年（昭和62年）　徳島文理大学短期大学部経営情報科設置（香川キャンパス）
1988年（昭和63年）　徳島文理大学短期大学部家政科を生活科学科（生活科学専攻、食物専攻）に名称変更
カナダ バンクーバー･コミュニティ･カレッジと姉妹校協定締結
1989年（平成元年）　徳島文理大学工学部機械電子工学科、情報システム工学科設置（香川キャンパス）
村崎サイメモリアルホール完成（香川キャンパス）
1992年（平成4年）　徳島文理大学文学部コミュニケーション学科設置（香川キャンパス）
徳島文理大学大学院文学研究科地域文化専攻[修士課程]設置（香川キャンパス）
1993年（平成5年）　徳島文理大学家政学専攻科設置
徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻[修士課程]設置（香川キャンパス）
学園創立100周年村崎凡人記念図書館、総合体育館完成（徳島キャンパス）
1994年（平成6年）　徳島文理大学家政学部生活環境情報学科設置
徳島文理大学大学院文学研究科地域文化専攻[博士課程(後期)]設置（香川キャンパス）
1995年（平成7年）　徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻[博士課程(後期)]設置
（香川キャンパス）
アメリカ マサチューセッツ工科大学〔MIT〕と大学間協定締結
カナダ ランガラ大学と姉妹校協定締結
1996年（平成8年）　徳島文理大学短期大学部文科英文専攻を英語文化専攻に名称変更
1997年（平成9年）　徳島文理大学大学院家政学研究科食物学専攻、生活環境情報学専攻[修士課程]設置
徳島文理大学短期大学部文科国文専攻を日本文学専攻に名称変更
1998年（平成10年）　徳島文理大学大学院家政学研究科児童学専攻（児童教育学ｺｰｽ、臨床心理学ｺｰｽ）
[修士課程]設置
徳島文理大学大学院薬学研究科医療薬学専攻[修士課程]設置
徳島文理大学家政学部人間発達学科設置
徳島文理大学文学部文化財学科設置
徳島文理大学工学部環境システム工学科設置
アメリカ インディアナ大学と学術交流協定締結
1999年（平成11年）　徳島文理大学大学院家政学研究科人間生活学専攻[博士課程(後期)]設置
ベトナム ハノイ国家大学と学術交流協定締結
徳島文理大学大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コース、臨床心理士養成の
指定を受ける
徳島文理大学短期大学部文科を改組し、言語コミュニケーション学科設置
2000年（平成12年）　徳島文理大学総合政策学部総合政策学科設置
学園創立110周年記念むらさきホール完成（徳島キャンパス）
オーストリア ウィーン国立音楽大学・アメリカ シェナンドー大学と姉妹校協定締結
2002年（平成14年）　徳島文理大学薬学部衛生薬学科を医療薬学科に名称変更
徳島文理大学家政学部家政学科管理栄養士専攻、生活環境情報学科を改組し、
食物栄養学科、生活情報学科、住居学科設置
徳島文理大学家政学部を人間生活学部に名称変更
徳島文理大学家政学部家政学科家政学専攻を人間生活学部人間生活学科に名称変更
2003年（平成15年）　徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科設置
徳島文理大学人間生活学部人間発達学科を心理学科に、文学部英米文学科を
英米言語文化学科に名称変更
香港大学と学術交流協定締結
徳島文理大学短期大学部経営情報科を地域ビジネス情報科に名称変更（香川キャンパス）
2004年（平成16年）　徳島文理大学工学部ナノ物質工学科設置（香川キャンパス）
徳島文理大学大学院総合政策研究科地域公共政策専攻[専門職学位課程]設置
徳島文理大学香川薬学部創薬学科設置（香川キャンパス）
韓国 檀国大學校と学術交流協定締結

2005年（平成17年）　徳島文理大学大学院香川薬学研究科創薬科学専攻［博士課程(前・後期)］設置
（香川キャンパス）
徳島文理大学家政学専攻科を人間生活学専攻科に名称変更
徳島文理大学大学院家政学研究科を人間生活学研究科に名称変更
徳島文理大学大学院人間生活学研究科児童学専攻臨床心理学コースを改組し、
心理学専攻[博士課程(前期)]設置
徳島文理大学大学院工学研究科ナノ物質工学専攻[博士課程(前・後期)]設置
香港城市大學と学術交流協定締結
スロベニア ヨーゼフ・ステファン国際大学院と学術交流協定締結
2006年（平成18年）　徳島文理大学人間生活学部生活情報学科をメディアデザイン学科に名称変更
徳島文理大学薬学部薬学科[4年制]、医療薬学科[4年制]を改組し、薬学科[6年制]設置
徳島文理大学香川薬学部創薬学科[4年制]を改組し、薬学科[6年制]、薬科学科[4年制]設置
イタリア パヴィア大学と学術交流協定締結
徳島文理大学短期大学部地域ビジネス情報科廃止
2007年（平成19年）　徳島文理大学工学部臨床工学科設置（香川キャンパス）
徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科を改組し、人間福祉学部人間福祉学科設置
2008年（平成20年）　徳島文理大学人間福祉学部を保健福祉学部に名称変更
徳島文理大学文学部英米言語文化学科を英語英米文化学科に、工学部機械電子工学科を
機械創造工学科に、情報システム工学科を電子情報工学科に名称変更（香川キャンパス）
徳島文理大学保健福祉学部看護学科設置
オーストラリア グリフィス大学と学術交流協定締結
2009年（平成21年）　徳島文理大学工学部を理工学部に名称変更（香川キャンパス）
徳島文理大学助産学専攻科設置
徳島文理大学人間生活学部住居学科を建築デザイン学科に名称変更
イギリス グロスターシャー大学と学術交流協定締結
台湾 中山醫學大學と学術交流協定締結
台湾 新民高級中學と高大連携校協定締結
2010年（平成22年）　徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科設置
徳島文理大学大学院香川薬学研究科薬科学専攻[修士課程]設置（香川キャンパス）
台湾 台北醫科大學・大仁科技大學・台南應用科技大學と学術交流協定締結
台湾 台北市立南湖高級中學・樹徳高級家事商業職業學校・新光高級中學と
高大連携校協定締結
2011年（平成23年）　台湾 嘉南薬理科技大學・義守大學・東海大學・国立台中教育大學・国立台湾師範大學と
学術交流協定締結
台湾 高雄市立三民高級中學と高大連携校協定締結
2012年（平成24年）　徳島文理大学保健福祉学部診療放射線学科設置、臨床工学科を理工学部から
保健福祉学部へ移行（香川キャンパス）
徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年課程)設置
台湾 中原大學・逢甲大學・開南大學と学術交流協定締結
2013年（平成25年）　中国 厦門大學と学術交流協定締結
韓国 水原大學校・水原科學大學と学術交流協定締結
台湾 康橋双語學校と高大連携校協定締結
2014年（平成26年）　徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻[修士課程]設置
韓国 安山江西高等學校と高大連携校協定締結
台湾 淡江大學と学術交流協定締結
2015年（平成27年）　中国 広東省外語芸術職業学院と学術交流協定締結
中国 北京語言大学附属大連高級中学と高大連携校協定締結
地域連携センター開設
2号館アカンサスホール完成（徳島キャンパス）
2016年（平成28年）　徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻〔博士課程(後期)〕設置
徳島文理大学大学院総合政策学研究科総合政策学専攻〔修士課程〕設置
2017年（平成29年）　徳島文理大学保健福祉学部口腔保健学科設置
2018年(平成30年)　ポーランド　ルブリン医科大学と学術交流協定締結
2019年(令和元年)　トレーニングセンター完成(徳島キャンパス)

５．設置学校等

理 事 長　　村崎　正人

徳島文理大学大学院　　学　長　　田村　禎通　　〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示１８０　　（徳島キャンパス）
〒769-2193 香川県さぬき市志度１３１４－１　（香川キャンパス）
薬学研究科（博士課程）・文学研究科（博士課程）・工学研究科（博士課程）
人間生活学研究科（博士課程）・看護学研究科（博士課程）・総合政策学研究科（修士課程）

徳島文理大学専攻科　　学　長　　田村　禎通　　〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示１８０
人間生活学専攻科・音楽専攻科・助産学専攻科

徳島文理大学　　学　長　　田村　禎通　　〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示１８０　　（徳島キャンパス）
〒769-2193 香川県さぬき市志度１３１４－１　（香川キャンパス）

人間生活学部	人間生活学科・食物栄養学科・児童学科・メディアデザイン学科 建築デザイン学科・心理学科
音楽学部	音楽学科
薬学部	薬学科
文学部	日本文学科・英語英米文化学科・文化財学科
理工学部	機械創造工学科・電子情報工学科・ナノ物質工学科
総合政策学部	総合政策学科
香川薬学部	薬学科
保健福祉学部	人間福祉学科・看護学科・理学療法学科・診療放射線学科・臨床工学科 口腔保健学科

徳島文理大学　　学　長　　田村　禎通　　〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示１８０
短期大学部　　生活科学科、保育科、言語コミュニケーション学科、音楽科、商科

徳島文理　　学校長　　竹内　薫　　〒770-8054 徳島市山城町西４丁目２０
中学校・高等学校

徳島文理小学校　　学校長　　長井　明福　　〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示６８－１０

徳島文理大学　　園　長　　西岡　純子　　〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示２
附属幼稚園

６．役員の概要

(1)定員数

理事	7
監事	2

(2)理事

氏　　名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
村崎　正人	昭和61年4月8日	常　勤	(学)村崎学園 理事長
田村　禎通	平成30年4月1日	常　勤	徳島文理大学 学長
村崎　和子	平成18年4月8日	常　勤	徳島文理大学 教授
中村　敏雄	平成31年4月18日	常　勤	(学)村崎学園 経理部長
竹﨑　克彦	平成22年4月8日	非常勤	元(株)百十四銀行 代表取締役頭取
高橋　　淳	平成18年4月8日	非常勤	(株)高橋商店 代表取締役
早雲　洋一	平成29年4月25日	常　勤	(学)村崎学園 事務局長

(3)監事

氏　　名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
細渓　英一	平成14年6月18日	非常勤	池田屋(有) 代表取締役
新見　延安	令和5年4月1日	常　勤	無　職

(4)役員賠償責任保険契約及び責任限定契約の状況

1) 役員賠償責任保険契約

令和2年4月1日から私大協役員賠償責任保険に加入した。

① 契約者（団体）　　日本私立大学協会

② 被保険者　　記名法人：学校法人村崎学園
個人被保険者：理事・監事

③ 補償内容　　・記名法人に関する補償
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
・役員（個人被保険者）に関する補償
法律上の損害賠償金、争訟費用等

④ 支払い対象とならない主な場合（免責事由）　法律違反に起因する対象事由等

⑤ 保険期間中総支払限度額　　３億円

2) 責任限定契約

私立学校法及び学校法人村崎学園寄附行為に基づき、令和2年6月1日及び令和3年11月1日に責任限定契約を締結した。

① 対象役員（非業務執行理事等）の氏名

・非業務執行理事（２名）：竹﨑克彦、高橋淳

・監事（２名）：細溪英一、新見延安

② 契約内容の概要

非業務執行理事等が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金１５万円と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする。

③ 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、非業務執行理事等がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の規定がある。

７．評議員の概要

(1)定員数

評議員	15

(2)評議員

氏　　名	就任年月日	主な現職等
村崎　正人	平成元年5月11日	(学) 村崎学園 理事長
竹内　　薫	平成21年4月1日	徳島文理中学校・高等学校 校長
長井　明福	平成30年4月1日	徳島文理小学校 校長
大石　憲子	平成29年5月13日	徳島文理大学附属幼稚園 園長
吉川　恵理	平成19年5月13日	(株)高砂家具 専務取締役
田村　祥祐	平成26年5月13日	田村薬品(有) 代表取締役
村崎　文彦	平成30年12月20日	徳島文理大学 教授
原井　俊典	平成31年4月1日	徳島文理大学短期大学部 教授
戸川　友美	令和3年5月13日	(学) 村崎学園 広報企画官
村崎　和子	平成3年4月1日	徳島文理大学 教授
竹﨑　克彦	平成22年5月13日	元(株)百十四銀行 代表取締役頭取
夛田羅勝義	平成22年5月13日	徳島文理大学 教授
早雲　洋一	平成25年4月1日	(学)村崎学園 事務局長
中村　敏雄	平成31年4月18日	(学)村崎学園 経理部長
佐々木和昭	令和3年5月13日	徳島文理大学 教授

８．教職員の概要

(1)教職員数

	法人本部	大学	短期大学部	その他	合計
本務教員	0	319	41	73	433
兼務教員	0	119	75	70	264
本務職員	1	108	8	9	126
兼務職員	0	40	7	0	47

（注）平均年齢は、本務教員 55.78 歳、本務職員 50.54 歳です。

Ⅱ.事業の概要

１．令和５年度の主な事業

(1)教育研究関係

1)公的外部資金の獲得

令和5(2023)年度の公的外部資金の獲得は、文部科学省科学研究費8,333万円(50件)となり全国の採択私立大学591校中99位であった。また、環境省406万円(1件)、日本医療研究開発機構260万円（1件）があり獲得額は合計8,999万円となった。

2)文部科学省の補助金の獲得

○私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費
（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））

文部科学省の私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））に「防災機能強化（徳島キャンパス：BYODを見越したWiFi環境の整備）」が採択された。
補助金：723万円

○私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費
（私立高等学校等施設高機能化整備費））

文部科学省の私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立高等学校等施設高機能化整備費）：校内LAN整備事業）に「徳島文理小学校」、「徳島文理中学校・徳島文理高等学校」が採択された。
補助金：160万円（徳島文理小学校）
補助金：287万円（徳島文理中学校・徳島文理高等学校）

○私立学校情報機器整備費補助金

文部科学省の私立学校情報機器整備費補助金（児童生徒1人１台端末の整備事業（義務教育段階））に「徳島文理小学校」、「徳島文理中学校」が採択された。
補助金：366万円（徳島文理小学校）
補助金：256万円（徳島文理中学校）

○学校保健特別対策事業費補助金
文部科学省の学校保健特別対策事業費補助金（感染症流行下における学校教育活動体制整備事業）に「徳島文理小学校・徳島文理中学校・徳島文理高等学校」が採択された。
補助金合計：169万円

(2)施設設備関係

1)徳島キャンパス

①令和5年12月　13号館の空調設備(熱源更新)改修工事を行った。
②令和6年１月　23号館の照明をLED化に更新改修工事を行った。
③令和6年３月　体育館２階アリーナ床の修繕改修工事を行った。

2)香川キャンパス

①令和6年2月 高松駅キャンパス建設予定地にて上棟式を執り行った。(建物完成予定 令和6年秋頃)

・設計・監理委託会社　株式会社教育施設研究所

・建物建築請負業者　西松建設株式会社　・建物設備請負業者　株式会社四電工)

【高松駅キャンパス完成予想パース】

【高松駅キャンパス　周辺マップ】

3)徳島文理中学・高等学校の環境整備

施設改修工事

①令和5年12月　文理中高体育館　南面・東面の外装修繕工事を行った。

②令和6年１月　文理中高グランドに照明設置工事を行った。

③令和6年 3月　文理中高　学生机・椅子400セットのリニューアル導入を行った。

4)徳島文理小学校の環境整備

施設改修工事

①令和6年3月　小学校各部屋の照明をＬＥＤ化に更新改修工事を行った。

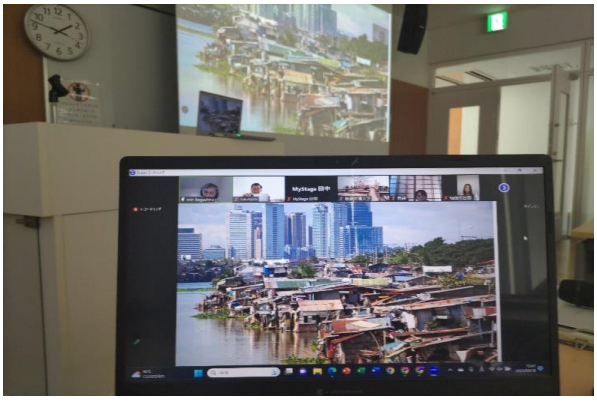
(3)国際交流

「中期計画・中期目標」に基づく「行動計画」にしたがって国際交流の推進に取り組んだ。行動計画では「留学生の受入れを促進するとともに、海外留学・研修制度／留学相談の充実強化を図ること」及び「留学生受入れを促進するため、留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制を整備すること」の2項目に取り組んだ。

前者のうち、人の移動を伴う交流事業(短期の海外研修の派遣・受入、新規の交換留学生の派遣・受入)は、新型コロナウィルス感染症の影響を受けつつも、可能な範囲で実施してきたが、同感染症の5類相当移行を受けて、派遣・受入ともに本格的に再開している。ただし、留学生(正規生)については、入学者数10名（前年度17名、前々年度16名)の入学者に留まった。これは、国内の日本語学校の在学者数の減少と定員管理方法が変更になった結果、都市部大学に進学しやすい環境になったことが、留学生の確保にも影響を与えているためと推定される。

令和3年度から導入したオンラインによる海外研修や交流については引き続き計画・実施した。具体的には、令和5年8月には台湾の協定校中山医学大学との学生とのオンライン交流「オンライン台湾留学」を令和5年9月に「SDGｓオンライン海外研修」を行い、参加促進を図るため、オンライン国際交流プログラム参加支援金を新設し、有料プログラムについては、1万円の支援金を支給することとした。

後者(留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制の整備)については、広東省外語芸術職業学院（3年制大学）の卒業年度の最後の半年を交換留学生として本学で学び、その間に同学科の編入試験を受験し選考を経て、本学に編入学し、1.5年の在学後、卒業するプログラム導入を決定した。また、10月には留学生（交換留学生を含む）を主対象とした文化・史跡研究を企画し、徳島県美波町で行われた日和佐八幡宮の例大祭に1泊2日で参加した。



２．教育研究の概要

(1)名称及び教育研究上の目的

1)大学院

自立協同の建学精神に基づき，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究め，又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い，もって，文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することのできる人物を育成することを目的とする。

研究科名	教育研究上の目的
薬学研究科（４年課程）	医療薬学分野と基礎薬学分野を融合した教育・研究を通じて，高度な専門的知識・技術を修得し，医療人としての広い視野と能力，高い倫理観，並びに医療現場で提起される臨床的課題の解決に向けた優れた研究能力を有する指導的臨床薬剤師及び医薬品開発の中心的な役割を担える研究者を養成することを目的とする。
文学研究科	文学，言語学，考古学，歴史学，文化史学，地理学などの教授研究を行い，地域文化の継承と創造的発展に寄与しうる探求心と学問的客観性を体得した人材を養成することを目的とする。
工学研究科	システム制御工学及びナノ物質工学におけるより高度の専門学術の教授研究を行い，課題研究を遂行し，工学進展に寄与する研究者及び社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
人間生活学研究科	人間生活学，食物学，生活環境情報学，児童学，心理学における各専門分野の深い学識と学際分野の幅広い知識を習得し，学芸の進歩に貢献できる創造性豊かな人材を養成することを目的とする。
看護学研究科	看護学における学術性及び高度な専門性を教授・探究し，先駆的な研究・教育・管理能力，卓越した看護実践能力をもつ人材を養成することを目的とする。
総合政策学研究科	法律，行政，経済，金融，企業経営に関する高度な研究や，政策実施現場での経験を通じ，地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

2)専攻科

精深な程度において特別の事項を教授し，その研究を指導することを目的とする。

専攻科名	専攻	教育研究上の目的
音楽専攻科	器楽専攻 声楽専攻	音楽の領域に関する専門的な実技を，精深な程度において教授研究し，社会の要請に応えられる人材を養成する。
人間生活学専攻科	人間生活学専攻 児童学専攻	生活科学及びその隣接領域の学問分野並びに児童学の分野を，精深な程度において教授研究し，社会の要請に応えられる人材を養成する。
助産学専攻科		周産期を担える専門職の実践教育を重視するとともに，助産学分野を精深な程度において教授研究し，女性のライフサイクルの総合的な助産ケアの能力を培った人材を養成する。

3)大学

教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り，自立協同の建学精神に基づき，広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し，人格の陶冶を図り，もって，教育研究の成果を社会に提供するとともに，文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。

学部名	各学部における教育研究上の目的	学科名	各学科における教育研究上の目的
人間生活学部	最先端の知識・技能を教授研究し，かつ人間と生活環境との共生を総合的・学際的に追究して，より豊かで幸せな人間生活の実現のために，広く社会貢献をなし得る人材の養成を目的とする。	人間生活学科	健康で安全・快適な人間生活の実現のため，人と生活について科学的，総合的な教授研究を行い，専門的知識・技能を持ち，地球社会に貢献できる自立した人間性豊かな人材を養成する。
		食物栄養学科	人々の健康を，食から支える栄養のスペシャリストとして，必要な専門的知識・技能を涵養し，社会に貢献できる他人に優しい管理栄養士・栄養士を養成する。
		児童学科	教育・保育に対する使命感，教育愛，倫理観に裏付けされた豊かな人間性を涵養するとともに，高度な専門的知識やすぐれた指導技術を学び，子どもたちと共感的に向かい合える総合的人間力を備えた指導者を養成する。
		メディアデザイン学科	デジタルデザイン技術を学び，インストラクショナルデザイナーに関する知識・技能を身につけ，さらに分析，企画，プロデュースする能力及びプレゼンテーション能力を備えた人材を養成する。
		建築デザイン学科	建築デザインに関する学術の総合的，学際的な教授研究を行い，快適で安全な住まい，美しい住環境を創ることをめざし，「建築デザイン」に関する基礎的，専門的な知識・技術を持った人間性豊かな人材を養成する。
		心理学科	心理学に関する学術の総合的，学際的な教授研究を行い，精神的危機をもたらす社会環境への適応に向けて，人間関係改善の相談支援並びに専門的サポートシステムの担い手となる人材を養成する。
音楽学部	音楽に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し，社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。	音楽学科	音楽の領域に関する学術の総合的，学際的な教授研究を行い，音楽の表現・鑑賞並びに音楽療法にかかわる専門的知識・技能を備え，文化の昂揚啓発に貢献する人材を養成する。
薬学部	薬学に関して深い知識・技能・態度をもつ有能な人材を養成するとともに，最高最新の科学を教授研究することを目的とする。	薬学科	薬剤師として必須の知識・技能・態度を習得するだけでなく，問題解決能力を有した薬剤師を養成する。
文学部	各時代の文学を通じ，日本文学・語学及び文化を精究し，英語を駆使できる国際人，先人が残した多様な文化遺産を現代に創造的に生かせる人材を養成することを目的とする。	日本文学科	古代から近現代に至る文学に関する学術の総合的，学際的な教授研究を行い，巨視的な観点を保ちつつ，その時代特有の思想や態度を精研するとともに，日本語学を体系的に学び，日本語の運用能力を身につけた人材を養成する。
		英語英米文化学科	英米言語文化にかかわる学術の総合的，学際的な教授研究を行い，英語の運用能力のスキルを高め，欧米の文化についての知識を幅広く獲得することにより，広く国際社会に貢献できる真の国際人を養成する。

文　学　部		文化財学科	先人が残した多様な文化遺産の調査・分析方法を教授研究し，専門技能・学識や探求心・実践力を身につけ，文化・歴史・風土に対する知識や感性を社会の創造・発展に向けて活用できる人材を養成する。
理工学部	「創造力のあるもの創り」，「情報通信」，「環境・バイオテクノロジー」，「ナノテクノロジー・材料」，「ライフサイエンス」をキーワードとして，理学的・工学的基礎のうえに，専門的学術を教授研究し，科学技術の進歩に柔軟に適応できる能力を身につけ，豊かな社会を創造する技術者を養成することを目的とする。	機械創造工学科	機械設計に必要な基礎知識を教授し，産業の基盤技術である「もの創り」の理解を深め，手法を会得し，創造性豊かな技術者を養成する。
		電子情報工学科	電気・電子工学及び情報工学に関する学術を教授研究し，高度情報社会の発展に不可欠なコンピュータシステムを理解し，自由に使いこなせる能力を身につけた情報システム技術者を養成する。
		ナノ物質工学科	応用化学・応用生物学・光工学分野における無機・有機・高分子・複合材料等，ナノ材料の基礎を教授し，資源・環境問題を認識したグローバルな視点から新素材開発に取り組み，豊富かつ高度なナノ構造解析機器と解析技術力を活用できる人材を養成する。
総合政策学部	法学・政治学・経済学・経営学・社会学など，社会科学の幅広い学問の教授研究を行い，広い視野を有するゼネラリストを養成することを目的とする。	総合政策学科	地域に立脚した総合政策を立案・推進する手法の総合的，学際的な教授研究を行い，複眼的志向を持つ問題解決型の人材を養成する。
香川薬学部	薬学に関する教育プログラムに基づき，薬の科学者としての技量・学識と医療倫理観を兼備した薬剤師及び探求心を有した薬の科学者を養成することを目的とする。	薬学科	基礎及び専門教育をとおして，薬にかかわる科学を教授研究し，病院・薬局での臨床実習をとおして，医療人としての自覚と技量を養い，探求心と人間性を兼備した質の高い薬剤師を養成する。
保健福祉学部	医療・保健・福祉に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し，社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。	人間福祉学科	社会福祉学に関する学術の総合的，学際的な教授研究を行い，社会福祉にかかわる幅広い専門的知識・技能，豊かな人間性を兼ね備え，地域の要請に応えられる社会福祉士，精神保健福祉士を養成する。
		看護学科	医療・保健衛生・健康の分野にかかわる学術の総合的，学際的な教授研究を行い，保健衛生・健康にかかわる専門的知識・技能，豊かな人間性を兼ね備え，社会の要請に応えられる看護師，保健師，助産師を養成する。
		理学療法学科	生命を尊重し，人間の尊厳と権利に関する深い洞察力を持ちながら，健康と福祉の向上に貢献できる質の高い理学療法士を養成する。
		診療放射線学科	放射線技術に関する諸科学・医学及び高度医療機器・設備等に精通し，チーム医療に貢献するとともに教育・行政，医療機器関係の企業等の諸分野において活躍できる診療放射線技師を養成する。
		臨床工学科	高度先端医療に対応できる工学的・医学的知識を教授研究し，臨床工学に係わる専門的知識・技能を身につけ，豊かな人間性を兼ね備え，高度先端医療に対応できる臨床工学技士を養成する。

学部名	各学部における教育研究上の目的	学科名	各学科における教育研究上の目的
保健福祉学部		口腔保健学科	人々の健康増進の担い手としての使命感を常に持ち，修得した口腔保健に関する高度な知識・技術及び問題解決能力を，保健・医療・福祉等の現場で多職種と連携して十分に発揮できる，福祉マインドを持った専門性の高い歯科衛生士を養成する。

4)短期大学部

教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り，自立協同の建学精神に基づき，一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し，中正穏健なる人格を涵養するとともに，我が国文化の高揚と地域の発展に貢献する有為な人材を育成することを目的とする。

学科名	教育研究上の目的	専攻	教育研究上の目的
生活科学科	生活，すなわち衣食住に関する学術を教授研究し，健康で快適な暮らし方に関わる専門的知識・技能を身につけ，時代や地域のニーズに応えられる人材を養成する。	生活科学専攻	衣食住における「ものづくり」をとおして，創造力，問題発見・解決能力を身につけ，「生きる情熱」と「素の考える力」のある人材を養成する。
		食物専攻	食生活に関する領域の学術を教授研究し，栄養士，栄養教諭，フードスペシャリスト，食品科学技術認定証の資格を取得し，食のスペシャリストを養成する。
保育科	次世代を担う子どもの成長と幸福を支援できる専門的知識・技能を習得し，保育を創造する能力，豊かな感性と総合的実践力を備えた人材を養成する。		
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	プレゼンテーション技術を身につけることを教育の核にし，日本語・英語の表現能力，情報機器の効果的な利用法を習得し，地域社会に貢献できる人材を養成する。		
音楽科	音楽学に関する学術を教授研究し，音楽にかかる専門的知識・技能，豊かな教養を備え，実社会に貢献できる人材を養成する。		
商科	ビジネスにかかわる学術を教授研究し，情報処理技能をはじめ，商業の領域にかかる専門的知識・技能，企業で生かせる豊かな教養，コミュニケーション力を備え，実社会に貢献できる人材を養成する。		

(2)教育研究上の基本となる組織並びに教員数

1)大学院

教員数には助手、実験助手、副手を含む　　令和5年5月1日現在

研究科名	専攻科名	課程	教員数
薬学研究科[4年制課程]	薬学専攻	博士課程	51(51)
文学研究科	地域文化専攻	博士前期課程	14(14)
		博士後期課程	9(9)
工学研究科	ｼｽﾃﾑ制御工学専攻	博士前期課程	13(13)
		博士後期課程	13(13)
	ﾅﾉ物質工学専攻	博士前期課程	9(9)
		博士後期課程	9(9)
人間生活学研究科	人間生活学専攻	博士後期課程	9(9)
	食物学専攻	博士前期課程	7(7)
	生活環境情報学専攻	博士前期課程	6(6)
	児童学専攻	博士前期課程	6(6)
	心理学専攻	博士前期課程	9(9)
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	17(17)
		博士後期課程	12(12)
総合政策学研究科	総合政策学専攻	修士課程	10(10)

() 内は兼務

2)専攻科

専攻科名	専攻	教員数
音楽専攻科	器楽専攻	8(8)
	声楽専攻	4(4)
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	7(7)
	児童学専攻	15(15)
助産学専攻科		6(3)

() 内は兼務

3)大学

学部名	学科名	教員数
一般総合科目		18
人間生活学部	人間生活学科	7
	食物栄養学科	16
	児童学科	16
	ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	6
	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	6
	心理学科	12
音楽学部	音楽学科	9
薬学部	薬学科	50
文学部	日本文学科	6
	英語英米文化学科	6
	文化財学科	5
理工学部	機械創造工学科	9
	電子情報工学科	9
	ﾅﾉ物質工学科	9
総合政策学部	総合政策学科	14
香川薬学部	薬学科	35
保健福祉学部	人間福祉学科	13
	看護学科	26
	理学療法学科	14
	診療放射線学科	12
	臨床工学科	10
	口腔保健学科	8

4)短期大学部

学科名	専攻	教員数
一般総合科目		4
生活科学科	生活科学専攻	4
	食物専攻	7
保育科		9
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		7
音楽科		4
商科		6

5)専任教員数

職位	徳島文理大学	徳島文理大学 短期大学部
教授	154	16
准教授	78	14
講師	59	6
助教	20	2
助手	2	0
実験助手	5	2
副手	1	1
計	319	41

6)教員1人当たりの学生数（ＳＴ比）

	ST比
徳島文理大学	12.6
徳島文理大学短期大学部	3.4

7)研究所他

生薬研究所
比較文化研究所
健康科学研究所
未来科学研究所
神経科学研究所
臨床心理相談室

徳島文理高等学校
徳島文理中学校
徳島文理小学校
徳島文理大学附属幼稚園

8)各教員の業績及び保有学位

本学のホームページをご参照ください。
http://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/edu-info/teacher/

9)シラバス

本学のホームページをご参照ください。
http://ss.pt.bunri-u.ac.jp/syllabus/

(3)学生に関する情報

1)入学者、在学者、卒業（修了）者等の状況

①大学院

（令和5年5月1日現在）

研究科名	専攻科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	進学者数	就職者数
薬学研究科	薬学専攻（博士後期）	6	1	24	12	3	0	3
文学研究科	地域文化専攻（博士前期）	6	0	12	4	0	0	0
	地域文化専攻（博士後期）	3	0	9	0	0	0	0
工学研究科	ｼｽﾃﾑ制御工学専攻（博士前期）	8	8	16	14	6	0	6
	ｼｽﾃﾑ制御工学専攻（博士後期）	4	0	12	2	0	0	0
	ﾅﾉ物質工学専攻（博士前期）	8	1	16	3	4	0	3
	ﾅﾉ物質工学専攻（博士後期）	4	0	12	0	0	0	0
人間生活学研究科	人間生活学専攻（博士後期）	3	1	9	3	0	0	0
	食物学専攻（博士前期）	6	2	12	4	1	0	1
	生活環境情報学専攻（博士前期）	6	0	12	0	0	0	0
	児童学専攻（博士前期）	8	2	16	3	2	0	1
	心理学専攻（博士前期）	10	8	20	19	9	0	9
看護学研究科	看護学専攻（博士前期）	7	2	14	6	3	0	3
	看護学専攻（博士後期）	3	0	9	2	2	0	2
総合政策学研究科	総合政策学専攻（修士課程）	5	5	10	6	3	0	2

②専攻科

専攻科名	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	進学者数	就職者数
音楽専攻科	器楽専攻	4	1	4	2	2	0	0
	声楽専攻	2	1	2	2	0	0	0
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	8	0	8	0	0	0	0
	児童学専攻	6	0	6	0	0	0	0
助産学専攻科		10	7	10	7	7	0	7

③大学

学部名	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数	就職者数
人間生活学部	人間生活学科	40	29	160	107	22	1	19
	食物栄養学科	90	47	360	207	74	1	64
	児童学科	100	46	400	231	61	3	56
	ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	30	29	120	98	29	0	22
	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	45	34	180	182	41	0	40
	心理学科	100	75	400	311	82	9	56
音楽学部	音楽学科	30	7	120	42	8	4	3
薬学部	薬学科	150	53	960	421	86	1	49
文学部	日本文学科	30	21	120	119	28	0	24
	英語英米文化学科	30	15	120	59	18	1	15
	文化財学科	30	23	120	109	25	0	22
理工学部	機械創造工学科	30	20	120	88	21	5	15
	電子情報工学科	40	38	160	180	35	3	30
	ナノ物質工学科	40	17	160	72	15	2	13
総合政策学部	総合政策学科	100	80	400	326	90	0	77
香川薬学部	薬学科	90	31	540	235	41	0	31
保健福祉学部	人間福祉学科	30	15	120	58	18	1	17
	看護学科	100	82	400	353	100	5	95
	理学療法学科	70	77	280	276	58	0	53
	診療放射線学科	60	73	240	286	45	0	34
	臨床工学科	45	42	180	149	31	1	26
	口腔保健学科	40	15	160	57	9	0	9

④短期大学部

学科名	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数	就職者数
生活科学科	生活科学専攻	40	15	80	22	9	2	5
	食物専攻	40	7	80	19	16	2	14
保育科		70	18	140	33	14	0	14
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		20	3	40	14	14	1	10
音楽科		20	0	40	4	3	2	1
商科		40	20	80	48	20	2	14

2)社会人受入

（令和5年5月1日現在）

大学	正規学生	19
	科目等履修生	2
	専攻科生	1
短期大学部		0

3)収容定員充足率

（令和5年5月1日現在）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
大学	73.33%	73.73%	71.69%	70.84%	68.14%
短期大学部	43.91%	38.70%	35.87%	33.26%	30.43%

(4)学修の成果に係る評価及び卒業及び修了の認定に当たっての基準

1)単位の認定（履修要綱）

①授業科目の単位は、授業時数の3分の2以上出席履修し、かつ試験に合格したときに認定される。試験は必ずしも筆記試験によらないで、演習成績、学修態度、報告書などをもってその全部又は一部に代えることができる。

②授業科目の単位は、45時間の学修をもって1単位とする。ただし、この学修時間には教室外における自学自習も含めて計算する。その割合は授業形式によって異なり次のように定められている。したがって残余の時間は自宅、図書館などにおける自主学習にあてねばならない。

・講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
・実験・実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
・芸術等の分野における個人指導による実技の単位については、別に定めるところによる。

2)成績評価（履修要綱）

①各科目の学期末成績は、100点法によって評価し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

・学生に通知する成績は100点法で示される。
・学外に発行する成績証明書については、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、59点以下は記載しない。

②学修の成果を示す指標として、学期末に通知する成績通知書に「当期GPA」「年間GPA」「累計GPA」を記載する。

・成績評価を右の表に基づきGP（グレード・ポイント）に変換し、GPに当該科目の単位数を乗じて、その合計を総履修単位数で除した値をGPAとする。

・GPAに算入する科目は卒業に必要な単位とする。

・GPAの算出方法は下記のとおりとする。

評　価	得　点	GP
優	90～100	4
	80～89	3
良	70～79	2
可	60～69	1
不認定/再試	0～59	0
追試/保留/取消/通年科目の途中評価	対象外	

$$\text{当期GPA}=\frac{\left\{(\text{当該学期のGPA算入科目のうち履修登録した科目のGP})\times(\text{当該科目の単位数})\right\}\ \text{の合計}}{\text{当該学期のGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{年間GPA}=\frac{\left\{(\text{当該年度のGPA算入科目のうち履修登録した科目のGP})\times(\text{当該科目の単位数})\right\}\ \text{の合計}}{\text{当該年度のGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{累積GPA}=\frac{\left\{(\text{当該学期までのGPA算入科目のうち履修登録した科目のGP})\times(\text{当該科目の単位数})\right\}\ \text{の合計}}{\text{当該学期までのGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

3)修了の認定に当たっての基準

①研究科

研　究　科	専攻	課程	修業年限(年)	必要修得単位数(単位以上)	科目区分ごとの修得単位数(単位以上)		修得可能な学位及び専攻分野の名称	備考
					必修	選択		
薬学研究科	薬　学　専　攻	博士課程	4	34	16	18	博　士（薬学）	博士前期課程及び修士課程は、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 博士後期課程、4年制博士課程は、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。
文学研究科	地域文化専攻	博士前期	2	32	0	32	修　士（文学）	
		博士後期	3	8	8	0	博　士（文学）	
工学研究科	ｼｽﾃﾑ制御工学専攻	博士前期	2	30	12	18	修　士（工学）	
		博士後期	3	8	0	8	博　士（工学）	
	ﾅﾉ物質工学専攻	博士前期	2	30	16	14	修　士（工学）	
		博士後期	3	8	8	0	博　士（工学）	
人間生活学研究科	食物学専攻	博士前期	2	30	14	16	修　士（食物学）	
	生活環境情報学専攻	博士前期	2	30	8	22	修士（生活環境情報学）	
	児童学専攻	博士前期	2	30	8	22	修　士（児童学）	
	心理学専攻	博士前期	2	34	24	10	修　士（心理学）	
	人間生活学専攻	博士後期	3	10	0	10	博　士（学術）	
看護学研究科	看護学専攻	博士前期	2	32	6	26	修　士（看護学）	
		博士後期	3	18	12	6	博　士（看護学）	
総合政策学研究科	総合政策学専攻	修　士	2	30	10	20	修　士（総合政策学）	

②専攻科

専攻科		修業年限(年)	必要修得単位数(単位以上)	科目区分ごとの修得単位数(単位以上)	
				必修	選択
音楽専攻科	器楽専攻	1	30	12	18
	声楽専攻	1	30	26	4
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	1	30	6	24
	児童学専攻	1	30	10	20
助産学専攻科		1	36	36	0

4)卒業の認定に当たっての基準

①大学

学部	学科	修業年限(年)	必要修得単位数(単位以上)	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な学位及び専攻分野の名称
				一般総合科目(単位以上)		専門教科科目(単位以上)		
				必修	選択	必修	選択	
人間生活学部	人間生活学科	4	124	14	12	22	76	学士(人間生活学)
	食物栄養学科	4	124	14	12	30	68	学士(食物栄養学)
	児童学科	4	124	14	12	6	92	学士(児童学)
	ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	4	124	14	12	8	90	学士(情報)
	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	4	124	14	12	44	54	学士(住居学)
	心理学科	4	124	14	12	6	92	学士(心理学)
音楽学部	音楽学科							
	ピアノ・声楽・管弦打楽器・音楽ｸﾘｴｲﾀｰ&ｱｰﾃｨｽﾄｺｰｽ	4	124	14	12	38	60	学士(芸術学)
	音楽療法コース	4	124	14	12	44	54	
薬学部	薬学科	6	186	17	2	161	6	学士(薬学)
文学部	日本文学科	4	124	14	12	28	70	学士(文学)
	英語英米文化学科	4	124	14	12	26	72	学士(文学)
	文化財学科	4	124	14	10	18	82	学士(文学)
理工学部	機械創造工学科	4	124	14	12	40	58	学士(工学)
	電子情報工学科	4	124	14	12	43	55	学士(工学)
	ナノ物質工学科	4	124	14	12	39	59	学士(理工学)
総合政策学部	総合政策学科	4	124	14	12	14	84	学士(総合政策学)
香川薬学部	薬学科	6	186	13	6	159.5	7.5	学士(薬学)
保健福祉学部	人間福祉学科	4	124	14	12	48	50	学士(社会福祉学)
	看護学科	4	127	14	0	108	5	学士(看護学)
	理学療法学科	4	124	14	0	109	1	学士(理学療法学)
	診療放射線学科	4	124	14	2	107	1	学士(放射線学)
	臨床工学科	4	124	12	8	91	13	学士(臨床工学)
	口腔保健学科	4	124	14	6	91	13	学士(口腔保健学)

②短期大学部

学科	専攻	修業年限(年)	必要修得単位数(単位以上)	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な学位及び専攻分野の名称
				一般総合科目(単位以上)		専門教科科目(単位以上)		
				必修	選択	必修	選択	
生活科学科	生活科学専攻	2	62	8	0	2	52	短期大学士(生活科学)
	食物専攻	2	62	6	2	36	18	短期大学士(食物)
保育科		2	62	6	2	23	31	短期大学士(保育)
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		2	62	8	0	4	50	短期大学士(言語文化)
音楽科		2	62	8	0	2	52	短期大学士(音楽)
商科		2	62	8	0	10	44	短期大学士(商科)

(5)校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境

1)徳島キャンパス

【学部等名】

大学院	専攻科	大学	短期大学部
薬学研究科	音楽専攻科	人間生活学部	生活科学科
人間生活学研究科	人間生活学専攻科	音楽学部	保育科
看護学研究科	助産学専攻科	薬学部	言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科
総合政策学研究科		総合政策学部	音楽科
		保健福祉学部	商科

【所在地】

徳島県徳島市山城町西浜傍示180番地

【主な交通手段】

ＪＲ	徳島駅下車
スクールバス	スクールバス発着場から本学まで約15分
路線バス	JR徳島駅前から徳島市バス山城町行き「徳島文理大学前」下車徒歩1分
タクシー	JR徳島駅前から約10分

【主要施設】

施設名・号館	主要用途
1号館	管理棟・人間生活学部研究棟（調理室、実習室、実験室、共同機器センター、チャレンジラボ）、健康科学研究所
2号館	アカンサスホール（大講義堂）、保健センター、地域連携センター
3号館	保健福祉学部棟（看護学科実習室）
5号館	音楽学部棟、学園創立110周年記念むらさきﾎｰﾙ(音楽ﾎｰﾙ)、児童学科ﾋﾟｱﾉﾚｯｽﾝ室
6号館	総合体育館（卓球場、柔・剣道場、トレーニングルーム、アリーナ）
7号館	研修ｾﾝﾀｰ、学生食堂、ﾚｽﾄﾗﾝﾊﾟｳｾﾞ、売店、部室
8号館	トレーニングセンター
9号館	人間生活学部棟
10号館	附属幼稚園、教育実習室
13号館	薬学部実験棟
14号館	文芸棟、給食経営管理実習室、保育科ﾋﾟｱﾉﾚｯｽﾝ室
21号館	薬学部研究棟(NMR測定室、国際会議室、生薬研究所、ハイテクリサーチセンター、情報処理センター)
23号館	総合政策学部棟（プレゼンテーション室）
24号館	薬学部研究棟(機器分析センター、RI実験センター、電子顕微鏡室、共焦点レーザー顕微鏡室、動物実験センター)
25号館	メディアセンター(情報センター、学生部、就職支援部、全学共通教育センター、メディアラボ、語学センター、コンビニエンスストア)
図書館	村崎凡人記念室、ラーニングコモンズ、ブラウジングコーナー、ＡＶホール、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習室、書庫、茶室
学生寮	寄宿舎
ｴﾈﾙｷﾞｰｾﾝﾀｰ	省ｴﾈﾙｷﾞｰ発電装置
弓道場	弓道練習場
運動場	野球場、サッカー場
ﾃﾆｽｺｰﾄ	オムニコート
実習支援ｾﾝﾀｰ	臨地実習施設
クラブハウス	テニスコート、グランド利用学生専用

【課外活動の状況】

体育系クラブ	剣道部、弓道部、硬式テニス部、ソフトテニス部、準硬式野球部、サッカー部（男・女）、バスケットボール部（男・女）、バレーボール部（男・女）、卓球部、ダンス部、日本拳法部、バドミントン部、フットサル部、陸上競技部、空手道部
文化系クラブ	HOT STAFF部、うたおは部、人形浄瑠璃部、軽音楽部、ｺﾐｯｸｱｰﾄ部、茶道部、写真部、手話部'Friends'、書道部、箏曲部、放送部'ﾅﾅｲﾛ☆ｱﾝﾃﾅ'、和太鼓部 '億'、BBS部、とくしま思春期ピアサークル部
郷土芸能振興サークル	ｴｲｻｰ団体'ﾆﾗｲｶﾅｲ'、徳島文理大学連（阿波踊り）、よさこい 'TOSAMONO'
同好会・サークル	羽球同好会、籠球同好会、心理サークル'KOKORO'、天文同好会、ハンドベルクワイア、バレーボールサークル、薬学部テニスサークル、サッカー・フットサルサークル、トレーニングサークル、地域防災研究会、La Vie en rose、LGBTQサークル

2)香川キャンパス

【学部等名】

大学院	大学
文学研究科 工学研究科	文学部 理工学部 香川薬学部 保健福祉学部

【所在地】

香川県さぬき市志度314-1

【主な交通手段】

ＪＲ	志度駅下車徒歩25分
路線バス	JR志度駅からさぬき市コミュニティバス小田線で「徳島文理大学」下車
タクシー	JR志度駅前から約5分

【主要施設】

施設名・号館	主要用途
3号館	管理棟
4号館	学生サポートセンター、（茶室、コンビニエンスストア、部室）
5号館	講義棟
6号館	研修センター（学生食堂）
7号館	中央研究棟（文学研究棟、比較文化研究所、保健センター、国際会議室）
8号館	講義棟（実習室）
9号館	体育館
10号館	理工学研究棟（中央機器室、未来科学研究所）
11号館	理工学部・保健福祉学部実習棟（実習工場、コンピュータ室、医工学シミュレーションセンター）
12号館	村崎サイメモリアルホール（音楽ホール）
13号館	講義棟
14号館	講義棟
15号館	保健福祉学部研究棟（X線CT室、MRI、メディカルシミュレーション室）
16号館	リサーチ アンド メディア ライブラリー(図書館、メディアセンター、語学センター、エネルギーセンター、110周年記念室)
17号館	理工学部・保健福祉学部研究棟
18号館	理工学研究棟（チャレンジラボ・中央機器室）
20号館	香川薬学部研究棟（中央機器室、実習室、神経科学研究所）
21号館	香川薬学部実習棟（実験動物研究施設、ＲＩ実験施設、実習室）
運動場	野球場、サッカー場
ﾃﾆｽｺｰﾄ	オムニコート

【課外活動の状況】

体育系クラブ	弓道部、男女硬式テニス部、トレーニング部、男女ソフトテニス部、バスケットボール部、 バドミントン部、総合競技部（陸上・水泳）、卓球部、バレーボール部、ダンス部、軟式野球部
文化系クラブ	軽音フリーミュージック部、茶道部、書道部、文芸部、パソコン・TRPG部、漫画研究部、 レインボーの会（ボランティア）、ロボットクラブ、アニメ研究部
同好会・サークル	フットサルサークル
愛好会	写真愛好会

(6)学生納付金に関すること

（単位：円）

	学部・研究科等名		入学金	授業料	施設設備拡充費	実習図書費	その他	合計
大学院	薬学研究科	博士課程	※2 200,000	600,000	※1 ※2 200,000	-	※3 ※4 37,300	1,037,300
	人間生活学研究科	博士前期課程	200,000	450,000	※1 200,000	-	※3 37,300	887,300
		博士後期課程	※2 200,000	450,000	※2 200,000	-	※4 37,300	887,300
	看護学研究科	博士前期課程	200,000	600,000	※1 200,000	-	※3 37,300	1,037,300
		博士後期課程	※2 200,000	600,000	※2 200,000	-	※4 37,300	1,037,300
	工学研究科	博士前期課程	200,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	937,300
		博士後期課程	※2 200,000	500,000	※2 200,000	-	※4 37,300	937,300
	文学研究科	博士前期課程	200,000	300,000	※1 200,000	-	※3 37,300	737,300
		博士後期課程	※2 200,000	300,000	※2 200,000	-	※4 37,300	737,300
	総合政策学研究科	修士課程	200,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	937,300
専攻科	音楽専攻科		250,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	987,300
	人間生活学専攻科		200,000	400,000	※1 200,000	-	※3 37,300	837,300
	助産学専攻科		200,000	800,000	※1 300,000	200,000	※3 37,300	1,537,300
大学	薬学部	薬学科	400,000	1,120,000	500,000	250,000	37,300	2,307,300
	人間生活学部	食物栄養学科	280,000	670,000	200,000	100,000	89,300	1,339,300
		児童学科	280,000	670,000	200,000	100,000	89,300	1,339,300
		心理学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
		メディアデザイン学科	280,000	670,000	200,000	120,000	89,300	1,359,300
		建築デザイン学科	280,000	670,000	200,000	120,000	89,300	1,359,300
		人間生活学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
	保健福祉学部	口腔保健学科	280,000	850,000	300,000	200,000	37,300	1,667,300
		理学療法学科	280,000	850,000	300,000	200,000	37,300	1,667,300
		看護学科	280,000	920,000	300,000	200,000	37,300	1,737,300
		人間福祉学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
	総合政策学部	総合政策学科	280,000	700,000	200,000	120,000	89,300	1,389,300
	音楽学部	音楽学科	300,000	1,110,000	500,000	170,000	37,300	2,117,300
	香川薬学部	薬学科	400,000	1,120,000	500,000	250,000	37,300	2,307,300
	保健福祉学部	診療放射線学科	280,000	920,000	300,000	200,000	37,300	1,737,300
		臨床工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
	理工学部	ナノ物質工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
		機械創造工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
		電子情報工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
	文学部	文化財学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
		日本文学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
		英語英米文化学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
短大	商科		200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	言語コミュニケーション学科		200,000	630,000	200,000	100,000	37,300	1,167,300
	生活科学科	（生活科学専攻）	200,000	630,000	200,000	100,000	37,300	1,167,300
	生活科学科	（食物専攻）	200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	保育科		200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	音楽科		250,000	860,000	300,000	130,000	37,300	1,577,300

※1本学大学卒業生は免除

※2本学大学院博士前期課程・修士課程修了者は免除

※3本学大学卒業生は研修部入会金（1,000円）を免除

※4本学大学院博士前期課程・修士課程修了者研修部入会金（1,000円）を免除

○入学検定料は15,000～30,000円

○人間生活学部食物栄養学科・児童学科・メディアデザイン学科・建築デザイン学科及び総合政策学部総合政策学科は学科特別費として、前・後期 各26,000円を納付する。

○短期大学部商科・生活科学科食物専攻及び保育科は学科特別費として、前・後期 各26,000円を納付する。

○学費等の金額は卒業年度まで据え置き

【入学手続き時に納める金額】

「入学金」と「学費（半期）」及び「その他の納付金」の合計となる。なお、納付された「入学金」は理由を問わず返還しない。

【入学手続き等における分割納入について】

公募制推薦入試Ⅰ･Ⅱ期及び大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期ついては入学金と学費等の分割納入ができる。その他の入試区分では、一括納入を原則とする。

【学費等の転用について】

入学手続き完了後に、その後の入学試験で合格し、改めて入学手続きをする場合は、すでに納入されている入学金・学費等のうち、入学金以外を、振り替えることができる。ただし、差額がある場合は、追加徴収する。

振替を希望する場合は、振替手続き書類にて行う。

【入学手続き完了後の入学辞退について】

本学への入学手続き（A 入学金納入、B 入学手続き書類提出、C 学費等納入）を完了した後に、入学を辞退する場合は、2023年3月31日(金)までに、本学が定める手続きにより申し出た場合に限り、入学金以外の納付金を返還する。学費等を納入しない場合、入学の意思がないものと判断するため、入学辞退手続きの必要はない。

(7)学生支援と奨学金に関すること

1)学生支援組織

項目	組織名	機能
就職支援	就職支援部 就職支援委員会 インターンシップ推進委員会 教員養成対策室 全学共通教育センター	1.組織 本学では、創立以来「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を育成することを目標に、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしている。学生の就職支援については、学長を委員長に、各学部代表委員からなる就職支援委員会とインターンシップ推進委員会を連携軸に、各学部学科担任・チューターをはじめ、就職支援部、全学共通教育センター、教員養成対策室が連携し、全学を挙げての支援を行っている。 2.取組みの概要 本学では特色ある学科で取得した資格や知識を生かした就職に向けた支援を充実させるため、一般企業・公務員・教員に分けた支援を行い、全体をとおした支援は就職支援部で実施している。 また、保護者に対しては、夏季休業中を中心に全国16カ所で開催の保護者会で担任及び就職支援部の就職相談を実施している。 採用活動のオンライン化にいち早く対応するなど、急激に変化する就職活動に即した柔軟な取り組みを推進している。 (1)一般企業対策支援 各種支援策を就職支援部が中心となって実施している。一人一人の学生のニーズや各学科の特質に対応するため、学科担当を決め入学時から継続したきめ細やかなサポートを行っている。この他、学生の就職先を中心に新たな企業も含めた事業所訪問・求人開拓等の支援を行っている。 また、卒業後も随時の就職相談に対応したり、卒業後1年間の学内就職支援システムの学外からの利用の便宜も図っている。 ○キャリア推進プログラム ・全学部の1年生全員を対象にキャリアガイダンスを実施。 ・インターンシップガイダンスによるインターンシップ参加の推進。 ・インターンシップ推進委員会による各学科におけるインターンシップ推進。 ○就職支援プログラム ・就職ガイダンス、独自作成の「就職活動の手引き」による学科別就職説明会を、卒業前年度の学生に対し年3回実施。採用活動の早期化に対応して2年生にも拡大して実施。 ・就職セミナーの実施(就活サイト登録と活用、インターンシップ対策、企業研究と就職情報の収集、就職活動のマナー、自己分析、自己PR文の作成、SPI・筆記試験対策、論作文対策、応募書類の書き方、面接試験対策、模擬面接演習、集団討論対策、企業説明会への参加、就活直前対策、後期スタートアップ講座、2年生対象キャリアガイダンス) ・就職試験の内容に対応した就職試験対策集中講座を年2回実施 ・就職常識・能力の模擬試験の実施、適性検査の実施 ・就職状況調査を年3回実施 ・就活ツアー(大阪)の実施と事前説明会の実施 ・学生と企業等との交流会の実施と事前説明会の実施 ・個別の企業説明会の実施 ・学内就職支援システム及び求人受付NAVIによる就職情報のインターネット提供 ・いつでも対応する個別面談による常時相談の実施と面接・マナー・書類添削指導、カウンセリング (2)公務員対策支援 全学共通教育センターが「公務員試験対策講座」を開講し、筆記試験対策をはじめ、自治体ごとの詳細な情報を提供するとともに、随時、相談に応じている。令和5年度からは、毎回の講座を香川キャンパスへライブ配信しており、香川キャンパスの学生もオンライン参加できるようになっている。また、就職支援部で公務員模擬試験の実施や各種公務員説明会の開催、公務員就職体験発表会等を行っている。 (3)教員・保育士対策支援 全学共通教育センターが採用試験対策のための「教員・幼保養成対策講座」や教職ガイダンス・各種セミナーを開講し、筆記試験や面接、模擬授業等の指導を行うとともに、模擬試験を実施している。また、多様化する採用試験についての情報提供や個別相談、面接や場面指導、模擬授業等の個別指導を随時行っている。さらに、次年度対策として、本学OBの現役教員や保育士を招いての「パネルディスカッション」や「教員・幼保合格体験発表会・交流会」を開催している。
アルバイト	学生支援課	アルバイトは学生にふさわしい職種を選び、学業に支障のないようにしている。 1.手続き アルバイト求人票でアルバイトの申込みがあれば、内容を検討して受け付け・掲示をし、学生に申込みをさせている。(派遣会社からの受付はしていない) 2.留意点 下記のようなアルバイトは禁止している。 ・身体的危険を伴うもの。 ・風俗営業に類するもの。 ・遊興の場所(パチンコ、ゲームセンター等)に類するもの。 ・学業に差し支える時間帯に及ぶもの。 ・その他学生として適当でないと思われるもの。

項目	組織名	機能
修学支援	学生支援課	1.修学上の相談(履修相談等)
生活支援		1.生活相談　2.下宿・アパートの相談・紹介
経済支援		1.奨学金　2.授業料の分納・延納　3.アルバイトの紹介
ボランティア活動		1.情報発信(ボランティアパスポート含む)　2.企画
保健・衛生	保健センター	1.各種健康診断　2.健康相談　3.救急・応急処置 4.健康の保持増進及び予防啓発　5.健康診断書の発行 6.各種調査・報告　7.学研災・付帯賠償保険への加入および保険金請求
メンタルヘルス		1.精神疾患の相談　2.対人関係の相談　3.心理・性格の相談 4.修学上の相談　5.発達障害の相談　6.ハラスメント相談 7.保護者からの相談　8.学生に関する教職員の相談　9.専門機関への紹介

2)奨学金

種類	条件及び給付金額	申込み
就学支援奨学金	全学部・学科の本学在学生の1年生で経済的に修学困難な者でかつ当該学年の前期の成績が優秀な学生。当該年次授業料の半額を給付する。	所定の申請書及び家庭の所得証明書を添付のうえ学生支援課長に提出。
村崎サイ奨学金	全学部・学科の本学学生で学費担当者の事故(死亡等)により修学困難となった学生で成績優秀にして学業継続の意志のある学生。当該年次1ケ年の授業料相当額を給付する。	担任の奨学金給付申請書に本人の奨学金給付願、戸籍謄本、家庭の所得証明書を添付のうえ学生支援課長に提出。
徳島文理大学就学奨学金	本学への入学、編入学生及び在学生で徳島文理大学提携教育ローンを利用している学生。申請年度より最短修学期間まで利息相当分(含む保証料)を奨学金として給付する。	保護者と連名して給付申請書を学生支援課長に提出。
創立130周年記念徳島文理大学特待生選考試験(薬学部・香川薬学部、音楽学部・短期大学部音楽科を除く)	本学に入学する学力優秀でかつ経済的要件を 満たす志願者に対して、大学で100万円(4年間)、短期大学部で50万円(2年間)給付する。	一般入試Ⅰ期A日程出願時
薬学部・香川薬学部特待生選考試験	薬学部・香川薬学部で入学試験の成績優秀者に国立大学に準ずる学費との差額分を給付する。	公募制推薦入試Ⅰ期、一般入試Ⅰ期A日程または、大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期の受験者全てが対象
兄弟姉妹在籍入学サポート	新年度入学生(大学・短期大学部)で、本学の大学及び短期大学部に兄弟姉妹が在籍している者に対して、入学後に10万円を給付する。 兄弟姉妹の同時入学者も対象。	入学後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課長に提出。
スポーツ・音楽特待生	スポーツ・音楽特待生の入学者に対して、大学で100万円(4年間)、短期大学部で50万円(2年間)を上限として給付する。	スポーツ・音楽特待生の入学者が対象
短期大学部専願入試入学サポート	短期大学部の専願(総合型選抜、指定校制推薦, 資格利用)入試の入学者に対して、入学後に10万円を給付する。	合格通知受取後に所定の申請書を添付のうえ、本学に提出。
アカンサス会奨学金	本学卒業生で、アカンサス会員(本学同窓会会員)のお子様に対して、入学後に10万円を給付する。	入学後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課に提出。
短期大学部「ミライのわたし」予約型応援奨学金	本学での学びに強い意欲を持ち、「自立協同」の建学精神に基づき「ミライのわたし」の実現をめざす学生を応援する制度を新設。大学は80万円(4年間)、短期大学部は40万円(2年間)を給付する。	総合型選抜入試Ⅰ期のエントリー時に「ミライのわたし」設計シートを提出し入試面接を受け内定した者で、入学手続きを行った者が対象。 令和5年度より、大学においても同様の奨学金制度を80万円(4年間)を新設する。

３．３ポリシー

(1)卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の教育課程において，厳格な成績評価のもと，所定の単位を修得し，次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。

①「自立協同」の精神を基本に，幅広い教養と専門的知識を身につけ，健全な価値観と倫理観をもった良き市民として，幸せな人生を追求することができること。

②修得した知識と技能を活用しながら他者と議論し，問題の解決に取り組み，それを評価して次の思考と行動に活かしていくことができること。

③新しい知識や経験に関心をもつとともに，立案した企画について，目的達成を目指し，家庭・地域・社会における協働を通じ，実践していくことができること。

【大学院】

研究科名	専攻名	博士前期課程	博士後期課程
薬学研究科（4年課程）	薬学専攻		医療の高度化により，医療現場における本博士課程修了者の活躍の場は広く，本研究科独自の研究に基づく専門教育システムの成果である高度な知識と問題解決能力を生かし，医薬品の研究・開発など製薬企業や関連業界で活躍する専門家となることが期待されます。例として，高度な専門的技量を備えた指導的役割を果たせる薬剤師，地域医療の先導的役割を担う薬剤師，治験コーディネーター，薬学分野の大学教員，製薬企業の医薬品研究・開発従事者及び創薬研究者，食品・栄養関連分野の研究者・教育者となることなどが挙げられます。
文学研究科	地域文化専攻	歴史学，地理学，国語学，英語学，日本文学，英文学などの専攻分野を研究し，精深な学識と研究能力を体得している。	左記専攻分野について，研究活動を行うことができる高度な研究能力及びその基礎となる学問的客観性を養い，学術的に地域社会の創造的発展に寄与しうる豊かな学識を体得している。
工学研究科	システム制御工学専攻	1.「機械工学」，「電気・電子工学」，「情報工学」，「制御工学」，「システム工学」の分野において，問題点の抽出から得られた成果の文書化までを総体として取り組むことの必要性・重要性が十分に体得できるようになる。 2. 科学や技術が社会に及ぼす影響を理解しつつ，身につけた問題解決能力を通じて社会の発展に貢献できるようになる。	1.「機械工学」，「電気・電子工学」，「情報工学」，「制御工学」，「システム工学」の複合分野における高度な専門知識を持ち，その分野の研究成果を正確に評価理解できるようになる。 2.「機械工学」，「電気・電子工学」，「情報工学」，「制御工学」，「システム工学」の複合分野において，独創的な技術を創出することができるようになる。
	ナノ物質工学専攻	1. ナノ物質工学に対する基礎知識を背景に，ナノ物質工学の最先端の成果を理解できるようになる。 2. ナノ物質工学の諸課題を積極的に見出し，その内容を論理的に検討・説明できるようになる。 3. ナノ物質工学の諸課題を抽出分析し，自立協同の精神のもとに身につけた問題解決能力により，高度な技術者として社会に貢献できるようになる。	1. ナノ物質工学の高度な専門知識を持ち，最先端の研究成果を正確に評価理解できるようになる。 2. ナノ物質工学の諸課題を積極的に見出し，的確に対処し，解決法を粘り強く探求できるようになる。 3. ナノ物質工学の最先端の課題を抽出分析し，新しい考えに基づいて，技術を創出できるようになる。
人間生活学研究科	人間生活学専攻		1. 人間生活学（臨床人間学・食生活学・生活環境学）の専門分野において博士の学位を取得できる研究者であることを，学識と能力と研究成果の発表により証明することができる。 2. 自立して研究活動を行い，創造性豊かな研究を成就し，専門分野において社会に貢献することができる。
	・食物学専攻 ・生活環境情報学専攻 ・児童学専攻 ・心理学専攻（臨床心理学コース）	1. 人間生活学（食物学・生活環境情報学・児童学・心理学）に関する学術の理論と応用を深く究め，学位を取得するに足る研究能力及び実践力をそなえている。 2. 人間生活学の高度な専門知識と問題解決能力を生かし，文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することができる。	

看護学研究科	看護学専攻	看護学研究科に所定の期間在学し，本研究科の開設科目を履修して修了要件単位を修得し，かつ必要な研究指導を受けて高度な看護実践者，看護教育者，看護管理者として従事するために必要な研究能力及びその基盤となる豊かな学識を身につけ，修士論文の審査及び最終試験に合格したものに学位，修士（看護学）を授与する。	専攻分野（各自の研究課題）について基準となる単位を修得し，かつ必要な研究指導を受けて研究者として自律して研究活動を行い，同時に高度な看護研究者・教育者・管理者，高度看護専門職の指導者として従事するために必要な研究能力及びその基礎となる哲学的基盤となる豊かな学識をそなえ，博士論文の審査及び最終試験に合格した者に，博士（看護学）を授与する。
総合政策学研究科	総合政策学専攻	総合政策学研究科は，以下のような「知識」「技能」「姿勢」が身についていると判断したときに，「修士(総合政策学)」の学位を授与する。 【知識】 複雑化･多様化する地域社会の問題を，学際的かつ総合的な視点に立って理解し，問題の原因が分析できるようになる。 【技能】 その分析結果を用いて，問題の本質を見抜き，問題解決策を具体的な政策案として立案できるようになる。その政策案を実施する組織において，政策案を記述し，関係者を説得し，意思決定者に助言し，最適な方法を実装又は実施できる。 【姿勢】 常に，地域や組織に課せられた課題を認識し，解決策に向けて行動できる。	

【専攻科】

音楽専攻科		音楽専攻科の教育課程において，厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し，「自立協同」の精神を基本に，次のような能力を身につけた学生に修了証書を授与します。 〔器楽専攻器楽コース・声楽専攻〕 1.学部教育の基礎に立ち，より高度で専門的な音楽の歴史，理論，様式，体系を総合的に理解し，身につけている。【知識・理解】 2.上記の専門的知識と理解により，さらに高度で実践的な演奏能力，創作能力を身につけている。 【思考・判断】・【技能・表現】 3.上記②を基盤とし，合奏や合唱などのアンサンブルを通して，リーダーシップや協調性，社会性を身につけ，社会で求められる様々なニーズに応えることができる。 【関心・意欲・態度】・【思考・判断】・【技能・表現】 4.深い教養を身につけ，演奏，音楽教育，創作活動など地域社会，国際社会における様々な音楽活動に能動的に参画することができる能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】・【思考・判断】・【技能・表現】 〔器楽専攻音楽療法コース〕 1.人々の健康と幸せのために，理論，実践，研究を結び合わせた“Best Practice” が実践できる音楽療法士である。【知識・理解】・【思考・判断】・【関心・意欲・態度】 2.地域（Local）のヘルスケアニーズに気づき，世界基準（Global）の音楽療法の知識を生かして，問題の解決にあたる“ グローカル人材” としての能力を有する。 【知識・理解】・【思考・判断】・【技能・表現】 3.音楽療法の独自性とその効果を生かしつつ，高度なレベルで，学際チームの一員として他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】・【関心・意欲・態度】 4.自分自身の教育の続行のために，また社会での音楽療法の普及のため日々の実践や過去の研究からテーマを選定し，音楽療法研究をおこなう能力を身につけている。 【知識・理解】・【思考・判断】・【関心・意欲・態度】
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	○各専門分野において，自らの研究課題に対する研究方法や，実践方法等を身につけているとともに，専修免許状の取得に相応しい専門的知識や，教育的実践力が培われていること。 ○食・衣・住・養護・教育の分野にわたる専門的知見のもとに，より高い人間生活向上のための探究心，応用力，創造力があること。 ○望ましい教員，社会人に必要なコミュニケーション能力を身につけ，自己表現できること。 ○建学の精神を会得し，豊かな人間性，倫理観，使命感をもって，主体的に社会貢献できること。
	児童学専攻	児童学専攻では，以下の4つの観点に示された事項を修得したと判断されると，小学校教諭と幼稚園教諭の専修免許状を授与します。 【知識・理解】 児童学・保育学分野の知識・理解に基づき，教育・保育活動が科学的に実践できる。 【思考・判断】 科学的・合理的な思考ができ，子どもと円満なコミュニケーションを構築できる。 【技能・表現】 多様な教育・保育技術を身につけ，身体的並びに言語的な表現が豊かにできる。 【関心・意欲・態度】 児童に関わる諸問題（貧困，虐待等）を深く理解し，チーム力で解決しようとする。
助産学専攻科		1.妊娠・出産・産褥各期において正常経過の診断及びケア，正常からの逸脱の診断及びケアができる。 2.リプロダクティブ・ヘルスの視点から見たライフサイクル各期の女性の健康を支援することができる。 3.思いやりを大切にし，助産師としての自覚と倫理感性を磨き，対象者ひとりひとりを尊重し，自らの役割と責任を果たすことができる。 4.専門職業人として継続して学び続けることができる。

【大学】

■人間生活学部

多様な6学科から構成されており，人々の生活に欠かせない食・衣・住に加えて，教育，心理，さらには高度化する情報化社会などについて総合的かつ専門的に学ぶとともに，現代社会が抱える様々な課題に柔軟に対応し，21世紀の豊かな生活を切り開いていく能力・資格を身につけることを目指します。	
人間生活学科	【知識・技能】【思考・判断・表現】 1.衣食住や保健に関する最新技術・知識，柔軟な思考力を持った専門性を身につけ，健康で安全・快適な人間生活の実現に向けて寄与することができる。 2.免許や多様な資格の取得を通して，幅広い知識と豊かな教養を身につけ，自他の幸せな人生を創造することができる。 【関心・意欲・態度】 3.地域の課題に関心を持ち，その解決に向けて情報発信力や他者と協働する力を働かせ，地域社会の発展に貢献しようとすることができる。
食物栄養学科	【技能・知識】 1.健康の専門家として，生体内で起こっていることを説明することができる。 【技能・知識】 2.食の専門家として，食品の3機能や加工法，安全性について説明することができる。 【思考・判断】【関心・意欲・態度】 3.管理栄養士として，地域集団の健康増進や疾病予防に貢献したいという意志を持ち，かつ実践できる。 【技能・知識】【関心・意欲・態度】 4.管理栄養士として，疾病予防および健康増進のための適切な栄養アセスメントと栄養マネジメントを実践するために必要な基礎・専門分野の知識を修得している。 【関心・意欲・態度】【技能・知識】 5.管理栄養士として他職種と連携し，保健・医療の分野に携わることができる。 【関心・意欲・態度】【技能・知識】 6.管理栄養士として他職種と連携し，給食・福祉・教育などの分野に携わることができる。 【思考・判断】【技能・知識】【関心・意欲・態度】 7.栄養の専門家として健康を増進するために，個人の行動の変容を起こすことができる。 【思考・判断】【関心・意欲・態度】 8.専門職業人として常に科学の進歩に対応できるよう，生涯学び続ける意志を持っている。
児童学科	【知識・理解】 1.人間の成長・発達に関する幅広い教養を修得している。 【知識・理解】 2.教育・保育制度を知り，小学校･幼稚園･保育所等の意義と役割を理解している。 【思考・判断】 3.物事を科学的・論理的に思考し，判断して，真理を主体的に追究することができる。 【思考・判断】 4.柔軟な思考力と判断力を持ち，他者と協働しながら常に学び続ける向上心がある。 【興味・関心・態度】 5.常に新しい知識や技能の修得に関心をもち，変化する社会に対応できる自己教育力がある。 【技能・表現】 6.教育・保育の内容や諸課題に対して，創意工夫し，問題を解決していく技能を身につけている。 地域の保護者に対する支援活動のあり方や，地域の専門機関との連携方法を把握している。
メディアデザイン学科	【知識・理解】 1.情報通信技術を活用し，現代社会のさまざまな問題解決のために企画立案・実践を行うことができる。 【関心・意欲】 2.現代社会が抱える問題について，情報通信技術を用いて分析する能力を生かし，積極的に情報発信することで社会に貢献できる。 【思考・判断】 3.豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し，的確な分析力を基に思考・判断を行うことができる。 【態度】 4.専門的職業人としての責任感，指導力及びコミュニケーション能力を身につけ，適切な行動ができる。 【技能・表現】 5.学科で定めた基本4領或（情報領域・データサイエンス領域・コンテンツ領域・共通領域）に関する技能を修得しており，問題解決の手段を「デザイン」 することができる。
建築デザイン学科	【知識・理解】 1.建築計画を進めるための基本的な知識や，歴史・文化などが修得でき，また建築を構成する素材や構造形式，さらには力学的な知識を応用展開することができる。 2.建築設備や建築を取り巻く環境について，経済性，機能性などの幅広く知識を得ることができる。 【技術・技能】 3.専門的な知識において，製図など具体的な形にするための技術や技能，応用能力を身につけ，美しく機能的に創造する能力を身につけることができる。 4.建築構造・設備を表現し，構造計算，材料試験，また測量などの技術・技能などを修得し，専門知識とその実応用能力および科目を通じて物事の問題解決の手法を身につけることができる。 【態度】 5.工事現場の見学や実務担当者との交流により，実社会をより実践的な教育ができることや，他学科・自治体などとの融合の教育が実践でき，責任感や協調性を身につけて，是非の判断ができるようになる。 【表現】 6.研究発表・プレゼンテーションなどを行うことにより，より自分を表現でき，コミュニケーション能力を身につけることができる。またリーダーシップを発揮でき協働できる人間性が備えられる。 7.建築高度情報化に対応するようになり，他者へ提案・説明ができ，社会に奉仕ができるようになる。また，かたちや色彩の効果的なデザインについての能力，さらにはデジタル化とその活用能力が身につけられる。

心理学科	【知識・理解】 1.心理学の専門家として，必要な基本的知識を修得し，社会の多様な心の問題に対して，心理学の専門的知識に基づいて，多面的で柔軟な理解ができる。 【思考・判断】 2.心理学の専門家として，心の問題・課題について実証的なデータに基づいて科学的に思考するとともに，他者への共感的理解に基づいた判断をすることができる。 【関心・意欲・態度】 3.心理学の専門家として，社会から寄せられる多様なニーズを敏感に読み解き，積極的に専門的知識を活かそうと努力し，科学的で冷静な判断と他者への思いやり・共感的な理解とのバランスをとることができる。 【技能・表現】 4.心理学の専門家として，実証的データを用いた研究，心理テスト等を用いたアセスメント，エビデンスに基づき各種心理療法等を用いた介入を実施することができ，かつそれらを分かりやすく他者に対して説明することができる。

■音楽学部

本学部の教育課程において，厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し，「自立協同」の精神を基本に，次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。

〔ピアノコース・声楽コース・管弦打楽器コース・音楽クリエイター&アーティストコース〕

1.音楽の歴史，理論，様式，体系を理解し，身につけている。【知識・理解】
2.上記1に則した演奏能力，創作能力を身につけ，自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】【技能・表現】
3.上記2を基盤とし，合奏や合唱などのアンサンブルを通して，協調性，社会性を身につけている。
【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】
4.専門分野のみならず幅広い教養を身につけ，演奏家，教育者など様々な音楽分野で活躍する能力を身につけている。
【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】

〔音楽療法コース〕

1.幅広い教養を身につけ，芸術と科学の融合である音楽療法について理解し，人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】【関心・意欲・態度】
2.世界基準（Global）の音楽療法を学び，地域（Local）のヘルスケアニーズに応えられる“ グローカル人材”としての能力を有する。【知識・理解】【技能・表現】
3.音楽療法の独自性とその効果を生かしつつ，他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】
4.自らの関心や提議された問題について探索し，知識を得ること，またセラピーの実践を積み重ねることにより，学問において，また人間的に，生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】【関心・意欲・態度】

■薬学部

「自立協同」の理念に基づく教育課程を修めて所定の単位を修得し，下記の要件を満たす学生に学位を授与する。

1.医療人として必要な倫理観，使命感，豊かな人間性を身につけている。【関心・意欲・態度】
2.薬の専門家として必要な医療と薬学に関する知識を有し理解している。【知識・理解】
3.国際的視野を有し，最新の医療と薬学の情報を理解できる。【知識・理解】【技能・表現】
4.地域医療やチーム医療に対応できる技能とコミュニケーション能力を身につけている。【技能・表現】
5.自ら課題を発見して解決する研究マインドと，生涯にわたって学習する意欲を有している。
【思考・判断】【関心・意欲・態度】
6.医療人として，責任ある行動および総合的に患者や生活者を捉えることの重要性を理解している。
【知識・理解】【思考・判断】
7.多様化する先端薬学について，高度かつ幅広い専門知識と技能を身につけている。【知識・理解】【技能・表現】

■文学部

伝統文化の上に立ち，国際化の時代を生きる人間として必要な考察力を身につけ，あわせて情報化社会に適応した取捨選択能力を獲得することで，文学や文化遺産を創造的に生かす人材となることを目的とします。

日本文学科	1.知識・理解 ・古代から近現代に至る文学に関する学術の総合的，学際的な学習及び研究を行い，巨視的な観点を保ちつつ，その時代特有の思想や態度を理解している。 2.技能・表現 ・日本語学を体系的に学び，優れた日本語の運用ができる。 3.思考・判断 ・伝統文化の上に立った新たな思考ができる。 4.関心・意欲・態度 ・日本文学・日本語学に関する専門知識を生かした幅広い分野で活躍できる。 ・高度な専門知識を生かした国語科教育を実践でき，併せて教育に対する熱意と強固な意志を保持している。
英語英米文化学科	1.知識・理解 ・英語での適切な意思疎通や相互理解を可能とする英語力及び英語圏の文化・歴史・社会事情に関する知見が理解できる。 ・第二言語習得や英語教育に関する体系的・理論的知識が獲得できる。 2.技能・表現 ・プレゼンテーション力やディベート力を含む高度な英語コミュニケーション能力を獲得している（TOEIC B レベルを目標とする）。 ・英語科教員及び幼児・児童への早期英語教育や，社会人の学び直し・スキルアップに対応できる英語教育能力が獲得できる。 3.思考・判断 ・英語圏の文化，歴史，社会に関する専門的な知識と深い理解に基づいた豊かな知性によって論理的な思考や判断ができる。 4.関心・意欲・態度 ・広く世界に関心を持ち，自らの課題に主体的に取り組み，学び続ける態度を養うことができる。
文化財学科	1.知識・理解 ・文化財に関する知識を深めるとともに，史料などに基づく歴史を正しく理解している。 2.技能・表現 ・文化財の調査と分析及び発信，さらにコンピュータ等を用いた高度な情報処理や表現ができる。 3.思考・判断 ・文化財の観察と分析を通じて物事を深く洞察する力や，知識を得る方法を理解している。 4.関心・意欲・態度 ・様々な時代・地域の文化を通じて，多様な価値観や伝統を理解し広い視野を持つことができる。 ・文化財に直接触れ，探究心や自主性を鍛えることができる。 ・文化的資産を活かした地域づくりの企画・立案ができる。

■理工学部

本学部の教育課程を経て，学士としての一般的な教養，理学と工学に関する基礎的知識，各学科の専門科目に関する【知識・理解】，【感心・意欲】，【思考・判断】，【態度】，【技術・表現】を修得しておくことを求めています。

機械創造工学科	【知識・理解】 1.めまぐるしく流動する科学・技術社会において，物づくりを目指す専門家として機械工学の基礎知識を修得している。 【関心・意欲】 2.機械工学及びコンピュータ支援技術を利用して物づくりに対応できる課題発見能力・問題解決能力を習得して，たゆまぬ努力を惜しまず生涯にわたって学習を継続することができる。 【思考・判断】 3.機械技術者として自分の意見を明確に表現できるコミュニケーション能力を具備し，人と協調して物づくりを遂行できる。 4.平和を希求し，地域社会に愛着を持ち，国際化に対応できるなど，バランス感覚を備えて行動できる。 【態度】 5.機械技術者としての倫理観をもって，責任を持った行動ができ，指導力を発揮できる。 【技術・表現】 6.技術の進歩に関心を持ち，向上心を持って自分の役割を認識し，寛容な態度をもって人と交わり，協同して対処できる。
電子情報工学科	【知識・理解】 1.「電子工学」，「情報工学」の分野における専門的基礎を身につけている。 2.デジタル改革（DX），データサイエンス・人工知能（AI）の仕組みを理解し，応用することができる。 【関心・意欲】 3.問題を解決するために必要となる専門的知識を継続的に学習する能力を持つ。 【思考・判断】 4.科学や技術が及ぼす影響を理解しつつ，社会，文化，環境の視点から，その役割と責任を判断できる。 【態度】 5.職業に関して十分な理解力を持ち，社会に貢献することができる。 【技能・表現】 6.皆と協調し，相互にコミュニケーションを図りながら率先して行動することができる。
ナノ物質工学科	【知識・理解】 1.「生命科学」，「材料科学」のいずれかの分野において幅広く深い知識を身につけている。 【関心・意欲】 2.持続可能な社会を実現するための課題を見つけ出し，それを解決するために必要となる専門的知識を，自ら生涯にわたって継続的に学習し，課題解決に取り組むことができる。 【思考・判断力】 3.科学や技術が社会，文化，環境に及ぼす影響を理解し，その役割と責任を考え，技術の活用を図ることができる。 【態度】 4.重層的に体系化された専門的知識を駆使して，職業人として社会に貢献することができる。 【技能・表現】 5.「生命科学」「材料科学」に必要な分析技術を身につけ，自立協同の精神に基づき，相互にコミュニケーションを図りながら率先して技術者として行動することができる。

■総合政策学部

総合政策学部は，以下のような「知識」「技能」「姿勢」が身についていると判断したときに，学士（総合政策学）を授与します。

【知識】

法学･政治学･経済学･経営学･社会学など社会科学の幅広い学問の知識の中核をなす原則的な知識について十分に理解していること。またその知識を応用し，社会問題の解決のための対策案を考案できること。

【技能】

1.聴く。　社会問題の解決策を立案するために，自分より専門性の高い人材の意見を聴き，必要な情報を得る技能をもっている。

2.表現する。　自分の問題意識，解決策の思考過程，解決案を組織の人々に理解されるよう表現することができる技能を有している。

3.説明する。　自らが考案した問題解決策を組織の人々に説明し，同意をえるよう説得するコミュニケーション力を有している。

【姿勢】

常に，社会における問題，組織の抱える問題を発見できるよう行動する。社会における多様な価値観や個人の差異を理解し，問題発見のきっかけを見逃さないよう行動する。問題解決に向けて努力を惜しまないで行動する。

■香川薬学部

「自立協同」の精神を基本に6年の課程を修了して，卒業に必要な単位数を修得し，以下に示す能力を備えた学生に学位を授与する。

1.「医療人としてふさわしい，豊かな人間性，高い倫理観や使命感を身につけている。」
　【関心・意欲・態度】【知識・理解】
2.「薬のスペシャリストとして必要な化学物質と生命に関する基本的知識・技能・態度を身につけている。」
　【知識・理解】【技能・表現】
3.「地域における人々の健康の維持・増進，公衆衛生の向上に貢献する能力を身につけている。」
　【関心・意欲・態度】【知識・理解】
4.「薬物療法を主体的に計画，実施，評価し，医薬品の適正使用を推進する能力と，医薬品を供給し，処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を身につけている。」
　【技能・表現】【知識・理解】
5.「医療チームに積極的に参画し，他職種とコミュニケーションをとりながら，連携・協働して薬剤師に求められる行動を適切にとれる。」
　【関心・意欲・態度】【知識・理解】
6.「科学的根拠に基づいて問題を発見する能力，問題を解決する能力を身につけている。」
　【思考・判断】【知識・理解】
7.「常に自己研鑽・相互研鑽する意欲や，後進の育成に積極的に関わる態度を身につけている。」
　【関心・意欲・態度】【知識・理解】

■保健福祉学部

人間福祉学科，看護学科，理学療法学科，診療放射線学科，臨床工学科，口腔保健学科より構成されている。 ・4年の課程を修了して，卒業に必要な単位数を修得する。 ・生命に対し深い畏敬の念を抱き，豊かな人間性と良識を持つ。 ・保健，医療あるいは福祉の専門家として必要な論理的思考，問題解決能力，協調性，コミュニケーション能力を身につけている。	
人間福祉学科	【知識・理解】 人々の生活の質を向上させるための知識を有し，人間と社会について多角的な視野から理解を深めることができる。 【技能・表現】 他者の価値観を理解するとともに，自らの考えを他者に示すことができる。 【思考・判断】 様々な福祉課題を多角的な視点から分析することができる。 【関心・意欲・態度】 様々な福祉課題を持つ人びとに共感し，専門的技術を身につけ，課題の解決に取り組むことができる。
看護学科	【知識・理解】 1.看護の基盤となる幅広い教養を修得している。 2.看護の基盤となる人の健康と健康障害に関する知識を修得している。 3.看護の目的や理念の理解のもと，看護専門分野の学問内容を修得している。 4.保健・医療・福祉システムにおける自らの役割，及び他職種の役割を理解している。 【思考・判断】 1.科学的根拠に基づき計画的に看護を提供する思考を身につけている。 2.あらゆる対象と健康レベルに対し，論理的な思考に基づき判断することができる。 【興味・関心・態度】 1.人間を愛し生命に対する畏敬の念を抱き，看護専門職者として倫理観が定着している。 2.看護専門職者として自己の責務を自覚している。 3.看護の向上とともに，地域社会の発展に寄与しようとしている。 4.看護専門職者として，生涯にわたり自律して学び続け，専門的能力を向上させようと自覚している。 【技能・表現】 1.科学的根拠に基づいた技能を対象特性に応じて提供できる。 2.あらゆる対象と健康レベルに対応できる基本的技能を身につけている。 3.看護専門職者として必要なコミュニケーション能力を身につけている。 4.保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働できる基本的技能を身につけている。
理学療法学科	【知識・理解】 リハビリテーション（理学療法）の専門家として必要な基本的知識を修得している。また，健康と障がいに関する知識，情報収集の手段を修得している。更に，最新の知識に対する関心とその情報収集を心掛けることができる。 【汎用的技能】 高度で多様化するリハビリテーション（理学療法）に対応するための基本的な技能（技術）を修得している。また，その技能（技術）を一般の人たち，関連する分野の人たちに，的確に，分かり易く伝達することができる。更に，最新の知識（技術）の修得のために，その技能（技術）を活かすことができる。 【態度・指向性】 理学療法（士）に関する基本的な「理念（ideology）」と「哲学（philosophy）」を思考している。また，論理的思考，問題解決能力，協調性及びコミュニケーション（意思疎通）能力を身につけている。更に，健康に関わる専門職（allied health profession） として「根拠に基づく理学療法（evidence based physical therapy, EBPT）」を思考することができる。このような観点から生涯を通して学習に対する意欲を継続的に持ち続けることができる。
診療放射線学科	【知識・理解】 1.診療放射線技師として，豊かな人間性と良識・学識を持つ医療人になるために必要な基礎学力を養う。 2.放射線診療を実施するために必要とする人体解剖・生理学・倫理学などの基礎的な基本知識を学ぶ。 【関心・意欲・態度】 1.医療で利用される診療用放射線に関する基礎的な専門知識・法令等を習得する。 2.優れた診療放射線技術を応用して，患者に安全に放射線診療を実行し，画像診断に貢献できるように学習する。 【技能】 診療放射線技師として必要とする工学的な専門知識を習得し，医療用X線画像の生成過程を習得する。 【思考】 診療放射線技師として，臨床で必要とする実践能力を習得し，チーム医療としての協働活動に，責任感と使命感を持って参加できるようになる。 【判断】 診療放射線を利用して人体を画像化する各モダリティの基本原理を理解して，画像診断の補助ができるように体得する。
臨床工学科	【知識・理解】 1.医療機器の専門家としての安全かつ質の高い医療を遂行できる臨床工学の基礎知識を修得している。 【関心･意欲】 2.医療の進歩に対応できる課題発見能力・問題解決能力を修得し，生涯にわたって学習を継続する意欲を保ち，医療の発展に寄与できる。 【思考･判断】 1.高い倫理観，豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し，医療人として的確な判断を行うことができる。 2.対象となる人体や機器の様々な現象を多様な情報から科学的に評価するとともに総合的な判断を下し，行動することができる。 【態度】 1.専門的職業人としての責任感，指導力，及び，多世代にわたる対人関係能力を身につけ，医療人として適切な行動ができる。 2.科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化に対応し，患者の立場に立った医療を推進できる。 【技能･表現】 1.自立協同の精神を理解し，チーム医療の一員として主体的に行動することができる。 2.医療人としての自覚や責任と幅広い知識を背景として臨床工学の役割を正しく理解し，表現することができる。

口腔保健学科	【知識・理解】 1. 人の健康及び口腔の健康に関する基本的な知識をベースとし，口腔保健に関する幅広い専門知識を修得している。 2. 各ライフステージにおける健康基盤形成，疾病・介護予防及び介護などを，口腔保健と関連付けた知識として理解・修得している。 3. 地域の医療・保健・福祉システムにおける多職種連携の意義及び口腔保健の専門職として自らの果たすべき役割を理解している。 【技能】 1. 歯科衛生士の3大業務である歯科予防処置，歯科診療補助，歯科保健指導に関する基本的な技能を確実に修得している。 2. 高度で多様化する歯科診療における診療補助ならびに周術期の患者や要介護高齢者など特別な配慮を必要とする患者に対する専門的口腔ケアが実践できる。 【思考・判断】 1. 適切な思考・判断力に裏付けられた問題発見及び問題解決能力を備え，科学的根拠に基づいた計画的な口腔保健業務を担うことができる。 2. 歯科疾患の予防と食（咀嚼・嚥下）の支援を通じて，口腔の健康を全身の健康につなぐ視点を常に有している。 【態度・意欲】 1. 人を尊重し，他者を思いやる心を常に持ち，医療専門職の一員としての自覚と倫理観が身についている。 2. 生涯にわたって学ぶ姿勢を持ち続け，口腔保健に関する新知見や情報を的確に選別・収集し，自らの専門業務に反映させることができる。

【短期大学部】

生活科学科	生活科学専攻	【知識・理解】 1. 生活に関する基礎知識を学び幅広い視野を身につけている。 2. 生活に必要な「ものづくり」知識と，企業や社会で求められる「ものづくり」知識を身につけている。 【技能・表現】 3. 身につけた「ものづくり」の知識・技能を活用し，表現することができる。 【思考・判断】 4. 独創性のある発想を生み出す努力ができる。 【関心・意欲・態度】 5. 目標を実現するための計画を立て主体的に行動することができる。 6. 他者と協力し合って目標に向かって取り組むことができる。
	食物専攻	【知識・理解】 1. 栄養と健康と食に関わる基礎及び専門分野の知識を獲得している。 【技能・表現】 2. ひとびとの健康管理に携わる技術を修得し，栄養士・食のスペシャリストとしての実践力や表現力を身につけている。 【思考・判断】 3. 修得した知識や技能をもとに思考・判断を行い，課題発見・解決をすることができる。 4. チームの一員として個々の役割を理解し，協調性を持ちかつ主体的な行動がとれる。 【関心・意欲・態度】 5. 食や健康について自主的に探究し，向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を示すことができる。
保育科	【知識・理解】 1. 社会人として必要な教養を身につけている。 2. 保育者として求められる専門知識・技能を体系的に修得している。 【技能・表現】 3. 保育に関する専門知識・技術をふまえた保育実践力を身につけている。 4. 保育者としてふさわしい豊かな感性と表現力を身につけている。 【思考・判断】 5. 子どもや子どもを取り巻く状況の理解に基づいて保育を構想し，実践できる。 【関心・意欲・態度】 6. 社会の一員としての自覚を持ち，他者と協働して主体的に問題解決に取り組むことができる。	
言語コミュニケーション学科	【知識・理解】 1. 言語に対する分析的な視点が形成されている。 2. 文学・音楽・絵画・動画など，さまざまなジャンルの芸術を通じ，自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めている。	
	【技能・表現】 3. 書かれている文章を論理的に読み解く技術を習得する。 4. 対話型コミュニケーション能力，すなわち，情報を正確に理解する能力に加え，自己の主張によって相手を説得できる表現能力が備わっている。 【思考・判断】 5. 意見・評価・批判の交換といったプレゼンテーションの練習によりチームで働く力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 6. 異文化に対する理解・知識をもとに，自分が暮らす国や地域のものとは異なる文化を許容し，将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立している。	

音楽科	短期大学部音楽科の教育課程において，所定の単位を修得し，「自立協同」の精神を基本に，次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。 ●音楽療法コース 1.幅広い教養を身につけ，芸術と科学の融合である音楽療法について理解し，人々の健康と幸せのために働くことができる。 【知識・理解】【関心・意欲・態度】 2.世界基準（Global）の音楽療法を学び，地域（Local）の高齢者のヘルスケアニーズに応えられる，“ グローカル人材” としての能力を有する。 【知識・理解】【技能・表現】 3.高齢者を対象とした音楽療法について理解するとともに，他の専門職と協働する能力を有する。 【技能・表現】【関心・意欲・態度】 4.自らの関心や提議された問題について探索し，知識を得ること，またセラピーの実践を積み重ねることにより，学問において，また人間的に，生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。 【思考・判断】【関心・意欲・態度】 ●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース 1.音楽の歴史，理論，様式，体系を理解し，身につけている。 【知識・理解】 2.上記①に則した演奏能力，創作能力を身につけ，自らの演奏や作品を確立することができる。 【思考・判断】【技能・表現】 3.上記②を基盤とし，合奏や合唱などのアンサンブルを通して，協調性，社会性を身につけている。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 4.専門分野のみならず幅広い教養を身につけ，音楽関係，教育関係，一般企業など様々な分野で活躍する能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】
商科	【知識・理解】 1.社会人としての一般常識やビジネス活動の基本となる専門知識を習得している。 【技能・表現】 2.ビジネスの現場で求められる実践的能力を修得し，自分の意見を表現できる。 【思考・判断】 3.自律的な思考力や状況判断能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 4.広い視野で社会の動きに関心を持ち，現状と課題について自主的に探究できる。 5.主体性を持って自分の役割を果たすとともに，キャリア意識を持ち続けることができる。

(2)教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーの提示する学位取得の要件を満たすことを目指す学生に対して，本学は次のような科目から成る教育課程を提供します。

①社会に適応しつつもそれを改革できる人物に必要とされる，専門性にとどまらない教養を涵養するために，本学が，多様な専門教育機関を有する総合大学であるがゆえに提供できる「共通教育科目」を配置する。

②文化・文明の進歩に貢献する，高度に専門的な知識・技能を開拓・活用できる人物となるために，本学の各学部学科が提供する「専門教育科目」を配置する。

【学修成果の評価（アセスメント・ポリシー）】

①各授業科目において，到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。

②成績の評価は到達目標への到達度を目安とし，成績評価基準に基づき，厳格な評価を行う。

③ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し，学修成果の全体を評価する。

【大学院】

研究科名	専攻名	博士前期課程	博士後期課程
薬学研究科 （4年課程）	薬学専攻		高度な専門知識と問題解決能力を生かし医療分野及び関連業界で活躍する専門家を育成するため，本研究科に①～⑤分野を設置し，ディプロマ・ポリシーに基づき学位を授与すべき人材を養成する教育プログラムを編成した。 ①医療・薬物療法分野：薬を用い医療の現場で高度な知識を駆使できる人材を養成する。 ②健康・高齢者医療分野：高齢化社会に備え，健康科学をリードする人材を養成する。 ③医薬品開発・高度医療分野：新薬開発の中心的役割を担える人材を養成する。 ④医療解析・医療安全分野：副作用情報を解析し，薬物療法の安全性を高める人材を養成する。 ⑤がんに詳しい薬剤師を養成するために，中国・四国がんプロ臨床腫瘍薬剤師コースを設定する。 1年もしくは2年次に専門的学識を深めるため分野ごとに必要な専門科目を選択，履修し，同時に「薬学演習」及び所属研究室において設定された「薬学専門研究」が進行するプログラムを編成している。2年次では，選択専門科目の履修及び「薬学演習」と「薬学専門研究」を継続履修し，研究の途中成果を各種シンポジウム及び各種学会で発表する。 3年次も2年次と同様に研究を中心とするカリキュラムを設定し，4年次に研究を完成，成果発表に至るプログラムを編成している。 ④の医療解析・医療安全分野のために高知大学医学部・附属病院と大学間連携して，創薬（新しい医薬品を開発）教育だけでなく，育薬（新しい薬効や適用法を開発）教育を展開できる体制を構築し，医薬共同研究を推進する。また，徳島赤十字病院とも連携し，薬物治療等の最新の動向を学ぶこともできる。臨床課題の研究には，徳島赤十字病院の隣接地に設立した徳島文理大学実習支援センターが活用できる。さらに香川大学医学部・附属病院，香川県立保健医療大学と，高度な医療人養成のための地域連携型総合医療教育研究コンソーシアムを形成している。
文学研究科	地域文化専攻	文学研究科のディプロマ・ポリシーに基づき，「文化と地域」と「言語・文学と地域」の研究区分を設けている。それぞれの研究領域において歴史・地理分野や言語・文学分野などの研究を行い，特講では精深な学識を身につけ，演習では研究能力を体得する。	左記の二つの研究区分において前期課程で学修した成果を一層掘り下げ，特別研究では学術的に地域社会の創造的発展に寄与しうるテーマの追究に努め，特別研究課題演習及び博士論文の作成により研究活動を行うことができる高度な研究能力と学問的客観性を体得する。

工学研究科	システム制御工学専攻	1. 問題点の抽出から得られた成果の文書化までを総体として行うことを体得するために，必修科目としてシステム制御ゼミナールとシステム制御特別研究を履修する。 2. 選択科目では，個々の専門技術習得に加え，複合分野の技術も修得するために他分野の講義・演習も履修する。	1. 基礎的研究，応用的研究のいずれにおいても，より高度な研究を推進するためには，その分野に問題の把握，最新の研究動向の把握が重要になる。そのために，システム制御工学基礎特別研究あるいはシステム制御工学応用特別研究のいずれかを必ず履修する。 2. 複合領域におけるより高度の技術も修得するために，基礎領域と応用領域のそれぞれの領域から1科目ずつ履修する。
	ナノ物質工学専攻	1. 必修科目は，生命科学，材料科学の分野で，研究課題の立案，実施，考察までを能動的におこなえることを到達目標とする。そのために，1年次にナノ物質工学ゼミナールⅠ，2年次にナノ物質工学特別研究Ⅰを履修する。 2. 選択科目は，ナノ物質工学の高度な専門知識を修得し，各自の研究に活用できることを到達目標とする。そのために，1年次，2年次に光物質工学，ナノ材料工学，微生物工学，薬科学に関する授業科目を履修する。	1. 生命科学，材料科学の分野で，ナノ物質工学の幅広い専門知識を系統的に醸成させることで，社会に貢献できる独創的な研究を遂行し，結論にむけて十分に考察できる能力を到達目標とする。そのために，1年次から３年次まで，指導教員が個別指導形式で実施するナノ物質工学ゼミナールⅡとナノ物質工学特別研究Ⅱを履修する。
人間生活学研究科	人間生活学専攻		1. 自立協同の建学精神のもと，人間と生活に関する先端知識の習得と研究能力の涵養のために，各分野の専門科目を置く。 2. 研究計画に基づいて体系的に適切な研究指導を行い，研究の集大成として博士論文を課す。
	・食物学専攻 ・生活環境情報学専攻 ・児童学専攻 ・心理学専攻（臨床心理学コース）	1. 人間生活学の発展のために，食物学・生活環境情報学・児童学・心理学について深い学識及び高度な職業能力を培うことを目的とした各分野の専門科目を置く。 2. 自立協同の建学精神に基づき，適切な研究指導の下で本学学位規程に定められた学位論文を課す。	
看護学研究科	看護学専攻	高度な看護実践や課題解決する研究能力，看護職の人材育成，看護管理能力を培う素地となる能力育成のための土台として共通科目を開講する。 1. 共通科目は，大学院生の興味・関心のある研究テーマによって必修科目と選択科目で構成する。 2. 専門科目は,教育目的・目標を達成するために，「基盤機能看護学」と「実践看護学」の2区分とする。専門領域は，「基盤機能看護学」は“ 理論看護学”“ 看護管理学”“ 看護教育学”を開講し，「実践看護学」は“ 療養支援看護学（臨床）”“ 療養支援看護学(地域・在宅)” “ 母子健康看護学”を開講する。 3. 履修する専門領域を決め，専門領域の理論と研究の幅を広めるために「特論」で基礎理論を深め，「演習Ⅰ」で論文クリティーク力を培えるよう1学年次に履修する。 4. 専門領域の高度な実践や研究に関連する理論と文献を探究し，修士学位論文への取り組みを支援するため，演習Ⅱでは研究分野に関するフィールドワークを必要に応じて行う。 5. 博士前期課程から博士後期課程へ一貫して発展的に学べるように，共通科目を土台に，「基盤機能看護学」と「実践看護学」の2分野で組み立て，博士前期課程を修了後，博士後期課程へ進学できるカリキュラムを構築している。	専攻分野（各自の研究課題）について，研究者として自律して研究活動が行えるよう，また高度看護研究者，看護教育者，看護管理者，高度看護専門職の研究的・教育的指導ができるために必要な研究能力の育成及びその基礎となる哲学的基盤となる学識を養うことを目的に教育課程を編成して，教育・研究を推進する。

総合政策学研究科	総合政策学専攻	本総合政策学研究科の教育課程は，地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材の養成，グローバルな視点も踏まえた適切な解決策を立案し，政策決定者へ提言できる人材の養成，また，そうした人材を養成するための学問的・理論的に深く独立して研究活動を続ける人材の養成を目指した教育課程を編成するものである。 そこでの基本的な考え方は，地域社会の抱える様々な問題を解決するための政策立案能力を持ち政策決定者へ提言できる人材を養成するためには，法律，行政，経済，金融，企業経営等，社会科学の理論的基盤が必要であること，加えて，学問的・理論的に深く独立して研究活動を続ける人材を養成するためには，創造性豊かな研究開発能力が必要であることを重視している。 問題解決策を考案するときに必要な理論や知識を，既存の「法学」「経済学」「社会学」「経営学」といった社会科学の各学問分野に求め，そのなかから理論や知識を「総合的に」「組み合わせて」，問題解決策を考案するところに「総合政策学」の特徴があると考えている。「総合政策学」には，問題解決を実際に主体となっておこなう部門として「公共部門」と「民間部門」があり，その区分にしたがって「公共政策」「企業政策」として問題解決策を観念としてとらえる場合がある。従って，教育課程では，「公共政策分野」と「企業政策分野」の2つの大きな専門分野とし，「公共政策分野」に，法学関係，経済・経営学関係，社会学関係の科目を，「企業政策分野」に，法学関係，経済・経営学関係の科目を，専門科目及び専門演習科目として設定している。更に，基礎的素養を修得し，専門分野の専門科目や専門演習科目で扱った理論を深め，広い視野を身につけ，高度な専門的知識・能力を修得するための関連科目（13科目）を設定した教育課程としている。 更に，「公共政策分野」と「企業政策分野」の専門分野を超えた研究をおこない，公共部門と民間部門が一体となって，地域社会の問題解決にあたる政策を策定するとともに，政策決定者に提言できる能力を持った人材養成を目指すために，社会科学全体を見渡す「体系講義科目」と，複数の教員と複数の大学院生による議論を中心とした「総合政策学特別研究」を設定している。	

【専攻科】

<table>
<tr><td>音楽専攻科</td><td colspan="2">音楽専攻科は，ディプロマ・ポリシーを実現するために，下記の教育を実施する。
【器楽専攻器楽コース・声楽専攻】
1.音楽の歴史，理論，様式，体系に関する「作品研究」，「音楽特論」等の科目を配置し，より高度で専門的な知識と，それらの総合的な理解力の修得を図る。
2.より高度な演奏能力，創作能力を修得するため，上記理論系科目の上に立つ「専攻実技」を配置する。
3.より高い協調性，社会性，リーダーシップを身につけ，社会の様々なニーズに応えられる人材育成のために，「室内楽」，「管弦合奏」等，学部学生との交流を図る授業を開講する。
4.修了時には，1年間の研究成果を発表する場として「修了演奏」を開講し，リサイタルを実施する。
【器楽専攻音楽療法コース】
1.全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（専修）養成の教育課程」にしたがい，音楽，音楽療法，音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を配置する。
2.「専攻実技」では，Functional Piano（ピアノによる機能音楽）について学び，療法的な目的のために音楽を創造し，演奏する技術の修得を図る。
3.「音楽療法インターンシップ」では，就職を希望する施設を含めた複数の事業所において就業体験の場を提供する。過去の音楽療法研究及びその他の関連する学問分野の最新の知識からなるEvidence-based Practice（根拠にもとづいた療法の実践）の実施とドキュメンテーションが求められる。
4.「音楽療法インターンシップ」において自身がおこなったセラピーから研究テーマを設定し，過去の文献ならびに「心理統計学」，「心理療法」で得た知識ももちいて発表をおこなう「修了プレゼンテーション」を開講する。
【学修成果の評価】
音楽専攻科は，全学カリキュラム・ポリシーに基づき，学修成果を評価する。
1.各授業科目において，到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。
2.成績の評価は到達目標への到達度を目安とし，成績評価基準に基づき，厳格な評価を行う。
3.ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し，学修成果の全体を評価する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人間生活学専攻科</td><td>人間生活学専攻</td><td>人間生活学専攻においては，学士課程等で修得した知識・技能を踏まえて，さらなる学問研究の意欲を高め，人間生活の質的向上と専修免許状（養護教諭，中・高の家庭科）取得に必要とされるより高度な知識修得のための科目を設けるとともに，課題解決力及び実践力を確かなものにしていく教育課程を編成している。</td></tr>
<tr><td>児童学専攻</td><td>学部で学んだ基礎教育から発展するよう，広い視野に立って専攻分野を研究し，精深な学識と研究能力を養うことに重点を置き，児童学及び児童教育学並びにその関連分野における科目を設定して，教員の専修免許状取得にも対応できるように教育課程を編成している。</td></tr>
<tr><td>助産学専攻科</td><td colspan="2">助産学専攻科は，看護学を修得し看護師免許を保有する学生を受け入れるため，看護学で修得した基礎学力を基盤とし，高度な専門知識と技術を持った助産師を育成する学科である。

助産学専攻科のディプロマ・ポリシーは，「1.妊娠・出産・産褥各期において正常経過の診断及びケア，正常からの逸脱の診断及びケアができる。」「2.リプロダクティブ・ヘルスの視点から見たライフサイクル各期の女性の健康を支援することができる。」「3.思いやりを大切にし，助産師としての自覚と倫理感性を磨き，対象者ひとりひとりを尊重し，自らの役割と責任を果たすことができる。」「4.専門職業人として継続して学び続けることができる。」であり，これらを実現するために，次の教育を実施する。

助産師として必要な実践力・判断力を身につけるために，講義・学内演習・臨地実習・課題研究発表の順序で，系統的に学習できるカリキュラムを構築している。

具体的には，基礎助産学7単位（うち1単位は選択），助産診断・技術学9単位，地域母子保健3単位（うち1単位選択），助産管理2単位，課題研究2単位，助産学実習12単位の計35単位（うち2単位選択）となっている。

1.基礎助産学や助産診断・技術学（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児乳幼児期）において，女性の健康を支える知識・技術を修得するとともに，助産及び周産期の母子と家族のケアに必要な助産診断・技術の基礎を修得する教育としている。
2.基礎助産学の「ウイメンズヘルス」や「地域母子保健」，「地域の健康探索」などからライフサイクル各期の女性の健康生活のニーズを把握し，産後の家庭訪問や在宅育児家庭相談室などの実習，各種母子イベントなどへの積極的な参加を通して地域の母子や女性と家族及び地域の健康に貢献できる教育としている。
3.学内演習は，充実した設備で妊婦診察・指導技術や分娩介助技術を修得し，より臨床に近い形で実習を行い臨地実習に望むことができるような教育としている。
4.「助産学実習」は，12単位で総合病院，クリニック，助産所での実習を通して分娩介助10例以上を達成する。実習では，産婦の状況に合わせて夜間実習を行い，一人の産婦の入院から退院まで継続的に関わり，どのような援助が必要か，どのように関わっていくかを学び，やさしさと包容力を持ち，対象者との信頼関係を構築し，対象者に寄り添いその人に合った安全で安楽なケアを提供できる教育としている。
5.基礎助産学の「助産学概論」，「助産生命倫理学」，「プロフェッション論」，課題研究などから専門職業人として必要な倫理感性，責任感，生涯学び続ける必要性を養うとともに研究的視点で物事を捉えることのできる教育としている。
6.「健康教育論」を学び，臨地実習で健康教育の運営・実施を通して，対象者に分かりやすい講義を行う。また,卒業前の課題研究発表会では，研究した内容を簡潔にまとめて発表するなど，分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける機会を設定している。</td></tr>
</table>

【大学】
■人間生活学部

6学科から構成されている。一般総合科目，専門的基礎分野の開講を出発点として，教育実習等の関連性にも配慮しつつ，順次高度な専門分野を加えるように体系的に編成している。なお，講義科目や実験・実習科目等の配分には細かい注意を払っている。

人間生活学科	人間生活学部及び人間生活学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「幅広い知識，豊かな教養，衣食住や保健に関する最新技術・知識，柔軟な思考力を持った専門性を身につける」とともに「家庭科・保健科教諭，養護教諭，フードスペシャリスト，二級建築士，上級情報処理士などの資格・免許を取得し，地域社会の発展に貢献できる」人材の輩出を実現するため，次の教育を実施する。 1. 健康で安全・快適な人間生活の実現につながる知識・技能を幅広く学ぶため，「家庭経営学」，「衣生活論」，「食品学」，「栄養学」，「調理学実習」，「住生活論」，「保育学」，「衛生学」など，人間の豊かな生活づくりに関する多様な科目を１年次から順次開講する。 2. 地域課題を自分のこととして捉え，地域共生社会の担い手として，他者と協働し主体的に行動する力を育成する。そのために，１年次は，地域社会を取り巻く環境や歴史的変遷などを学ぶ「生活と環境」，「生活文化論」，２年次は，地域の具体的事例や身近な地域が地球社会へつながりを持つことを学び，フィールドワークを経験する「コミュニティ・デザイン」を開講する。 3. 教育への強い情熱を持ち，よりよい生活の実現に向けて主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成や，生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成に資することができる中・高の家庭科・保健科教諭を育成する。実践的指導力の育成に向けて，衣食住や保健に関する専門性の高い各分野の知識・技術を基盤に，3年次に「家庭科教育法」，「保健科教育法」，「事前・事後指導」，4年次に「教育実習」，「教育実践演習」を開講する。 4. 教育への強い情熱を持ち，心と体のケアができ，学校保健推進に必要な高度な指導力と的確な救急対応ができる看護能力を備えた養護教諭を育成する。そのために，１年次は，「養護概説」，「基礎看護学」などの基礎的な科目を，２年次は，救急処置能力の向上と看護・保健に関する専門分野を学ぶ科目を開講する。2年次後期には，「臨床看護実習」，3年次には「事前・事後指導」，「養護実習」を開講する。また，教職科目において1～4年次に履修し，保健室の職務の実際を体験する「学校ボランティア実践」を開講する。 5. 多彩な資格取得に向け，フードスペシャリスト，二級建築士，上級情報処理士，社会福祉主事任用資格，医療秘書の資格取得要件として指定される科目や，ファッションビジネス能力検定，福祉住環境コーディネーター，防災士など，資格取得のための学びを支援する科目を開講する。 6. 人と生活について最先端の知識・技能を研究するため，３年次に「専門ゼミナール」を開講し，各教員にゼミナール生として数名程度を配属する。さらに４年次の「卒業研究」では，科学的根拠に基づいて課題を考え，解決方法を探究する。 7. 担任は４年間を通じて学生と面談を重ね，学修指導，資格取得や進路決定の支援を行う。また，主体的な学びを促し，他者との協働を取り入れながら将来の進路を自ら開拓することのできる力を育成するため，学年を超えての学科交流会や就職活動・教員採用試験報告会などの機会を設ける。
食物栄養学科	人間生活学部及び食物栄養学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「食と健康の専門家として地域社会や医療現場での健康増進や疾病予防に貢献する」とともに「生涯，学び続ける意志を持つ」人材の輩出を実現するために，特定非営利活動法人日本栄養改善学会より提唱された「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠して下記の教育を実施する。 1. １年次では，「管理栄養士としての将来」についての具体的な目標を新入生に持たせるための初年次教育として「健康管理概論」「食生活論」「文理学・地域学」「調理学実習」を設置する。また，ヒトに対する栄養学を学修する上で欠かすことができない「解剖生理学」と「基礎栄養学」を前期から開講する。後期からは，これらの授業科目を基礎において，「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠した科目を順次，設定する。 2. １年次・２年次を通して，身体を鍛えるための「健康スポーツ」，人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び，一次情報入手に欠かせない「語学」を開講する。 3. 本学科の特長である「栄養教諭（1種）」及び「家庭科教諭（中・高1種）」免許取得のための講義，実習は，各学年において受講生の過剰負担とならないようにバランスよく配置する。 4. １年生からの学修指導や生活指導は担任教員が中心となって行い，３年生後期からは，指導内容をより濃密にする目的で各教員にゼミ生として10名程度を配属する。 5. ４年次では，前期に管理栄養士が実際に活躍している現場を体験するために，臨地校外実習として「臨地公衆栄養学実習」「臨地給食運営実習」「臨地給食経営実習」及び「臨地臨床栄養学実習」を各１週間，設定する。実習期間中，教員による実習現場への巡視を実施し，現場からの大学への要望を聞き取るとともに，実習中の学生の状況を把握する。また，教員免許取得を希望する学生は，この時期に教育実習を行うことで，教員志望の自覚を高めた上で，教員採用試験対策講座に参加する。後期には，能動的学修を促す目的で，学生が「自分で課題を設定し，プレゼンテーションを行い，質問に答える」という演習科目を設定することで，４年間の学修効果を総合的に評価する。 6. ４年間を通じて，「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠した教育に加え，徳島文理大学の独自教育を加えることにより，学生が管理栄養士として必要な「知識」「態度」「意志」を身につけるべく，すべてのカリキュラムを設定する。
児童学科	人間生活学部及び児童学科のディプロマ・ポリシーにもとづき，豊かな教養と人間性を培うとともに，教育学と児童学に関する専門的知識のうえに立った確かな実践力を身につけることのできるカリキュラムを編成して運営するため，以下の教育を実施する。 1. １年次では，「児童に関わる指導者としての将来」についての具体的な目標を新入生に持たせるための初年次教育として「児童学原論」「教育原理」「保育原理」「教育方法論」「児童心理学」「教科内容・方法に関する科目（4科目）」「保育内容・方法に関する科目（4科目）」を開講する。また，教育・保育実践力の向上を目指すために，１つには「教科内容・方法に関する科目」「保育内容・方法に関する科目」で観察授業・保育を取り入れる。２つには総合科目（ボランティア）の受講を必修化すると同時に，種々のボランティア活動への学生の積極的な参加を促す。 2. １年次・２年次を通して，身体を鍛えるための「健康スポーツ」，人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び，一次情報入手に必要とされる「語学」を開講する。

	3. ２年次以降から４年次に至る専門教育では，児童に関わる指導者としての資質能力を高めるための順次的・系統的なカリキュラムの配置を行う。また，学生の主体的態度，課題発見・問題解決能力を養うために，アクティブ・ラーニングを有効に活用した学修方法を導入する。 4. 教員・保育士の免許・資格取得のための講義・演習，実習は，各学年において受講生の過剰負担にならないようにバランスよく配置する。学生はこれらの授業を通して，教員・保育士の自覚を高めたうえで，教員採用試験対策講座に参加する。 5. ２年次から４年次にかけては，臨床への応用のため事前・事後指導・保育実習指導の科目，教育実習・保育実習・介護等体験を順次，配置する。また，教科教育法・保育方法演習等を通じて，模擬授業・模擬保育及び授業・保育の参観＝分析を実施する。 6. １年次からの学修指導や学生指導では，担任・チューターが中心になり，ＨＲ活動，面談，学習ポートフォリオ，教職履修カルテや「保育・教職実践演習（幼・小）」を活用して学生の主体的な学びができるように支援を行う。３年次後期からは，指導内容をより濃密にするために各教員にゼミ生として10名程度を配属し，原則としてゼミ担当教員が継続して４年次前期・後期の卒論指導を行う。 7. 各科目を担う教員が児童に関わる指導者養成の使命を自覚し，児童に関わる指導者としての実践力についての視点や内容を互いに共有して協働する体制を組織し，教育を進めていく。また，学科の教職員が連携し，課外活動，就職支援等通じて，学生が互いに学び合う学修環境のもとで社会人としての自覚を高め，児童に関わる指導者に求められる資質能力を身につけることができるように支援体制を整える。 8. 各科目で，到達目標を定め，到達目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知する。また，学生が各科目・課外活動等で身につけた知識・技能を統合して，児童に関わる指導者にふさわしい資質能力の育成についての評価基準を設ける。そして，その評価結果に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることにより教育の質の保証に努める。
メディアデザイン学科	人間生活学部及びメディアデザイン学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「情報通信技術を活用して，さまざまな問題解決のために企画・立案・実践を行うことにより，社会に貢献しうる人材」の輩出を実現するために，下記の教育を実施する。 1. 本学科の特長である5つの領域を，各学年でバランスよく配置する。具体的には，システムデザイン領域である「プログラミング」「情報システム論」「コンピュータネットワーク論・演習」，マーケティングリサーチ領域である「応用統計学」「社会調査研究」「生活と情報」，コンテンツデザイン領域としての「メディア制作論」「Webデザイン論」「CGアニメーション」「コンピュータグラフィックス論・演習」，ライツマネジメント領域の「情報社会論」「メディアと制度」，インストラクショナルデザイン領域の「メディア教育論・演習」「インストラクショナルデザイン」を設置することで，5つの領域を系統的に学ぶ 。 2. １年次では，初年次教育として「情報技術」についての基礎科目である「コンピュータ概論」「情報処理論」「コンピュータグラフィックス論・演習Ⅰ」「応用統計学」を設置する。 3. 基礎的な知識・技術が養われた３年次以降は外部講師を積極的に招き，専門的な経験談や業界第一線の知識・技術に触れることで，より一層のスキル向上を図る。 4. １年次・２年次を通して，身体を鍛えるための「健康スポーツ」，人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び，一次情報入手に欠かせない「語学」を開講する。 5. ２年次では，職業人として必要な指導力・コミュニケーション能力を養うため，「プレゼンテーション論・演習」を設置する。 6. ３年次の専門ゼミナール及び，４年生の卒業研究は，各教員にゼミ生として配属する。他学部や地域・行政と関わりを持ちながら，課題解決にむけた能動的学修を行う。 7. １年次からの学修指導や生活指導は担任教員とチューターが中心となって行い，学生とともに学修成果の評価を行う。 8. ４年間を通じて，学生が学士「情報」として必要な「知識」「態度」「技能」を身につけるべく，すべてのカリキュラムを設定する。
建築デザイン学科	将来の建築技術者として専門分野の基本的な知識を身につける。そして学んだ知識を生かし，社会の要求に応え，自己の考えを適格に表現し，コミュニケーションを円滑にできるよう，建築におけるコアカリキュラム（計画，構造，設備，環境，生産，インテリア）を中心にして，ディプロマ・ポリシーを実現するために以下のような教育を実施する。 1. １年次は，人類が生活を始めてからの建築の歴史や文化をはじめ，建築の一般構造，建築物の創造に必要な製図・造形・色彩計画など基本的な知識や表現技術を重視した学修を設定している。 2. ２年次・３年次は，住生活についての基本的な知識，つまり，建築の意匠や関連法規，都市計画などの基礎的分野にはじまり，インテリア，環境など幅広い教科を設定し，将来建築技術者として，新たな創造や課題に対応できる知識や技術を身につけさせることを目標とする。さらに幅広いモノづくりに取り組む資質や姿勢を持たせることをテーマとし，建物の安全・快適性を重視した人間の生活を取り巻く環境に配慮できる建築技術者の養成を目指している。また，高品質なソフトウエアや最新の機器を積極的に導入し，その利用により，実社会での仕事に抵抗なく解け込む力を養う教育を設定している。 3. ４年次は，１年次から３年次までの一貫したカリキュラムツリーを基に，総仕上げ的な学修を設定している。 4. ３年次から４年次にかけて，過去に学修した知識を基に，学習意欲のある学生を中心に，卒業研究を行うとともに，地域社会との連携事業に積極的な参加を実践する。
心理学科	人間生活学部及び心理学科のディプロマ・ポリシーに基づき，「現代心理学の知見に基づく科学的な知識と思考（冷静な頭）と，臨床心理学の基本である他者への共感的理解（暖かい心）を持った人材を育成」する。さらに，児童生徒の心理に強い「養護教諭」，高い専門性と実績で社会に貢献する「臨床心理士」，国家資格「公認心理師」各取得援助のために，下記の教育を実施する。 1. １年次では，主体的に考え学ぶ態度を獲得させるために，まず強力なオリエンテーションを行うとともに，社会人として必要な基本的知識と教養を身につけるために一般総合科目を中心として学ばせる。一方，専門科目領域においては，心理学の全体的体系を理解させるために，基礎科目として，「心理学概論」とともに，科学的理解の基礎となる「心理学研究法」を設置する。また，養護教諭免許取得を目指す者に対し，その基礎となる「教職概論」「養護概説」等を配置する。さらに，「建学の精神」をより深く理解し，学修目標を持ち意欲的に勉学・研究活動に取り組めるようになるために文理学を配置する。 2. ２年次では，語学等を中心とした一般総合科目の履修により，大学生としての教養の充実を図る。専門科目においては，基礎から応用へと体系づけられた科目設定に従い，「心理学実験」から「臨床心理学概論」，さらに心理学各領域科目を配置する。また，養護教諭免許取得のために，以上の科目に加えて「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）」等の基礎的科目の充実を図るとともに，「救急処置及び看護法」等の実践的科目を設定する。

	3. ３年次では臨床心理学の実践的，応用的理解を深めるために「心理学検査法実習」「心理療法演習」等の実習・演習科目を設置する。また，教職科目においても，養護教諭としての実践的能力の向上を目指し病院実習・教育実習を配置する。後期からは，卒業研究単位取得のための研究室単位での指導として専門ゼミナール指導を設定する。 これらの指導を通じて，目指す資格取得への意思を明確化させるとともに，チューター指導による援助を行う。 4. ４年次では，前期に専門科目の履修とともに，専門ゼミナールによる卒業研究指導によって主体的研究態度と論理的思考を涵養する。また，養護教諭免許取得者は，後期に教職実践力の向上を図るため「教職実践演習」を配置する。 さらに４年次を通じて，これらの指導に加えチューター・担任等の指導により，就職活動，養護教諭免許取得，さらに臨床心理士及び公認心理師受検資格取得のための大学院進学等を援助する。 カリキュラムは，以上の実践結果や，教育的要請により適時見直され，各教員は，より効果的かつ適切な教育活動が実施されるよう連携し努力する。

■音楽学部

音楽学部は，ディプロマ・ポリシーを実現するために，下記の教育を実施する。

【ピアノ・声楽・管弦打楽器・音楽クリエイター&アーティストの各コース】

1. 1年次は，音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に，音楽に対する学修意欲を高めるため，「基礎ゼミナール」と基礎的な内容の「理論系科目」，「演習系科目」，「実技系科目」を配置する。また，幅広い知識を身につけるための一般総合科目を配置する。
2. 一部の演習系科目と実技系科目においては，習熟度別のクラス編成を行い，一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。
3. 全学年を通して，「理論系科目」，「演習系科目」，「実技系科目」において，基礎的内容から，より高度で専門的な内容の科目まで，順次配置する。
4. 高等学校教員免許・中学校教員免許（1種）を取得するため，また音楽指導者を目ざすための科目として，全学年を通し，「教育系科目」を順次配置する。
5. 音楽療法士（1種・2種）を取得するための科目として，全学年を通し，「音楽療法系科目」を配置する。
6. 4年次修了時には，卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し，4年間の研究成果を評価する。
7. 「卒業演奏会」を開催し，卒業試験における成績優秀者には，発表する機会を提供する。

【音楽療法コース】

1. 全学年を通して，全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（1種）養成の教育課程」にしたがい，音楽，音楽療法，音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。
2. 1年次は，幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と，音楽療法士に必要な演奏能力を養うために，基礎的な内容の「理論系科目」，「演習系科目」，「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」，「音楽療法演習」を配置する。
3. とくに1年次後期には，2年次より開始される実習に備え，「音楽療法概論Ⅱ」として，アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準(AMTA Standards of Clinical Practice)にもとづき，1)紹介と受け入れ，2)アセスメント，3)治療計画，4)実施，5)ドキュメンテーション，6)終結，という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。
4. 2年次の「音楽療法実習」では，「音楽療法総合演習」，「事前指導」を配置し，教員及び学生間による援助を大きく受けながら，地域の病院，福祉施設等の高齢者のニーズを特定し，グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。
5. 3年次の「音楽療法実習」では，「事前指導」を配置し，教員及び学生間による援助を受けながら，地域の病院，福祉施設等の障がい者のニーズを特定し，音楽療法サービスを実践する機会を提供する。
6. 4年次の「音楽療法実習」では，少人数の学生グループが，自立して，地域の病院，福祉施設等のクライアントのニーズを特定し，音楽療法サービスを実践する機会を提供する。実習での教員の援助は最小限にとどめられるが，「音楽療法総合演習」において実習の内容を取り扱い，より高度なメソッド，テクニックの利用についてアドバイスを与えることによって，自身のセラピーがさらに豊かなものになるようにしている。
7. 4年次の「音楽療法実習」において，地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し，プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより，自らの探求する力，また音楽療法を他者に伝え，説明する力を養う機会を創出する。

【学修成果の評価】

音楽学部は，全学カリキュラム・ポリシーに基づき，学修成果を評価する。

1. 各授業科目において，到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。
2. 成績の評価は到達目標への到達度を目安とし，成績評価基準に基づき，厳格な評価を行う。
3. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し，学修成果の全体を評価する。

■薬学部

「教育目的」，「教育目標」，ディプロマ･ポリシーを達成するために，下記の教育を実施する。

1. 1年次では，薬学部での学習意欲を高めるために，入門的な薬学概論，病院・薬局・行政・企業・福祉施設を早期に体験する学習を配置する。また，少人数討論を含む演習，一般教養を身につけるための一般総合科目を実施する。
2. 全学年を通じて，薬学教育モデルコアカリキュラムに準拠した薬学の基礎知識と専門知識を学ぶための科目，臨床への応用のための科目を順次実施する。
3. 実務実習をふまえた医療準備教育を効率的に配置し，実施する。
4. 実務実習では，地域に密着した病院，薬局において，これまで学習した基礎的な知識・技能を実践の場で活かすとともに，その必要性や重要性を体得できるようにしている。
5. 主体的学習態度，課題発見・問題解決能力を養うため，3年次から研究室に配属して長期間の卒業研究を実施する。
6. 研究意欲の高い学生のために，1，2年次のどこからでも研究室の一員として研究に関わることが可能となる学部内インターンシップを設定している。
7. 研究室における卒業研究の一環として，英語論文を読みこなし，内容をわかりやすく紹介する機会を設ける。
8. 6年次に卒業研究発表会を実施し，調査，研究した内容を簡潔にまとめてわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける機会を設ける。
9. 実務実習，および，長期間にわたる卒業研究を通じて，豊かな人間性の構築，コミュニケーション能力を醸成する。
10. 本学薬学部の特徴を活かしたアドバンスト教育として，多様化する先端薬学について，高度かつ幅広い専門知識と技能の修得を目指す「コース制科目」を配置し，実施する。
11. 6年次においては，6年間を通じて学習した基礎知識，専門知識を薬剤師として活用できるよう総合的な学習科目を実施する。
12. 成績評価は，科目の特性に応じて適切かつ多様な評価方法と基準を設ける。「知識・理解」に関わる内容は，主に筆記試験やレポートで評価する。また「技能・表現」，「思考・判断」，「関心・意欲・態度」に関わる内容は，主にレポートやプレゼンテーション，ルーブリックを用いた評価法等で評価する。

■文学部

文学部のディプロマ・ポリシーに基づき，自立協同の建学精神を体得した社会人として活躍するために，5つの領域の基礎科目群を履修し，基本的力量を修得するカリキュラムの編成をしている。即ち，3学科共通の専門科目として，多様な情報を比較・検討した上で自らの考えをまとめ，それを的確な日本語で表現し，情報機器を駆使して分かりやすくプレゼンテーションできる力を養成する。具体的には， ・1・2年次では，日本語及び情報の基礎から応用力を体得し，併せて日本文化や欧米の歴史を学び，幅広い教養を身につける科目を設置している。 ・2・3年次では就職試験に役立つ基礎から応用力を身につける科目を設置している。	
日本文学科	文学部・日本文学科のディプロマ・ポリシーに基づき 1.1・2年次では，文学・語学の概論・概説，及び古典から近現代の文学史を学びつつ，日本文学・語学全般を俯瞰し，理解を深めるようにしている。 2.1〜3年次では，文学・語学（表現を含む）の演習，及び時代別文学の講読を学びつつ，調査力，読解力，思考力，表現力の段階的涵養を行うようにしている。 3.3・4年次では，専門分野に特化した文学・語学の講義を学びつつ，主体的に問題点を提起し解決を目指す態度を育成するようにしている。 4.4年次では，それまで積み重ねた調査力，読解力，思考力，表現力を動員し，独自の視点から卒業研究を推進するようにしている。研究成果である卒業論文においては，厳格な執筆条件を設け，なおかつ審査は主査と副査の複数体制で客観的評価を行うようにしている。 5.資格科目である国語科教科教育法は2年次から3年次に配当し，複数年掛けて教案作成から実践的な授業運営までを修得し，教員資質の養成に備えるようにしている。
英語英米文化学科	文学部・英語英米文化学科のディプロマ・ポリシーに基づき 1.1・2年次では，英語運用能力の基礎となる必修科目を中心に，海外留学も視野に入れ，「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能のスキルを高めるとともに，英語圏の文化の理解や，英語教育に関する基礎知識を習得するようにしている。 2.3・4年次では，より高度な英語運用能力を習得するための必修科目とともに，文学や言語学などの各専門分野を学ぶ選択必修科目・選択科目によって，自らの関心や進路に応じて課題を発見し探究する主体的な学びの態度を養うようにしている。 3.4年次では，それまで培った知識や思考力を発揮し，卒業研究などを通して，自らが設定したテーマに関して探究するようにしている。論理的な思考による問題解決能力だけでなく，国際化が進む社会で活躍するために必要な表現力を身につけるようにしている。 4.英語教育に関する理論と実践的な教授法を学ぶ科目を2年次から4年次に配当し，英語教員資質の養成に備えるようにしている。
文化財学科	文学部・文化財学科のディプロマ・ポリシーに基づき 1.1年次では，専門諸分野の基礎となる文化財に関する知識や歴史・地理などの初年次教育を行う。また，各分野に必修概論4科目を開講し，2年次の進路選択の幅広い知識・理解を深めるように編成している。 2.2年次では，各専門分野（史料学・考古学・建築史学・地理学）を選択し，分野別の実習と文化財調査の基本技能を身につけるようにしている。 3.3・4年次では，演習科目でフィールドワークを実施して専門性を深め，調査・分析を踏まえた思考・判断能力を身につけるようにしている。 4.4年次では，卒業研究を実施し，社会における文化遺産に対する認識や問題解決に活躍できる力を修得する。また，同級生や下級生の前で成果（卒研を含む）発表を行い，多方面からの指導を受けながら4年間の学びの集大成を行うようにしている。

■理工学部

理工学部のディプロマ・ポリシーに基づき，社会人として必要な一般的な知識や態度を身につけ，自立協同の精神にのっとり地域や組織で適切な役割を担える能力を修得するため多くの授業を配置している。理工系の教育は，概して積み上げの色合いが強く，専門技術習得のためには基礎的な数物化系科目の修得が必須である。そのために，１年次に高大連携の導入教育や基礎教育あるいは入学前教育や補修補講を準備している。２年次専門科目では，数物化系科目の高度な修得や，各学科の専門分野の知識や論理的な思考の修得及び体験型（実験・実習）を重視した授業を行っている。職業観・勤労観の育成は，インターンシップの奨励・指導等を通じて実施するように編成している。基礎及び専門科目では「ものづくりを通して人づくり」を主眼とする，職業教育の充実を目指した教育課程を編成方針としている。 また常に変わる社会状況において新たに生まれる課題や問題を解決するため，生涯を通じて継続的に学習し，自らの能力を高め続けるための方法論を学び，効率的な修学習慣を身につける。さらに，大学において身につけた知識・技術を社会において活用し，社会の一員として十分な活躍ができるように，自己表現力，プレゼンテーション，コミュニケーションの能力を身につける。	
機械創造工学科	1.1年次では，数学・物理に関する共通専門科目・機械工学全般を浅く広く学ぶ科目，工作実習，製図などの各種工作機械の操作・材料の工作法・図面の読み方など製造に関する科目，コンピュータ関連の基礎科目を配置し，実習を通して協同作業を体得する。 2.2年次から3年次にかけては，基礎的な設計能力を身につけるための材料・設計，熱流体，制御などの機械工学に関する専門科目，コンピュータ援用能力・システム化能力を身につけるための電気・電子に関する専門科目を配置し，機械工学の基礎を習得するとともに，物づくりに対する関心を高める。 3.4年次では，各研究室において卒業研究プログラムを配置し，機械技術者に必要な論理的な判断力及び創造する能力を身につけるとともに，コミュニケーション能力を身につける。 4.技術の進歩と社会の変化に貢献できる柔軟な適応力を身につける。また，他分野との融合を図り，問題を解決できる総合的な能力を身につける。

電子情報工学科	1.1年次では，工学の共通基盤である数学，物理学に加え電子・情報の入門となる専門科目と実験を配置し，基礎的な知識を幅広く身につけるとともに電子情報工学に対する関心を高める。 2.2年次では，ソフトウェア，ネットワーク，電気・電子回路などの専門科目を配置し，「電子工学」と「情報工学」の専門的知識を深め，基本的な設計能力，専門的知識を継続的に学習する能力を身につける。 3.3年次では，専門科目と実験及び演習を配置し，コンピュータとネットワークの仕組みが分かり，基本的な電子回路の製作法を修得でき，基本情報技術者試験に対応できる知識を身につけるとともに，ものづくりに適用してゆく能力を身につける。 4.4年次では，卒業研究を配置し論理的思考，率先して行動する姿勢，及び問題解決能力を身につける。 5.情報システム，情報応用に関する実験などの実践的科目を配置し，併せて体験支援などの課外活動を通じて能動的学修を促進し，協調しつつ相互のコミュニケーションに基づく共同作業を推進できる能力を身につける。 6.職業への理解を深めるキャリア教育科目を配置し，職業を通じた社会貢献に備える。
ナノ物質工学科	1.1年次では，生命科学コースと材料科学コースの共通基盤である数学,生物学，化学，物理学に関する基礎的な知識を幅広く身につける。 2.2年次では，生命科学コースと材料科学コースに関する専門知識を習得し，両コースの共通基盤である定性・定量分析基礎技術，バイオ操作基礎技術，物理計測基礎技術を身につける。 3.3年次では，生命科学コースと材料科学コースの少なくとも一方の分野において専門科目を深く学び，様々な状態を精密に定性，定量的な解析を行い，現状や効果を適切に判別できる能力を身につける。 4.4年次では，卒業研究を配置し論理的思考，率先して行動する姿勢，及び問題解決能力を身につける。 5.社会や環境に潜む問題や課題を見つけ出し，これを解決する意欲を育むため,地域学を学び,連携に必要な能力を身につける。 6.問題や課題を解決するための能力と論理的な思考力をつける。 7.大学において身につけた知識・技術を社会において活用し,社会の一員として十分な活躍ができるように,自己表現力，プレゼンテーション，コミュニケーションの能力,効率よく協同作業を行える能力を身につける。

■総合政策学部

総合政策学部・総合政策学科は，ディプロマ・ポリシーの達成のために，⑴教育課程の編成方針，⑵教育内容・方法，⑶学修成果の評価，の方針を以下のとおり定める。

⑴教育課程の編成方針

・第１年次には，複数の視覚からの分析を行いうる基礎的知識を涵養するために一般総合科目を置く。
・第１年次から第２年次において，社会科学の幅広い学問に通暁した知識を得るために専門分野の基礎的内容を教授，専門教育科目に「法学概論」「政治学概論」「経済学概論」「経営学概論」「社会学概論」を置く。また，社会の問題への適用や複数の視覚をもちいる力を身につけるための「総合政策学概論」を置き，これらを必修科目とする。
・第２年次から第４年次にかけて，社会科学の幅広い学問分野を実社会の問題に適用するための知識をえる専門教育科目を設置する。一例として「現代契約法」「ミクロ・マクロ経済学」「経営戦略論」「現代社会論」などである。また，日本学術会議の分野別参照基準にいう「基本的素養」を教授する科目を設置する。
・第２年次後期には，「専門基礎演習」として，「卒業研究」にとりくむための，文献調査法，社会調査，データ分析等の技術を学ぶ科目を設置する。第３年次から第４年次にかけて「卒業研究」にとりくませ，具体的な社会の問題を解決するに必要な総合政策を立案する能力を養う。

⑵教育内容・方法

・「調べ，考え，議論する，そしてそれを文章にまとめる」を教育のモットーとし，教育課程におけるすべての科目に適用する。つまり，「基本的知識を獲得する目的での講義」，「自身の知識の定着をはかる授業外学習（調べ・考え）」，「多様な価値観をもった人間同士が話し合うことで考え方の優劣を知るSGD（Small Group Discussion）（議論する）」，「その結果をレポートにまとめる」といった教育方法を有機的かつ効果的に組み合わせる。

⑶学修成果の評価

・知識の定着度合を評価する「筆記試験」，多様な考え方を持った者同士の議論の成果を含む「レポート」，その成果をさらに自分のものとして咀嚼する「プレゼンテーション」などの実技，など科目の教育目的に応じて組み合わせて評価する。

■香川薬学部

香川薬学部の教育理念に基づきディプロマ・ポリシーの７項目を実現するため，真に実力があり，社会に貢献できる薬学人を養成することを目的として，「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠し，豊かな人間性をもった医療人としての高い医療倫理観が育まれ，幅広い知識が獲得でき，問題発見能力と問題解決能力が身につく教育プログラムを編成する。

1年次には，入学までの基礎学力に応じたプログラムを準備し，豊かな人間性の醸成，コミュニケーション能力の向上，薬学人として自覚を獲得できる教育プログラムを配置する。

2年次以降は，薬物療法の実践と医薬品を適正に使用する能力さらに地域の人々の健康を支えることができる能力を醸成するために，1年次後期から開始される薬学専門教育を順次専門性の高い教育へと体系的かつ総合的に修得できる教育プログラムと，薬学基礎実習を通して必要な技能・態度の修得できる教育プログラムを配置する。

3年次には，薬学専門教育をさらに究めるとともに，2年次から続く実習を通して，技能・態度の修得だけでなく，問題解決能力を醸成させる教育プログラムを配置する。

4年次には，5年次の病院・薬局における実務実習に必要な知識・技能・態度を修得するための科目を配置する。また，配属された講座において卒業研究の準備段階にあたる研究を経験することで，早くから問題発見能力及び問題解決能力の獲得に向けた教育プログラムを準備する。

5年次には，医療の現場でチーム医療の一員としての薬剤師業務を体験する実務実習，問題解決能力が修得できる卒業実習，将来希望する進路に向けてさらに専門性を深めた実務を学べるアドバンストコースを配置する。

6年次には，卒業研究を完成させるプログラムを配置するとともに，薬剤師として必要な知識・技能・態度を発揮できる能力を身につけるための総合的演習を配置する。

なお，薬剤師として身につけるべき生命・医療倫理，チーム医療とコミュニケーション及び薬剤師に関わる社会の仕組みについては，6年間かけて修得できるようにすべての学年に教育プログラムを配置する。

以上の教育プログラムに従う教育を年次毎に実施し，学修成果は，筆記試験あるいは口述試問及びレポート等により総合的に評価する。これに加えて，1～6学年の全ての必修科目について，香川薬学部の7つのディプロマ・ポリシー(DP) へ寄与する割合(DP配分)を設定している。各授業科目の評定時の試験の得点にDP配分を乗じて（単位数も乗じる）6年間にわたり修得全科目について積算したDP得点を算出し，これにより卒業までの総合的な学修の成果(DP達成度)を測定する。(DP得点/DP累計=DP達成度)

■保健福祉学部

授業科目を一般総合科目，専門教育科目としている。1年次は，幅広い教養を身につけ，医療・福祉の基礎を学び，2年次は，各科関連の技術を修得する。3年次，4年次は，臨地実習を行い理論と実践を統合させるとともに，自ら関心がある分野を発展させ，国家試験に向け学習する教育課程を編成している。	
人間福祉学科	人間福祉学科では，様々な福祉課題を持つ人びとの生活の質を向上させるため，人間と社会について多角的な視点から分析・理解し，課題の解決に取り組むための知識・技術を習得する，というディプロマ・ポリシーを実現するために下記の教育を実施する。 1.全学年を通じて，社会福祉士及び精神保健福祉士のカリキュラムに準拠した専門知識・技能を学ぶための科目を配置する。資格取得のみにとどまらず，幅広い学問領域を学び広い視野を持ち，未知の問題に出会ったときに保有する知識を元に思考して解決に結びつける能力の醸成を目指す。 2.学内での学びに加えて，学外の相談援助機関の関係者と緊密な連携のもと，外部講師の招聘及び相談援助機関の見学を行い，様々な福祉課題の実態について体験を通じて学ぶ実践教育の実現を図る。 3.1年次は，社会福祉の意義や理念について概説し，社会福祉への学習意欲の向上を図る。また，対人援助に携わる者に求められる豊かな人間性と倫理観を習得するための基礎ゼミ，一般総合科目を配置する。 4.2年次は，社会福祉のサービス・制度・社会的活動のあり方の理解に向けた科目を設定する。次に，相談援助演習を通して，相談者と専門家の視点を深め，相談援助機関での実習に向けたレディネスを確立する。 5.3年次は，相談援助機関において実習を行い，これまで学習した基礎的な知識・技能を実践の場で活かすとともに，実践の場での経験から基礎的な学習の重要性を体得できるよう学習科目を配置する。加えて，実習報告会を実施し，実習の経験習得した技能を，簡潔にまとめてわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける機会を設定している。 6.4年次は，4年間を通じて学習した専門知識を社会に出て活用できるよう，総合的な学習科目を設定している。特に学びの証として国家資格の取得に向けて，国家試験対策を重点的に実施し，確固とした専門知識・技術の習熟を図る体制を構築している。また，精神保健福祉士の資格希望者には，精神障がい者の社会復帰に係る相談援助機関において実習を行い，実践の場での経験を通して専門的・実践的技能を習得する機会を確保する。
看護学科	看護学科のディプロマ・ポリシーは，「1.生命を尊び，人間についての幅広い知識を身につけ，対象を全人的に理解して，人々の健康を支援することができる。」「2.看護の専門職者として必要な感性を磨き，基本的知識・技術を獲得して，さまざまな状況で活用できる。」「3.看護の専門職者として自己の責任を自覚し，医療チームの一員として協働活動に参加できる。」であり，これらを実現するために，次の教育を実施する。 1.看護職として必要な看護実践能力を確実に身につけるために，全学年を通じて，講義・演習・臨地実習の順序で，系統的に学習できるカリキュラムを構築している。とくに演習（技術演習）・実習（臨地）は重要で，卒業要件の総単位数の25%を占め充実させている。 2.学生の発達段階や能力に応じて，順序だてて教育プログラムを編成している。1年次は「専門基礎分野科目」をとおして，看護実践に必要な基礎医学や保健医療福祉の基礎知識を学ぶ。2年次は「専門分野科目」を中心に看護職として必要な専門知識と技術を学び，3年次は「実習科目」をとおして，科学的思考に基づき計画的に看護を提供する能力を体得できるようにしている。4年次においては「がん看護論」「糖尿病看護論」「臨床薬理学」など特色ある多くの「臨床総合科目」を配置し，看護実践能力を高め統合できるように設定している。 3.入学直後から，一般総合科目や「文理学」，「ボランティア」，「援助的人間関係論」などを幅広く学び，豊かな人間性と良識をもつ社会人としての基礎力を養うよう設定している。1年次前期に開講する看護技術演習や病院実習など，早い時期から医療現場を体験することで看護に関心をもち，思いやりの気持ちを養い，医療人としての自覚を体得できるようにしている。 4.充実した学内設備で基本的な看護技術を修得し，さらに刻々と変化する患者の状態を判断し行動する能力を養うために，高機能シミュレーターや生体モデルなどを用いて実践的で有効な学内演習を行っている。 5.学んだことを応用する力を修得するために，県内外の地域医療機関と連携し実習を行っている。5～6名の少人数の学生に1名の実習指導者が，実習終了まで一貫して指導し，実習をとおして看護の専門職として自己の責任を自覚し，医療チームの一員として協働活動に参加できる能力を身につけるよう設定している。 6.理学療法士，臨床工学士などを養成する保健福祉学部の特性をいかし，シミュレーション学習や実践的なチーム医療を体験しながら，お互いの職種の理解を深め，チーム医療の中で看護職の役割を体得できるよう設定している。
理学療法学科	理学療法学科のディプロマ・ポリシーは，①健康に関連する専門職（allied health profession）としての理学療法士として，専門分野の学問内容や知識・技術を習得する，②生命に対して畏敬の念を抱き，豊かな人間性，良識及び教養を身につける，③健康に関わる問題・課題に対して真摯に取り組み，科学的根拠に基づいて論理的・客観的な視点を持ち，適確な判断と行動がとれる，④健康に関わる他職種と連携を取り，協働し必要な支援・援助ができる，⑤理学療法の実践を通して積極的に社会に貢献できる，などである。これらを実現するために以下に挙げる教育内容を実践する。 1.理学療法に関する基礎的教育と幅広い分野・領域に対する包括的教育の提供 理学療法に関わる基礎的教育はもとより，広く保健・医療・福祉の分野・領域に関連する理学療法の知識・技術を習得する。また，理学療法で広がりを見せている分野（特に呼吸・循環・代謝，健康予防，スポーツ，地域ケアなど），関連分野（社会学，保健学，社会福祉学，生活環境学など）について包括的教育を実践する。 2.円滑で継続的（連続的）な教育カリキュラム設定 1～4年の学年進行に沿い，基礎科目・専門科目・実習科目などが円滑に継続的（連続的）に学習できるような履修配置をしている。1年次では「専門基礎分野」として基礎医学，基礎理学療法など，2年次では「専門分野」として臨床医学，理学療法関連専門科目など，3年次では「理学療法専門分野」として疾患（障がい）別の理学療法（実習を含む），理学療法研究関連など，4年次では「臨床総合分野」として総合臨床実習，理学療法管理学，理学療法総合演習，卒業研究などを配置している。 3.初年度からの継続的な臨床（現場）体験ができる実践重視の臨床実習カリキュラム設定 臨床（実践）現場を継続的に経験・体験するために，各実習を1年次（医療機関での見学実習），2年次（障がい児・者，高齢者施設での見学実習），3年次（医療機関での評価実習），4年次（医療機関での総合臨床実習）に配置している。 4.身体（運動）機能解析のための先端研究機器の整備（活用） 3次元動作分析装置，筋活動解析装置，呼吸・循環機能解析機器など客観的解析（分析）に必要な先端研究機器の整備（活用）によって，研究活動への導入（実践）を行う。また，その他のリハビリテーション関連機器，理学療法に必要な機器（道具）を整備（活用）する。 5.関連する他学科（他職種）との相互理解と連携 関連する他学科（他職種）と共通する科目履修や機会を捉えた交流体験（学内・学外での社会活動，調査活動など）を通して，お互いの職種の相互理解と連携の場を多く設定している。

診療放射線学科	診療放射線学科では，高度に進化した医療機器を操作するだけでなく，チーム医療の一員として協働活動に責任感と使命感を持って参加でき，専門職として常に探求心を持って医療に関わることができる診療放射線技師を養成する，という教育目標，ディプロマ・ポリシーを実現するために，下記の教育を実施する。 1.豊かな教養を持ち，放射線診療を的確に遂行できる医療人を養成することを第一の目標とする。 2.理系出身者のみならず文系出身者にも配慮した専門科目教育を目指す。 3.1年次は基礎教養科目を中心として学習するが，専門科目も数科目配置する。また将来の目標職種である診療放射線技師の業務を理解し，国家資格取得に向けた学習のためのモチベーションを高めるため，早期体験学習として近隣の大学病院の放射線診療施設を，白衣着用して医療人の視点から見学・学習を行う。 4.2年次からは，より専門的な検査学や診断学についての放射線専門科目を中心として学習する。 5.3年次は学内実習や放射線を利用した実験が中心となる。学内に設置してあるCT装置やMRI装置を実際に学生が操作して実習・実験を行うことで，さまざまな放射線診療の目的を理解するだけでなく，各診断装置の操作方法を習得する。さらに高度に専門的な学習科目も授業に加える。 6.3年次後半から4年次にかけて担当教官の指導の下に卒業研究を行い，課題発見・問題解決能力を養う。そして研究成果を口述発表することでプレゼンテーション能力を養い，さらには論文にまとめることで文書化能力を高める。 7.4年次には実際の医療現場である臨床実習先病院において8週間の臨床実習を行う。この実習を通して実際の医療現場を体験するだけでなく，患者接遇，医療事故防止のための対策，医療倫理等についても学ぶ。 8.学力不足の学生には別に特別講座を設けて指導し，学力向上を目指している。また放射線に関係する国家資格取得を希望する学生には専門の講座を開設し指導を行っている。
臨床工学科	臨床工学科は，医療と工学の連携を円滑に図るための基礎知識や技能の習得に加えて進歩する高度医療機器及び新技術への柔軟な対応能力を備えた臨床工学技士を育成するとともに，ディプロマ･ポリシーを実現するために，下記の教育を実施する。 1.1年次では，専門への導入のための知識と一般教養を身につけるための一般総合科目，専門性にとらわれない幅広い視野と，豊かな人間性の育成を目指すために，形態機能学，医学用語，医用工学，早期医療体験などの科目を配置する。 2.全学年を通じて，医学系と工学系を融合する臨床工学の専門的な知識を学ぶための科目，臨床実習のための科目を配置する。 3.2年次以降では高度医療や新技術へ対応するための技能・技術を高めるとともに，それらの実践力を養い，また主体性，創造力及び課題発見・解決能力等の育成を目指す科目を配置する。 4.2年次からの専門科目の演習・実習・実験においては，学生が主体的に研究・発表を行い，基礎的及び実践的な知識を修得しながら，臨床現場での対応能力，コミュニケーション能力や，問題解決能力，さらには共同研究の進め方など，社会及び医療で必要となる適応力を養う科目を配置する。 5.3-4年次では，研究室配属をすることで長期間にわたる研究を通して，主体的学習，課題発見・問題解決能力を発展させ，先進的医療機器や新技術の開発が可能な能力を養う機会を設定する。 6.4年次には，3年間学んできた基礎知識，専門知識及び実務技能をもとに，医療施設における臨床実習を実施し，医療の現場に触れるとともに総合的・実践的な能力を深められるようにしている。
口腔保健学科	口腔保健学科のディプロマ・ポリシーは，「歯科衛生士に必要な基本的・知識・技能・態度の修得に加え，高度化・多様化する歯科医療の現場や地域の医療・保健・福祉システムの中で他の専門職種と連携して口腔保健の専門職としての役割を担うための知識・技能・態度を修得する」などであり，これらを実現するために下記の教育を実践する。 1.高い専門性を持つ歯科衛生士として必要な実践能力を確実に身につけるために，基礎分野，専門基礎分野，専門分野と段階的な履修配置とし，全学年を通じて講義・演習・臨地（臨床）実習の順序で系統的に学修できるカリキュラムを構築している。また，コミュニケーション能力及び問題解決能力等を高めるために参加型授業やPBL，小グループ討議などを多く取り入れている。 2.1年次は主として一般教養科目を配置し，豊かな人間性と社会人として必要な一般教養を身につける。1年次後期にアーリーエクスポージャーとして「口腔保健臨床実習Ⅰ（早期体験実習）」を幼稚園及び高齢者施設で実施し，3年次に行う同じ施設での臨地実習と連動させ，人の成長発育及び老化や死について学ばせる。1年次後期から2年次前期にかけて，専門科目を学ぶ上で基礎となる専門基礎科目を歯科衛生士学校養成所指定規則の教育内容に沿った形で編成している。2年次後期から3年次前期にかけて，歯科衛生士業務を実践するうえで必要な専門的知識・技能・態度を修得する科目を配置し，充実した学内設備で行うファントムを用いた基礎実習ならびに歯科診療ユニットを使用する相互実習などに多くの時間を当てている。また，「高齢者口腔保健衛生学」，「摂食嚥下リハビリテーション学」，「口腔介護学」及び「歯科医療リスク管理学」などは授業に演習も取り入れ，有病者や要介護高齢者等に対応するための知識・技能・態度を修得させる。 食物栄養学科の教員が分担する「食生活指導論」では個人及び集団に対して食事指導ができる能力を養成する。3年次後期から4年次にかけて，学外の臨地（臨床）実習及び卒業研究を配置し，大学病院，一般病院，歯科診療所，高齢者施設，幼稚園及び学校等で実践的な技能・態度を修得させる。特に病院で行う実習では専門外来での歯科臨床，周術期の口腔ケア，NST（栄養サポートチーム）の業務等を見学・体験させ,現場での多職種連携を学ぶ。卒業研究では科学的思考及び判断力と問題解決能力を修得させる。 3.学内の関連する他学科との専門職種間連携教育や学内外での交流体験及び臨地実習などを通して，医療・保健・福祉の現場での多職種連携を体得できるよう設定している。

【短期大学部】

<table>
<tr><td rowspan="2">生活科学科</td><td>生活科学専攻</td><td>生活科学専攻は，「ものづくり（ブライダル・ファッション，パティシエ，デザイン・アート）」業界で働くための教養と基礎知識，そして業界別の専門能力を養成するという教育目的，ディプロマ・ポリシーを実現するために，下記の教育を編成している。
1.1年次
1)社会で必要な知識と教養を身につけるために一般総合科目と，キャリア能力を養成する講義科目を配置する。
2)専門能力を養成するうえで基礎知識となる，ライフスタイルを学ぶ講義科目を配置する。
3)専門能力養成の重要な基礎技能である，デザインスキルとカラースキルを養成する講義や演習科目を配置する。
4)ブライダル・ファッション，パティシエ，デザイン・アートの各専門業界における基礎知識や基礎技能を習得する講義や演習科目を配置する。
2.2年次
1)ファッション，パティシエ，デザイン・アートの各分野では制作技能の向上を図る演習科目を配置し，卒業制作展で発表している。
2)パティシエのため，食品に関する専門的な知識を修得する講義科目を配置する。
3)ブライダルコーディネートではブライダルファッションショーの開催という共同作業を通じて，ブライダル業界の知識修得のみならず，社会における基本的思考能力や状況判断能力を養成するようにしている。</td></tr>
<tr><td>食物専攻</td><td>食物専攻は，栄養士・食のスペシャリストを養成するというディプロマ・ポリシー実現のため，次の方針で編成している。
1.教育内容・方法
1)社会人に必要とされる幅広い教養を身につけるため一般総合科目を配置し，「文理学」で調理の基礎や食文化を学ぶ内容を設定している。
2)1年次は，食品・栄養・調理に関する専門的な知識を理解するため，前期に講義を中心とした基礎的内容を学習し，後期に実験・実習で検証するよう設定している。
3)学生が幅広く関心のある科目を履修できるよう，栄養士の基礎科目及び専門科目に加えて，食品関係資格に通ずる科目，教職に関する科目を設置し，アクティブラーニングを積極的に取り入れている。
4)2年次は，基礎から応用につながるような講義と実験・実習を取り入れ，卒業時に応用・実践力をそなえた栄養士を育成するため，系統立てた教育内容を実施している。
5)向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を身につけるため，食品や栄養学的な知識を基にした調理技術，ライフステージおよび疾病に対応した献立作成能力，食育を行える栄養指導能力をつけるなど，多様な実験・実習科目を提供している。
6)2年後期の「給食運営管理実習(臨地実習)」では，集団給食施設において，これまで学習した専門的知識と技術を統合するとともに，チームの一員として役割を理解し，協調性を持ちかつ主体的な行動がとれるような育成を目指している。
2.教育評価
学習成果は，各科目シラバスに到達目標と成績評価方法を明記し，それに基づいて到達度を評価する。またGPAを算出し，総合成績評価を行っている。</td></tr>
<tr><td>保育科</td><td colspan="2">保育科のカリキュラムは，ディプロマ・ポリシーに明記している保育者として必要な能力を修得するために次の方針で編成している。
1.2年間で，全学生が保育士資格及び幼稚園教諭2種免許状を取得することができる。
2.社会人として求められる幅広い教養を身につけ，心身ともに健康な人間を育成するために，一般総合科目を配置している。
3.保育者の養成科目について，順序性を考慮し編成している。
4.子どもの心身の発達について広く理解し，支援について学ぶために，子どもの心身の発達に関わる科目を配置している。
5.保育者の役割と倫理について理解し，保育・教育の意義や内容・方法についての理解を深めるため，専門知識・技術の修得に関わる科目を配置している。
6.保育現場での課題を発見し，新たな課題に対し自主的に問題解決に取り組むことができる柔軟で創造的な思考力を持った人材を育成するために，実習科目，保育・教職実践演習（幼稚園）を配置している。
7.学生の主体性と協調性を養うことを目的とし，保育セミナー，おとぎのくに，ペンギンクラブ，子育て支援体験などの学科行事に参加・推進する機会を設けている。
8.個々の学生の個性を伸ばし，表現力を養うことを目的として「音楽」等独自の科目や「おとぎのくに」など対外的な行事を設けている。
9.社会の一員としての自覚を持ち，地域の人々と良好な関係が築けるよう，子育て支援のボランティア活動への参加を，キャリア教育の一環として推奨している。</td></tr>
</table>

言語コミュニケーション学科	言語コミュニケーション学科のカリキュラムは，次に挙げるディプロマ・ポリシーによる要件に連動させながら編成している。 1.言語に対する分析的な視点を形成するため，また，自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めるため，専門教育科目のうち「言語とコミュニケーション」と「日本語表現法」の履修を奨励し，「英米文化論」，「英米文学」，「異文化間コミュニケーション」，「日本文化論」，「日本文学」などを専門教育科目の核として設置している。また，英語の基礎・実践的英語力の養成分野においては，「英会話」や「実践英語」などの専門教育科目群を設置している。 2.読み解く技術を習得するため，また，相手を説得できる表現能力を養成するため，「プレゼンテーション演習」などの専門教育科目を軸に，学んだ事柄の実践的な運用ができるような訓練を繰り返す。 3.チームで働く力を養成するため，また，将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立するため，主に「キャリアプランニング」，「観光総論」，「旅行業務入門」などの専門教育科目群を設置し，社会人としての基礎力を養う。
音楽科	短期大学部音楽科は，ディプロマ・ポリシーを実現するために，下記の教育を実施する。 ●音楽療法コース 1.全学年を通して，全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（2種）養成の教育課程」にしたがい，音楽，音楽療法，音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。 2.1年次は，幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と，音楽療法士に必要な演奏能力を養うために，基礎的な内容の「理論系科目」，「演習系科目」，「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」，「音楽療法演習」を配置する。 3.とくに1年次後期には，2年次より開始される実習に備え，「音楽療法概論Ⅱ」として，アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準(AMTA Standards of Clinical Practice) にもとづき，1)紹介と受け入れ，2)アセスメント，3)治療計画，4)実施，5)ドキュメンテーション，6)終結，という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。 4.2年次の「音楽療法実習」では，「事前指導」を配置し，教員及び学生間による援助を大きく受けながら，地域の病院，福祉施設等の高齢者のニーズを特定し，グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。 5.2年次の「音楽療法実習」において，地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し，プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより，自らの探求する力，また音楽療法を他者に伝え，説明する力を養う機会を創出する。 ●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース 1.1年次は，音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に，音楽に対する学修意欲を高めるため，基礎的な内容の「理論系科目」，「演習系科目」，「実技系科目」を配置する。また，幅広い知識を身に付けるための一般総合科目を配置する。 2.一部の演習系科目と実技系科目においては，習熟度別のクラス編成を行い，一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。 3.全学年を通して，「理論系科目」，「演習系科目」，「実技系科目」において，基礎的内容から専門的な内容の科目まで，順次配置する。 4.中学校教員免許（2種）を取得するため，また音楽指導者を目ざすための科目として，全学年を通し，「教育系科目」を順次配置する。 5.音楽療法士（2種）を取得するための科目として，全学年を通し，「音楽療法系科目」を配置する。 6.2年次修了時には，卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し，2年間の研究成果を評価する。 7.「卒業演奏会」を開催し，卒業試験における成績優秀者には発表する機会を提供する。
商科	商科のカリキュラムは，ディプロマ・ポリシーに明記している能力を習得するために次の方針で編成している。 1.ディプロマ・ポリシーを実現するために5つの科目群を配することで，履修科目が特定領域に偏ることなく，社会人に求められる幅広い知識を身につけることが可能となる。 科目群は「教養」，「キャリア能力」，「コミュニケーション能力」，「実務能力」，「専門能力」の5つである。 2.各科目群における科目の配置は以下の通りである。 「教養」には社会人としてわきまえるべき話法，礼儀やマナー，情報の取扱の基本，生活を規律する基本的な法律を1年次の科目として配置している。 「キャリア能力」科目群は，入学後1年足らずで就職活動が始まることに鑑み，社会人としてのキャリア形成や人生設計を自らの力で方向付けをするための科目を配置している。 「コミュニケーション能力」科目群には，コミュニケーション能力を育む科目を配置している。 「実務能力」科目群には，簿記やパソコン，医療事務やビジネススキルに係る科目を配置している。 これらの科目は，ビジネス社会で能力評価の参考とされることが多く，資格取得により到達レベルの判定が可能である。 「専門能力」科目群には，経済，商業・経営，および法律系科目を配置している。広い視野で物事を考え，柔軟な発想のできる人材養成に繋がると考えている。 なお，簿記とパソコンはビジネスの幅広い領域で必要とされることに鑑み，一部を必修科目としている。 また，経営学および経済学も，社会の現状を捉える際の基本的領域と判断し，一部を必修科目としている。

(3)入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学の教育は，明治28年の学園創立以来，建学の精神「自立協同」に基づき，一人ひとりが自立し，協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしています。

【求める人物像】

①教育理念及び教育内容に共感し，強い学びの意欲を有する人

②知識や技能を修得するために必要な基礎的学力など，大学教育を享受する備えができている人

【入学者受入指針】

各学部・学科でその専門となる内容を学ぶためには，広い視野と知識が求められます。このため，高等学校等で幅広く基礎的な勉強に励み，大学の授業を受ける土台を身につけた人を求めます。また，入学者選抜では，学力のみでなく，調査書や面接等をとおして，自らの興味・関心を生かして幅広く学び，問題を発見し，自ら問題を解決する姿勢を評価します。

【大学院】

<table>
<tr><th>研究科名</th><th>専攻名</th><th>博士前期課程</th><th>博士後期課程</th></tr>
<tr><td>薬学研究科
（4年課程）</td><td>薬学専攻</td><td></td><td>求める人物像
医療・医薬品開発現場の中心的役割を担える薬剤師もしくは研究者になることを希望する学生を求めます。探究心と向上心，研究能力を備えた薬剤師としての独創性，さらには医療人としての広い視野と高い倫理観を身につけ，医療現場で薬物治療の専門職として指導的役割を果たす薬剤師，ならびに医薬品開発の中心的な役割を担える研究能力を備えた薬剤師もしくは研究者になることを希望する人材及び，人類の健康増進に奉仕し，地域社会の発展に貢献する希望を抱く人材を求めます。
入学試験の基本方針
・英語（生物），英語（化学）において，研究能力としての英語力を評価します。
・面接において，研究能力や倫理観，志望動機などを評価します。</td></tr>
<tr><td>文学研究科</td><td>地域文化専攻</td><td colspan="2">文学研究科は，地域社会の創造的発展に寄与しうる学識と研究能力，学問的客観性を体得した人材の育成を目指しています。地域文化専攻には「文化と地域」「言語・文学と地域」の二つの研究区分があり，それぞれの研究領域において，特別講義と演習を設定し，上述の目的を達成すべく教育と研究に取り組んでいます。本研究科は，専攻分野に必要な知識及び語学力を持ち，地域文化に深い関心と熱意を持って意欲的に学術研究を進めようとする人を求めます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">工学研究科</td><td>システム制御
工学専攻</td><td colspan="2" rowspan="2">教育・研究
工学研究科では，高度な科学・技術教育を行います。専門テーマに沿った実験・実習を通して，未知への挑戦を含めた研究・開発の実践的かつ理論的能力をつけることを目指します。
求める人物像
今日の高度な科学・技術に興味をもち，自ら進んで新しい科学・技術にかぎらず何事へも挑戦する気概と実行力のある人。</td></tr>
<tr><td>ナノ物質
工学専攻</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人間生活学
研究科</td><td>人間生活学
専攻</td><td></td><td>求める人物像
・人間生活学（臨床人間学・食生活学・生活環境学）の研究の基礎となる豊かな学識を養い，高度な研究能力を身につけたいと希望する人。
・人間と生活に関する高度専門職業人・研究者となり，学芸の進歩に貢献したいという意欲のある人。</td></tr>
<tr><td>・食物学専攻
・生活環境情報学専攻
・児童学専攻
・心理学専攻
（臨床心理学コース）</td><td>求める人物像
・人間生活をとりまく食物学・生活環境情報学・児童学・心理学に関する高度の専門性が求められる職業を担うための，深い学識と能力を培いたいと希望する人。
・各専門分野の理論と応用を研究し，学芸の進歩と創造に貢献したいという意欲をもつ人。</td><td></td></tr>
</table>

看護学研究科	看護学専攻	看護学研究科は，地域の保健医療福祉に貢献できる高度な看護研究者・看護教育者・看護管理者及び看護ケア提供者の養成を第一義的とすることから，実務経験を有する看護職者を積極的に受け入れることを基本方針とします。 求める人物像 1 博士前期課程で看護実践者，看護教育者，看護管理者として学ぶ意欲のある人 2 自分の関心のあるテーマを探究して修士学位論文を作成し，修士（看護学）の学位取得を目指す人 3 博士前期課程修了後，各自の領域において研究マインドをもって課題解決に取り組む意欲のある人 4 博士前期課程修了後，博士後期課程に進学する意志のある人	看護学研究科は，地域の保健医療福祉に貢献できる高度な看護研究者・看護教育者・看護管理者及び看護ケア提供者の養成を第一義的とすることから，実務経験を有する看護職者を積極的に受け入れることを基本方針とします。 求める人物像 1 看護系教育機関における教育者・研究者として創造的に教育・研究を推進し，新たな看護学の知識体系の構築，開発に取り組む意欲を持っている人 2 チーム医療の中核的存在として学際的にマネジメントできる能力と高度な研究能力を発揮し，看護管理者として研究開発できる意欲を持っている人 3 看護実践のフィールドにおいて課題解決を推進する中心的指導力を発揮し，高度看護専門職を育成する意欲を持っている人 4 看護学の学問発展に向かって自律した研究者として挑戦的に研究に取り組む意欲を持っている人
総合政策学研究科	総合政策学専攻	総合政策学研究科は，法律，行政，経済，金融，企業経営に関する高度な研究や，政策実施現場での経験を通じ，地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材を養成することを目的とします。 そのため，地方公共団体等の行政部門で活躍しつつ，高度な問題解決力を身につけようとしている人，地域の民間部門で活躍しつつ，地域のもつ特性や課題を分析しながら，地域の発展を支えようとする人，社会科学系学部だけでなく，理系，人文科学系などの様々な分野の学部を卒業して多様な基礎的知識を身につけた学部学生を広く求めます。 求める人物像 1 これまで長期にわたり，地域の行政部門や企業組織で活躍してきて，その活躍の場で明確な問題意識をもち，その解決策を考案し，研究を志す学生 2 地域の問題を明確に意識し，それを理論的知識と結びつけて，解決策を導く意欲をもつ学生 3 政策の実現に必要となる分析力，思考力及び表現力などの基礎的学力をもつ学生	

【専攻科】

音楽専攻科	求める人物像 1 学部教育における知識や技術，研究の上に立ち，より専門性の高い学修，研究と実践に努めようとする強い意欲を持っている人。 2 音楽専攻科で学修，研究した専門性の高い知識や技術，能力を生かし，社会における様々な音楽活動，音楽療法実践に対し積極的な参画をしたいと考えている人。
人間生活学専攻科	人間生活学専攻科は，人間生活学専攻と児童学専攻の２専攻からなり，人間生活学専攻では生活科学及びその隣接領域を，児童学専攻では児童学の分野を，それぞれ精深な程度において研究し，時代・社会の変化に対応できる高度な専門性をもった人材を育成しています。また，人間生活学専攻においては，養護教諭の専修免許状と中・高の家庭科専修免許状，児童学専攻では幼稚園及び小学校の専修免許状を取得できます。 求める人物像 1 各専攻における内容に関して，学士課程卒業に相当する知識・技能を修得している人を求めます。 2 幸せな生活の追究や，教育の改善等について，常に課題意識をもち，その解決に向けて意欲的に取り組んでいくことのできる人を求めます。
助産学専攻科	助産学専攻科は，高度な専門的知識や技術を持った助産師を育成するため，学士程度の学力と看護師資格を有する学生を受け入れることを基本方針とします。 求める人物像 1 助産師教育を学ぶ上で基礎となる学力を持っている人 2 お互いを尊重し，協力しながら主体的に行動できる人 3 豊かな人間性と社会性，倫理感性を持った人 4 生命の誕生に責任をもって真摯に向き合える誠実な人

【大学】

■人間生活学部

6学科それぞれで，人間生活に欠かせない学問分野を専門的に学び，豊かな生活が創造できる実践的な専門家（管理栄養士，幼・小・中・高教員，保育士，情報処理士，建築士，認定心理士など）を養成します。

1 学部の求める人物像

⑴各学科に必要な基礎知識を有し，それを生活や勉学で生じる疑問や課題の解決に応用することに興味・関心のある人を求めます。

⑵継続的な努力のできる強い意志をもつ人を求めます。

2 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて，求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。

一般選抜では各教科の基礎が身についていることを評価し，総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

3 各学科の求める人物像，高等学校等で修得が望ましい内容

人間生活学科	求める人物像 食衣住，家庭，環境などについて専門的に学び，生活者としての豊かな教養を養います。「家庭科教諭」や「養護教諭」に加え「二級建築士」「上級情報処理士」「フードスペシャリスト」などの資格取得を支援します。そのため，人と生活に興味・関心があり，勉学に意欲のある人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 高等学校等で幅広い基礎学力を身につけ，主体的に自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。
食物栄養学科	求める人物像 将来，管理栄養士になり，ヒトの健康の維持や疾病の予防・治療に貢献したい明確な意志と目標をもった人を求めます。そのため，しっかりした基礎知識や能力を身につけ，学習に対する意欲や継続性，また協調性や柔軟性のある人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 「生物基礎」または「化学基礎」を修めていることが望ましい。
児童学科	求める人物像 豊かな人間性と確かな実践力に裏付けされた高度な専門性をもつ保育士，幼稚園教諭，小学校教諭の育成をめざしています。そのため，次のような人を求めます。 ⑴主体的に学ぶ姿勢と旺盛な探究心があり，専門的知識や技能の修得に積極的に取り組むことのできる人 ⑵教職や保育職に強い関心と意欲があり，子ども一人ひとりに愛情をもち，子どもの思いに寄り添うことができる人 ⑶周囲の人たちと豊かな人間関係を築くことができる人 ⑷ボランティア活動の経験があり，人のために役立つことに喜びを感じ，社会への積極的な貢献に取り組む意欲のある人 高等学校等で修得が望ましい内容 各教科の基礎的学力をバランスよく修得し，明確な目的意識や熱意があること。
メディアデザイン学科	求める人物像 メディアテクノロジーを活用して，現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を身につけた人材を育成します。そのため，情報メディアの活用に意欲・関心がある人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要となる基礎学力(特に国語，数学)を身につけていること。
建築デザイン学科	求める人物像 人が生きていくために不可欠な住まいに関する知識や技術を基準にして，建築（物）を創造するために人間の感性や生活環境に対する深い理解とともに，建築士，建築施工管理技士，インテリアプランナー，インテリアコーディネーター，宅地建物取引士，中・高の家庭科教員などを目指す意欲のある人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要となる基礎学力（特に国語，数学）を身につけていること。
心理学科	求める人物像 現代心理学の知見に基づく科学的な知識と思考（冷静な頭）と，臨床心理学の基本である他者への共感的理解（暖かい心）をもった人材を育成します。また，児童生徒の心理に強い「養護教諭」，高い専門性で社会に貢献する「臨床心理士」，国家資格「公認心理師」取得の援助を行います。そのため，人の心や社会とのつながりを大切にし，積極的・自主的に学ぶ意欲のある人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要となる基礎学力(特に国語，数学)を身につけていること。

■音楽学部

1 学部の求める人物像
⑴音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人
⑵音楽あるいは音楽療法を深く学び，社会に貢献したい人
2 高等学校等で修得が望ましい内容
⑴音楽の基礎的知識や能力を身につけていること。
⑵部活動やボランティア活動に参加するなど，音楽活動に積極的に取り組む姿勢を身につけていること。
⑶自分の考えを他者に伝える基本的な表現力を備えていること。
3 入学試験の基本方針
さまざまな角度から受験者の資質，能力や将来性を把握するために，総合型選抜，学校推薦型選抜，一般選抜を実施します。特に実技，面接などでは，個人のもっている能力の可能性を評価します。

■薬学部

1 学部の求める人物像
薬学部では，医療人として「くすり」の専門家を担う薬剤師を養成します。チーム医療で必要な多職種間連携を実践する人間力を育てるために，最新の薬学を勉強するとともに、豊かな教養と人間性を身につけ，地域や国際社会に貢献できる資質を備えることが重要であると考えています。そのために，密度の高い日々の学習や研究活動への参加をとおして，より深い基礎学力，研究マインド（課題発見能力と問題解決能力），コミュニケーション能力を養成します。このような薬学部での取り組みに共感し，薬学部の勉学に取り組みたいと強い意欲をもっている人を求めます。

2 高等学校等で修得が望ましい内容
⑴薬学部での修学内容に対応可能な基礎学力を，高等学校等において修得している。
⑵課題や問題に対し主体的に対応できる能力をもっていること。
⑶豊かな人間性，協調性，コミュニケーション能力を有し，将来において医療人として活躍する明確な意欲を持っていること。
3 入学試験の基本方針
さまざまな角度から受験者の資質，能力や将来性を把握するために，総合型選抜，学校推薦型選抜，一般選抜を実施します。

■文学部

3学科でそれぞれ，日本文化，英語圏の文化及び日本の文化遺産に関する幅広い教養と専門的な知識を身につけた，応用力のある思考と行動ができる人材を育成します。「自立協同」の建学精神に則り，教員と学生あるいは学生同士が議論を交わし，主体的に学びを深めようと望む人を求めます。

1 学部の求める人物像

⑴感性に富み，問題意識を豊かにもつ，積極性のある人

⑵目標をもち，継続的な努力ができる人

2 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて，人物像に見合う意欲のある多彩な人を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。

一般選抜では各教科の基礎が身についていることを評価し，総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

3 各学科の求める人物像，高等学校等で修得が望ましい内容

日本文学科	求める人物像 日本文学・語学に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 国語総合における古文と現代文の履修をとおして，日本の文学作品を味読・分析するのに必要な読解力と文法力を身につけていること。
英語英米文化学科	求める人物像 英語や英語圏の文化に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 コミュニケーション英語や英語表現の履修をとおして，特に英語によるリーディングやライティングに関する基礎的な力を身につけていること。
文化財学科	求める人物像 文化財や歴史・地理に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 日本史や地理などの履修をとおして，文化財や遺跡の成立の背景となる歴史的・地理的事実や資料を読み解くための基礎的な力を身につけていること。

■理工学部

人や地球に優しい先端科学の知識や技術を修得し，理工学的基礎の理解に加え，応用分野の知識を備えた，実践的な科学者・技術者を育成します。

1 学部の求める人物像

⑴自分の夢や目標をもち，継続的な努力ができる人

⑵柔軟な発想力をもち，積極的な取り組みができる人

2 高等学校等で修得が望ましい内容

⑴数学や理科の基礎科目を修めていること。

⑵自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。

3 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて，人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。

一般選抜では各教科の基礎が身についていることを評価し，総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

4 各学科の求める人物像

機械創造工学科	ロボットや自動車など，機械や電子制御に興味をもち，多くの仲間と協働作業をして「モノ」を作り上げることができる人を求めます。
電子情報工学科	電子・情報技術，電子回路，電気・電子機器，コンピュータ（ハードウェア，ソフトウェア）に興味があり，ものづくりが好きで精力的に取り組める人を求めます。
ナノ物質工学科	バイオ・医療あるいはナノ材料・ナノデバイスに興味をもち，地球環境の維持に貢献したい人や，未知への探求と未来への創造に積極的に挑戦したい人を求めます。

■総合政策学部

1 学部の求める人物像

主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人を求めます。

⑴これまでの生活のなかで，価値観や意見の対立を克服した経験などをもとに，社会科学の基礎的知識を用いた問題解決策を立案する能力を身につけたい人

⑵将来，企業社会，公共分野，国際社会といった実社会の問題を解決するために，多様な価値観や考え方を知り，広い視野を有するゼネラリストとして活躍したい人

2 高等学校等で修得が望ましい内容

⑴思考力・判断力・表現力等の能力

①一定量の日本語又は英語の文章を読み，筆者の考え方をくみ取ることのできる基礎的能力

②テーマを与えられて，自分の意見を的確に，一定の時間と分量で論理的に記述する能力

⑵社会事象を分析・記述するための知識・技能

①社会事象を分析・記述するために必要な「数学」・「簿記」の知識

②現代社会に生じている課題や現代社会を支える制度についての基本的知識

③社会問題の発見のための自然科学や人文科学の基礎的知識

3 入学試験の基本方針

求める人物像の主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度と，⑴思考力・判断力・表現力等の能力，⑵知識・技能を総合して判定を行います。学力試験だけでなく，調査書，志望理由書(作文)などの資料，面接試験での応答などを試験種別に応じて組み合わせます。一般選抜では各教科の基礎が身についていることを重点的に評価し，総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

■香川薬学部

1 学部の求める人物像

今日の高度に専門化が進んだ医療に携わる薬剤師には，専門職として薬及び病気についての深い知識だけではなく，患者に寄り添う豊かな人間性と高い倫理観が強く求められています。先進的なチーム医療において「薬のスペシャリスト（専門職）」として貢献でき，病気の苦しみを理解して医療にあたることのできる薬剤師を養成します。知識，技能と医療の心を身につけ，地域に密着して活躍する薬剤師をめざすため次のような人を求めます。

⑴意欲、探究心が旺盛で明朗な人

⑵医療に対して高い倫理観をもち、薬学分野で貢献したいという強い志をもつ人

2 高等学校等で修得が望ましい内容

⑴幅広い知識を構築する基礎科目に加え，薬学の基盤となる理系科目を修めていること。

⑵文章の読解・作成等に必要な言語能力，及び表現力を身につけていること。

⑶知識を総合的に関連づけて問題解決する能力を有すること。

3 入学試験の基本方針

2の修得が望ましい内容⑴，⑵，⑶の観点から総合的に判断します。一般選抜では，⑴の観点から，各教科の基礎が身についていることを重視します。学校推薦型選抜では⑴，⑵の観点に，総合型選抜では⑵，⑶の観点に重点を置き，高い学習意欲と明確な目的意識を評価します。

■保健福祉学部

人々の健康と福祉の向上をめざす，質の高い，社会に貢献できる有能な専門家（診療放射線技師，臨床工学技士，歯科衛生士，理学療法士，看護師，保健師，助産師，社会福祉士，精神保健福祉士など）を育成します。

1 学部の求める人物像

高等学校等で幅広い基礎学力を身につけ，保健・医療・福祉に興味をもち，継続的な努力ができる人を求めます。

2 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて，求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。

一般選抜では各教科の基礎が身についていることを評価し，総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

3 各学科の求める人物像，高等学校等で修得が望ましい内容

人間福祉学科	求める人物像 ⑴社会福祉に関する興味・関心が明確であり，将来社会福祉の専門職として実践の場で活躍できる人 ⑵社会福祉の支援において，他機関連携が非常に重要となっていることから，他者との協調性に富んだ人 ⑶他者への思いやりを大切にし，他者の希望を実現するために，継続的な努力ができる人 高等学校等で修得が望ましい内容 ⑴福祉の諸問題に対し関心をもち，社会の状況を理解し，思考してまとめようとする姿勢を身につけていること。 ⑵自分の考え方を相手に伝えられる基本的な文章力と口頭表現力等のコミュニケーション能力を有すること。 ⑶ボランティア活動等の社会活動への積極的な参加経験があること。
看護学科	求める人物像 社会に貢献できる有能な看護職を育成します。そのために，生命に対する倫理観をしっかりもち，入学後も豊かな人間性や論理的思考力・問題解決能力を培うために主体的に学び努力ができる人を求めます。 ⑴人に対する興味・関心をもち，人の尊厳や権利を尊重し実践できる人 ⑵広い視野をもち，自分自身を向上させるよう努力ができる人 ⑶保健・医療・福祉の課題に関心をもち主体的に多様な人々と協働して学ぶことができる人 高等学校等で修得が望ましい内容 ⑴「国語・数学・理科・英語」等の基礎的な科目全般を修めていることが望ましい。 ⑵自分の考えを他者に伝える基本的な文章力を備えていること。
理学療法学科	求める人物像 社会に貢献できる有能な健康に関わる専門職(allied health profession) を育成します。そのために，次のような人を求めます。 ⑴人間が好きで，生命に対する「倫理観」を備えている人 ⑵入学前の生活全般の中で「何を経験し，何を考え，何を得たのか，将来に何を求めているのか」などを自覚し，それを実践（実現）していこうとする人 ⑶医学（医療）に対する関心が高く，リハビリテーション（理学療法）分野に貢献したいという積極的な「意欲・情熱」に基づく「使命感」を備えている人 ⑷他者の意見を聞き，自分の意見を他者に伝えるという「意思疎通（コミュニケーション）能力」を備えている人 ⑸意思疎通に関わるプレゼンテーション経験等を多くもつ人 高等学校等で修得が望ましい内容 ⑴数学・理科・英語の基礎科目を修めていること。 ⑵部活動やボランティア等さまざまな活動に，自ら積極的に取り組んでいること。

診療放射線学科	求める人物像 日々大きく進歩を続けている医療技術に対応し，質の高い画像診断や放射線治療をめざし，さらにチーム医療に貢献することのできる診療放射線技師を育成します。そのために，次のような人を求めます。 ⑴人間に対する深い思いやりと豊かな人間味がある人 ⑵たゆまぬ努力と地道な自己研鑽を重ねることができる持続力と忍耐力がある人 ⑶他者の意見を聞き，協調して物事を進めることができるコミュニケーション力がある人 高等学校等で修得が望ましい内容 ⑴数学や理科の基礎科目を修めていること。 ⑵自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。
臨床工学科	求める人物像 日々進化する高度な医療技術を提供できる「臨床工学技士」の養成をめざし，「自立協同」の建学精神のもと，チーム医療を実践できる医療人を育成します。そのために，次のような人を求めます。 ⑴人間に対する深い思いやりと豊かな人間味がある人 ⑵明確な目的意識と旺盛な学習意欲，何事にも自分の意見をもち，発言できる積極性がある人 ⑶主体性をもって他者と協調・協力してあらゆる問題解決にあたり，関わりをとおして成長することのできる人 高等学校等で修得が望ましい内容 ⑴数学や理科の基礎科目を修めていること。 ⑵基本的な思考力・判断力をもち，自分の考えを他者に伝える文章力と表現力を備えていること。
口腔保健学科	求める人物像 人々の健康増進の担い手としての使命感をもち，修得した口腔保健に関する高度な知識・技術及び問題解決能力を，保健・医療・福祉等の現場で多職種と連携して発揮できる，福祉のマインドをもった専門性の高い歯科衛生士を養成します。そのために，次のような人を求めます。 ⑴歯や口及び全身の健康に興味をもち，歯科の病気の予防に貢献したい人 ⑵「一生口からおいしく安全に食べること」を支える口腔保健の専門職に就いて，健康長寿に貢献したい人 ⑶コミュニケーション能力と協調性のある人 ⑷医療や福祉などに興味・関心をもち，その課題解決に貢献したいと考える人 高等学校等で修得が望ましい内容 ⑴国語や理科，英語の基礎科目を修めていること。 ⑵部活動やボランティア等さまざまな活動に，自ら積極的に取り組んでいること。

【短期大学部】

1 学部の求める人物像
⑴人間に対する深い思いやりなど豊かな心をもつ人
⑵旺盛な学習意欲があり，継続的な努力のできる人
⑶明確な目的意識をもち，自分の意見を発言する積極性がある人
⑷主体性をもって他者と協調・協力してあらゆる問題解決にあたり，関わりをとおして成長できる人
2 高等学校等で修得が望ましい内容
自分の考えを他者に伝える基本的な表現力を備えていること。
3 入学試験の基本方針
⑴教科の履修と達成度を直接測る一般選抜
⑵教科の履修と達成度に加えて，思考力・判断力・表現力等を測る学校推薦型選抜
⑶体験授業をとおして，多くを学び取る能力を測る総合型選抜入試体験型
⑷何かに挑戦した実績と，その発表をとおして表現力を測る総合型選抜入試自己アピール型
⑸継続的な努力のできる能力を測る総合型選抜入試課題提出型
⑹資格を踏まえ，より高度な内容を学ぶ意欲と能力を測る総合型選抜入試資格利用型
4 各学科・専攻の求める人物像

生活科学科	生活科学専攻	⑴感性が豊かで，表現することに強い興味・関心がある人 ⑵パティシエとして創作の基礎とその美的センスを磨きたい人 ⑶ブライダルやデザインなどに興味・関心がある人
	食物専攻	⑴人とのつながりを大切にし，主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人 ⑵健康や栄養，調理に興味・関心があり，食に関する学習に継続的に取り組むことができる人 ⑶各種資格取得に励み，食の専門家をめざす人
保育科		⑴保育者をめざして努力できる人 ⑵マナーを尊重し，他者とコミュニケーションをとりながら良好な人間関係を築くことができる社会性のある人 ⑶子どもの保育及び教育に関心をもち，子どもに対し豊かな感性と温かい愛情をもって接し，人のために役立ちたい人
言語コミュニケーション学科		⑴観光ビジネス業界，航空ビジネス業界などに興味のある人 ⑵英語学習に興味のある人 ⑶文学・音楽・絵画・動画などを通じた異文化理解に興味のある人
音楽科		⑴音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人 ⑵音楽あるいは音楽療法を深く学び，社会に貢献したい人
商科		⑴社会で必要とされる各種資格取得に励み，就職に活かしたい人 ⑵政治や経済などに興味・関心をもつとともに，自分の適性に相応しい進路を模索したい人 ⑶他者とコミュニケーションを図り，良好な人間関係を築くことができる社会性のある人

４．就職状況

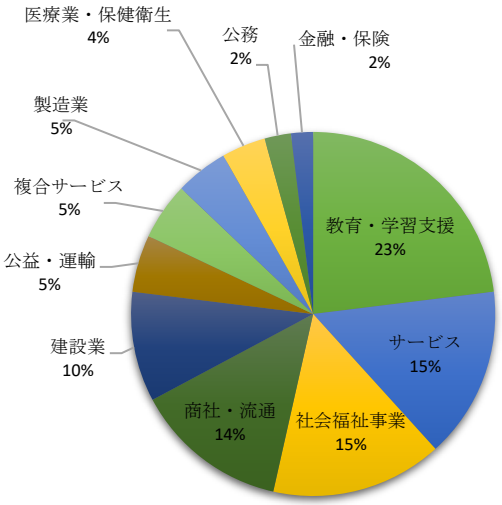
(1)就職率

令和４年度卒業生　　【大学】99.0%　　【短期大学部】100.0%
令和３年度卒業生　　【大学】98.1%　　【短期大学部】100.0%
令和２年度卒業生　　【大学】98.1%　　【短期大学部】 98.7%
※厚生労働省・文部科学省共同調査に準拠

(2)学部別・業種別就職先

令和４年度卒業者（令和5年5月1日現在）

【人間生活学部】



■人間生活学科
株式会社アインファーマシーズ、株式会社アウトソーシング　テクノロジー、有限会社addありす調剤薬局、板野郡農業協同組合（JA板野郡）、井戸垣産業株式会社、愛媛県教育委員会、大阪府教育委員会、沖縄港運株式会社、香川県教育委員会、島根県教育委員会、株式会社主婦の店赤穂店、学校法人聖カタリナ学園、株式会社高橋ふとん店、徳島信用金庫、名護市教育委員会、日本通運株式会社　四国支店、福岡県教育委員会、有限会社　モリヒロ園芸　　等
【進学】鳴門教育大学大学院　高度学校教育実践専攻　家庭科教育コース

■食物栄養学科
大阪府教育委員会、沖縄県教育委員会、神奈川県教育委員会、徳島県立徳島視覚支援学校、株式会社阿波銀行、株式会社塩梅、社会医療法人生きる会　瀬戸内海病院、猪之津株式会社、エームサービス株式会社、株式会社エルザクライス、社会福祉法人川内南アコール会　川内南アコールこども園、株式会社グッドプラニング、株式会社glob、株式会社ザグザグ、江東湾岸サテライト NORSERY SCHOOL 有明キャンパス、ジェイエムシー株式会社、四国医療サービス株式会社、社会福祉法人白百合福祉会　しらゆり保育園、社会福祉法人白鳩福祉会　白鳩保育園、社会医療法人真泉会　今治第一病院、スターバックスコーヒージャパン株式会社、スマイル調剤薬局グループ、社会福祉法人洲本たちばな福祉会　特別養護老人ホームたちばな苑、医療法人社団星晶会、社会福祉法人蒼生会　八万南ひまわり認定こども園、株式会社SOYOKAZE、株式会社ソラスト、ダイレックス株式会社、辰巳屋興業株式会社、社会福祉法人調布白雲福祉会　パイオニアキッズ柴崎園、株式会社ツルハホールディングス、徳島信用金庫、社会福祉法人鳥取こども学園、株式会社ドラッグストアモリ、医療法人中瀬病院、医療法人社団南淡千遙会　南淡路病院、株式会社西日本セイムス、日清医療食品株式会社、株式会社日東物産、株式会社ハローズ、民宿　ひかるダイバース、富士産業株式会社、有限会社　ベイクドショップゲルン、医療法人平成博愛会　介護老人保健施設ケアホーム鷲敷、松川歯科医院、株式会社マルワメディカル事業部、南商事株式会社、株式会社みらいたべる、株式会社夢喰房、夢コンチェルト株式会社、株式会社よんやく、社会福祉法人緑樹会　特別養護老人ホームおおあさ苑、株式会社LEOC　　等
【進学】徳島文理大学　保健福祉学部　臨床工学科

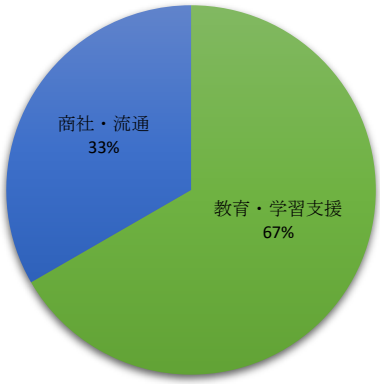
■児童学科
愛媛県教育委員会、高知県教育委員会、高知大学教育学部附属幼稚園、徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、鳥取県教育委員会、直島町教育委員会、東かがわ市役所、兵庫県教育委員会、福岡県教育委員会、和歌山県教育委員会、いの町教育委員会、高知県・高知市病院企業団　高知医療センター、高知市役所（保育関連）、四万十町役場、株式会社アイグラン、児童発達支援・放課後等デイサービス　あさがお、社会福祉法人かじら原福祉会　ラ・ラ・ラ保育園、社会福祉法人熊千代会　こぐま白雲北保育園、医療法人啓仁会　児童発達支援センターピノキオの家、株式会社コペル、社会福祉法人　島田会、学校法人村崎学園　徳島文理大学附属幼稚園、社会福祉法人徳和会、ニチイキッズ　香南のいち保育園、ハート福祉会、社会福祉法人ハート福祉会　エクセレント南部こども園、社会福祉法人はぐくみ会　すみれの花保育園、学校法人原学園　白うめ幼稚園、株式会社ビュー設計、学校法人村崎学園　徳島文理小学校、社会福祉法人悠林舎、社会福祉法人ローガン記念徳島栄光福祉会　みどり保育園　　等
【進学】徳島文理大学大学院　児童学専攻　博士課程前期、鳴門教育大学大学院　高度学校教育実践専攻　特別支援教育コース

■メディアデザイン学科
株式会社アウトソーシングテクノロジー、株式会社アッシェ、株式会社アルファシステムズ、株式会社AIサポートホールディングス、株式会社SMSデータテック、海外企業、化研テクノ株式会社、株式会社ケイテック、株式会社コスモス薬品、株式会社四国日立、治郎丸勲牧場、生活協同組合とくしま生協、株式会社 田代鉄工所、ディアシステム株式会社、株式会社西田興産、日亜化学工業株式会社、株式会社ネクステージ、扶桑電通株式会社、マツシマ林工株式会社、港産業株式会社、ワールドビジネスシスコム株式会社　　等

■建築デザイン学科
藍住町教育委員会、姫路市役所、株式会社アイ工務店、株式会社アルボレックス、株式会社阿波設計事務所、株式会社安藤・間、有限会社椅子徳製作所、有限会社内野設計、株式会社ウッズカンパニー、株式会社オークラハウス、鳳建設株式会社、株式会社亀井組、共立建設株式会社、株式会社ケントホームズ、株式会社コウエイハウジング、株式会社高野組、高陽建設株式会社、株式会社重藤組、株式会社秀光ビルド、株式会社スバル設計、スペースラボ株式会社、住友林業ホームテック株式会社、大旺新洋株式会社、戸田建設株式会社、株式会社ナイスリフォーム、中山建設株式会社、ニコナル(NICONLL)建築事務所、株式会社西田設計、西松建設株式会社、株式会社ネクステージ、株式会社姫野組住宅センター、株式会社福屋不動産販売、株式会社補償実務、松熊工業株式会社、株式会社三木組、ミサワホーム四国株式会社、株式会社山下設計工房　　等

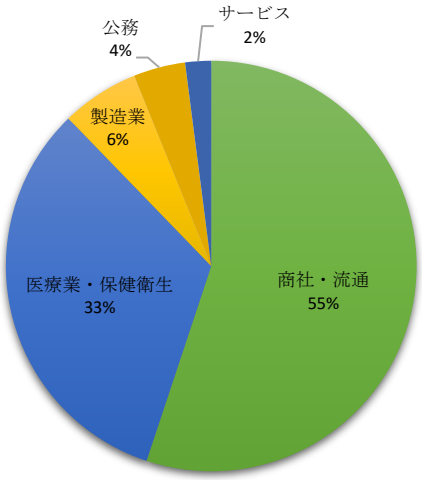
■心理学科
愛媛県教育委員会、岡山県教育委員会、香川県教育委員会、東みよし町役場、広島県教育委員会、徳島県警察本部、吉野川市役所、株式会社アール・エム、AOIホールディングス株式会社（AOIグループ）、株式会社穴吹カレッジサービス、株式会社アルボレックス、株式会社阿波銀行、イオンリテール株式会社、社会福祉法人育世会　淡路学園、石井町社会福祉協議会、株式会社一条工務店、株式会社YellPharmacy、株式会社エスコプロモーション、株式会社学研ココファン、株式会社クスリのアオキ、合同会社CROP、くろねこショップ、高知医療生活協同組合、特定非営利活動法人こどもの発達研究室きりん、株式会社コロロ発達療育センター、コンサーン株式会社、株式会社ザグザグ、讃岐株式会社、株式会社ＧＦ、社会福祉法人四恩の里、シグマトロン株式会社、株式会社ジャパンネクストエネルギー、社会福祉法人仁栄会、株式会社セブンスター、株式会社全日警、船場化成株式会社、株式会社太陽、ダイレックス株式会社、株式会社テクノプロ・コンストラクション、徳島県商工会連合会、徳島信用金庫、有限会社ドラゴンエンタテインメント、日本塩回送株式会社、医療法人泊和会　はのうら眼科、社会福祉法人東かがわ市社会福祉協議会、有限会社宝寿、株式会社ホテルグランドパレス、株式会社マーキュリー、合同会社まる・サンカク・四角、合同会社雅、有信アクロス株式会社　ウィズ・ユー三木、リトルバード有限会社　ウィズ・ユーかもじま、ワンハート合同会社　児童デイワンハート　　等
【進学】徳島文理大学大学院人間生活研究科心理学専攻、鳴門教育大学大学院学校教育研究科人間教育専攻

【音楽学部】



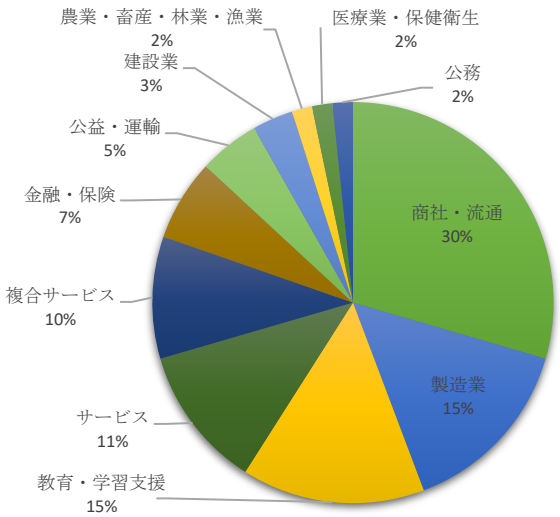
■音楽学科
日産サティオ徳島株式会社　　等
【進学】徳島文理大学音楽専攻科声楽専攻、徳島文理大学音楽専攻科器楽専攻

【薬学部】



■薬学科
沖縄県立病院、徳島県庁、神戸市民病院機構　神戸市立医療センター中央市民病院、国立大学法人徳島大学病院、国立大学法人琉球大学　琉球大学病院、医療法人倚山会　田岡病院、医療法人きたじま倚山会　きたじま田岡病院、医療法人新松田会　愛宕病院、徳島県厚生農業協同組合連合会　吉野川医療センター、医療法人徳洲会　八尾徳洲会総合病院、医療法人永島会永井病院、医療法人若草会松村病院、株式会社新日本科学PPD、ダイト株式会社、東和薬品株式会社、富田製薬株式会社、ああんど興産株式会社、株式会社アインファーマシーズ、有限会社addありす調剤薬局、SMS GROUP（ひかり薬局グループ）、エバグリーン廣甚株式会社、有限会社エンゼル調剤薬局、株式会社キリン堂（キリン堂ホールディングス）、クオール株式会社、株式会社グローバル・アシスト、有限会社郡茂薬局、株式会社サンドラッグ、株式会社スギ薬局、スマイル調剤薬局グループ、セイコーメディカルブレーン株式会社、株式会社セガファーマ、総合メディカル株式会社、株式会社ナチュラルファーマシー
、ビザン薬品株式会社、ファーマライズホールディングス株式会社、有限会社ベル企画　ベル薬局、株式会社ホリスティック、株式会社ユタカファーマシー、株式会社レデイ薬局　　等
【進学】徳島文理大学大学院薬学研究科

【文学部】

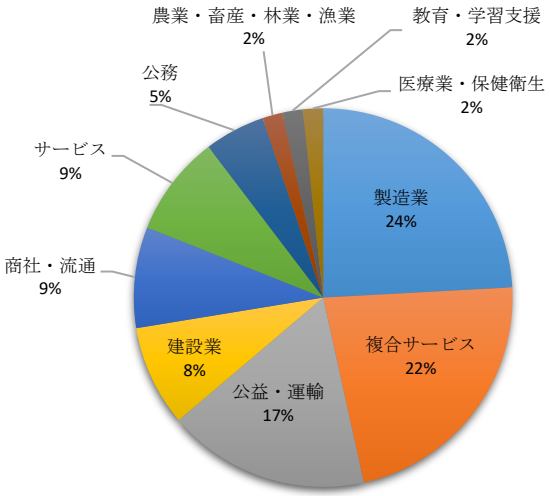


■日本文学科
愛媛県教育委員会、香川県教育委員会、高知県教育委員会、小林市役所、株式会社アチーブ・コーポレーション、穴吹エンタープライズ株式会社、株式会社大森屋、亀山石油株式会社、株式会社かんぽ生命保険、合田商事株式会社、株式会社サイゼリヤ、株式会社サクセス、大進建設株式会社、株式会社大屋、株式会社鳥取マツダ、有限会社新居バイオ花き研究所、日生化学株式会社、日本エネルギー総合システム株式会社、ベストプロダクツ株式会社、株式会社ヨコタコーポレーション、株式会社レデイ薬局　　等

■英語英米文化学科
医療法人芥川会　芥川病院、株式会社ウィナス、愛媛県教育委員会、香川県農業協同組合（JA香川県）、香川マツダ販売株式会社、合田商事株式会社、佐川印刷株式会社、株式会社新コーポレーション、株式会社太陽技報堂、高松商運株式会社、株式会社ティプロス、東武トップツアーズ株式会社、ネッツトヨタ香川株式会社、株式会社富士薬品、株式会社ヤマダホールディングス　　等
【進学】スイスBusiness & Hote Management School

■文化財学科
高知県教育委員会、旭酒造株式会社、有限会社味源、院庄林業株式会社、愛媛綜合警備保障株式会社、株式会社香川銀行、香川県信用組合、香川県農業協同組合（JA香川県）、後藤設備工業株式会社、株式会社セキヤ、株式会社全日警、大黒天物産株式会社、株式会社タクマテック、株式会社タケダ、西村ジョイ株式会社、株式会社ネオビエント、株式会社ハローズ、株式会社フジ、株式会社ベルモニー、株式会社マルヨシセンター、株式会社山口フィナンシャルグループ　　等

【理工学部】

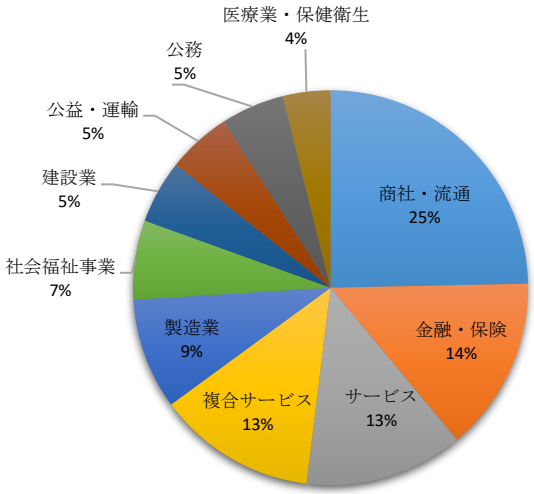


■機械創造工学科
高知県教育委員会、防衛省　陸上自衛隊、アクサス株式会社、浅海電気株式会社、株式会社エイジェック、高速道路トールテクノロジー株式会社、株式会社コシダカ、山英電機株式会社、株式会社サンキ、株式会社四国日立、徳真電機工業株式会社、三谷製糖羽根さぬき本舗、株式会社メイテックフィルダーズ、株式会社四電工　　等
【進学】徳島文理大学工学研究科

■電子情報工学科
防衛省　航空自衛隊、美馬市役所、株式会社アーク・ジオ・サポート、IMV株式会社、株式会社アウトソーシングテクノロジー、AKKODiSコンサルティング株式会社、株式会社アメックス、株式会社イズミ（ゆめタウン・ゆめマート）、株式会社インビリティー、NSW株式会社、株式会社クシベウィンテック、コアスリー株式会社、四国計測工業株式会社、四国システム開発株式会社、四国旅客鉄道株式会社（JR四国）、ジャパン・イーエム・ソリューションズ株式会社、株式会社神菱エンジニアリング、株式会社スポーツライフ、株式会社テクノプロ　テクノプロ・エンジニアリング社、株式会社テクノプロ　テクノプロ・デザイン社、ノヴィルホールディングス株式会社、株式会社百十四システムサービス、株式会社V　Language、株式会社フジキン、三井E&Sシステム技研株式会社、株式会社四電工　　等
【進学】徳島文理大学工学研究科、大阪電気通信大学大学院総合情報学部デジタルゲーム学科

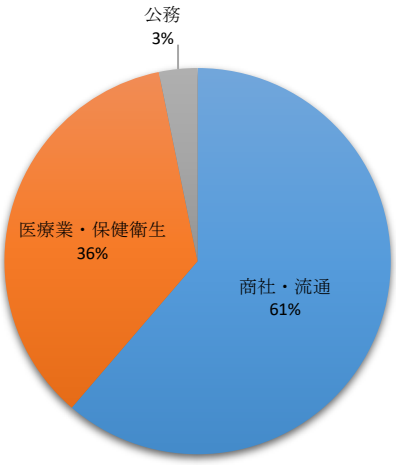
■ナノ物質工学科
株式会社穴吹カレッジサービス、有限会社木下農園、讃岐化学工業株式会社、讃陽食品工業株式会社、四国テクニカルメンテナンス株式会社、シマブンスチールパートナーズ株式会社、株式会社SCREEN ICTソフトウェア、株式会社スタッフサービス・エンジニアリング、東亞合成株式会社、一般社団法人徳島県薬剤師会、株式会社長峰製作所、株式会社ムーミー　　等
【進学】徳島文理大学工学研究科、徳島文理大学香川薬学部薬学科

【総合政策学部】



■総合政策学科
徳島市役所、鳴門市役所、防衛省　航空自衛隊、四国労働金庫、四国旅客鉄道株式会社（JR四国）、徳島県農業共済組合、徳島市農業協同組合（JA徳島市）、板野郡農業協同組合（JA板野郡）、高知県農業協同組合（JA高知県）、阿南農業協同組合（JAアグリあなん）、こうち生活協同組合、生活協同組合とくしま生協、公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク、財団法人高知県総合保健協会、株式会社徳島大正銀行、株式会社四国銀行、株式会社かんぽ生命保険、阿波銀リース株式会社、徳島信用金庫、株式会社SBJ銀行、日亜化学工業株式会社、西日本電信電話株式会社（NTT西日本）、日本フネン株式会社、大和ハウス工業株式会社、四国通商株式会社、健祥会グループ、株式会社全日警、愛媛綜合警備保障株式会社、平和観光株式会社、南海プライウッド株式会社、土佐ガス株式会社、朝日住宅、大三ミート産業株式会社、大黒天物産株式会社、大旺新洋株式会社、社会福祉法人西室苑、社会医療法人川島会　川島病院、斎徳株式会社、佐々木建設株式会社、江南ラミネート株式会社、株式会社日本トレーディング、株式会社マルハン、株式会社マケレボ、株式会社フジみらい、株式会社ネスト、株式会社ナサホーム、株式会社ジャパンネクストエネルギー、株式会社シケン、株式会社ジェイアール四国メンテナンス、株式会社コスモス薬品、株式会社グランド商事株式会社、株式会社カワサキライフコーポレーション、株式会社エースワン、株式会社エイブル、株式会社ウィルオブ・コンストラクション、株式会社NKトランスポート、株式会社 天軒不動産、化研テクノ株式会社、ワタキューセイモア株式会社、ブリッジインターナショナル株式会社、プライムプラネットエナジー＆ソリューションズ株式会社、はせべ鍼灸整骨院、ネッツトヨタ徳島株式会社、ニッケン文具株式会社、デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社、ダイレックス株式会社、ヂヾや株式会社、ゴダイ株式会社　　等

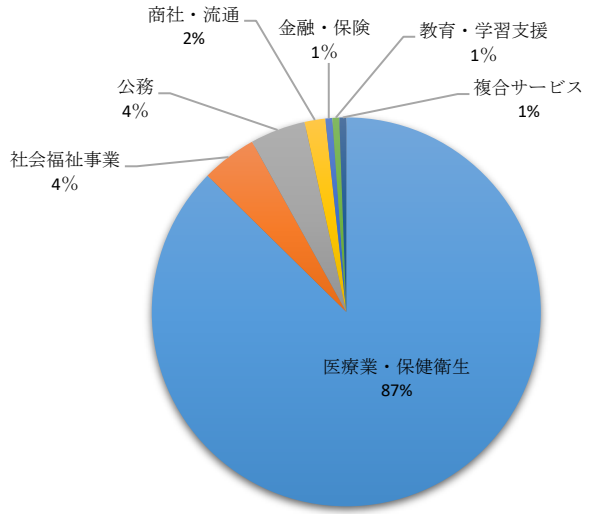
【香川薬学部】



■薬学科
株式会社アインファーマシーズ、医療法人社団 赤心会 赤沢病院、イオンリテール株式会社、ウエルシア薬局株式会社、医療法人臼井会　田野病院、香川医療生活協同組合　高松平和病院、香川県庁、クオール株式会社、クラフト株式会社(さくら薬局グループ)、国家公務員共済組合連合会　高松病院、株式会社ザグザグ、さぬき市民病院、有限会社サンカム、医療法人 瑞風会 森澤病院、総合メディカル株式会社、株式会社ホリスティック、三豊総合病院企業団　三豊総合病院、株式会社メディファーマ、株式会社安田薬局、国立大学法人琉球大学　琉球大学病院、株式会社レデイ薬局、独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院　　等

【保健福祉学部】

徳島キャンパス：人間福祉学科、看護学科、理学療法学科、口腔保健学科



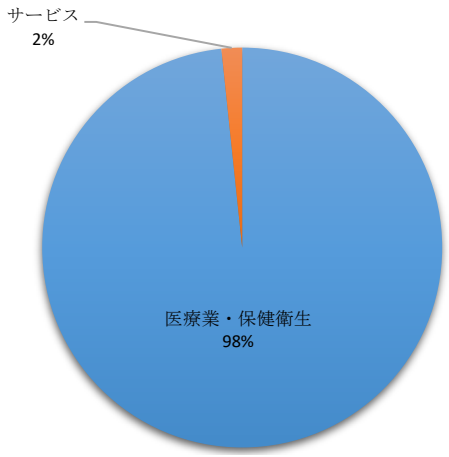
■人間福祉学科
倉吉市役所、徳島県庁、独立行政法人国立病院機構　近畿グループ、アトムグループ、株式会社エイジングウェル、社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団、医療法人社団五色会　こころの医療センター五色台、医療法人松風会　江藤病院、医療法人徳寿会　鴨島病院、社会福祉法人名護学院、社会福祉法人障害者支援施設野菊の里、医療法人平成博愛会　博愛記念病院、医療法人芳越会　ホウエツ病院、マルキンストア、株式会社ラングローブ　　等
【進学】神戸医療福祉専門学校　救急救命士科

■看護学科
徳島市教育委員会、愛媛県庁（病院）、大垣市民病院、沖縄県立病院、香川県立中央病院、小松島市役所、小豆島町役場、徳島県病院局、徳島市役所、鳴門市役所、国立大学法人愛媛大学　愛媛大学医学部附属病院、国立大学法人香川大学　香川大学医学部附属病院、地方独立行政法人神戸市民病院機構、国立大学法人神戸大学　神戸大学医学部附属病院、独立行政法人国立病院機構　四国こどもとおとなの医療センター、独立行政法人国立病院機構　東徳島医療センター、（独）地域医療機能推進機構　りつりん病院、国立大学法人東京医科歯科大学　東京医科歯科大学病院、国立大学法人徳島大学病院、地方独立行政法人那覇市立病院、地方独立行政法人広島市立病院機構、独立行政法人労働者健康安全機構　和歌山労災病院、公立大学法人和歌山県立医科大学　和歌山県立医科大学附属病院、医療法人倚山会　田岡病院、社会医療法人石川記念会　HITO病院、医療法人いちえ会　伊月病院、医療法人栄寿会　天満病院、公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構　倉敷中央病院、社会福祉法人恩賜財団済生会　大阪府済生会吹田病院、社会福祉法人恩賜財団済生会　横浜市東部病院、公益財団法人がん研究会　有明病院、学校法人北里研究所　北里大学メディカルセンター、医療法人きたじま倚山会　きたじま田岡病院、学校法人近畿大学　近畿大学病院、社会医療法人敬愛会　中頭病院、医療法人社団更生会　草津病院、医療法人弘善会　矢木脳神経外科病院、医療法人社団光風会　三光病院、学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属浦安病院、社会医療法人祥和会　脳神経センター大田記念病院、社会医療法人仁愛会　浦添総合病院、医療法人住友別子病院、医療法人社団誠馨会　新東京病院、医療法人清和会　協立病院、公益社団法人地域医療振興協会　東京北医療センター、社会医療法人近森会　近森病院、特定医療法人長生会　大井田病院、公益財団法人天理よろづ相談所、医療法人道志社　小松島病院、徳島健康生活協同組合　徳島健生病院、徳島県厚生農業協同組合連合会　阿南医療センター、徳島県厚生農業協同組合連合会　吉野川医療センター、一般社団法人徳島市医師会、日本赤十字社　愛知医療センター名古屋第一病院、日本赤十字社　医療センター、日本赤十字社　神戸赤十字病院、日本赤十字社　高松赤十字病院、日本赤十字社　徳島赤十字乳児院、日本赤十字社　徳島赤十字ひのみね総合療育センター、日本赤十字社　徳島赤十字病院、日本赤十字社　松山赤十字病院、学校法人兵庫医科大学　兵庫医科大学病院、医療法人まんてん会、医療法人むつみホスピタル、株式会社ニトリ　　等
【進学】徳島文理大学助産学専攻科

■理学療法学科
国立大学法人高知大学　高知大学医学部附属病院、独立行政法人国立病院機構　近畿グループ舞鶴医療センター、独立行政法人国立病院機構　中国四国グループ四国がんセンター、独立行政法人国立病院機構　中国四国グループ愛媛医療センター、独立行政法人国立病院機構　中国四国グループ岩国医療センター、独立行政法人国立病院機構　中国四国グループ南岡山医療センター、（独）地域医療機能推進機構　星ヶ丘医療センター、（独）地域医療機能推進機構　湯河原病院、地方独立行政法人徳島県鳴門病院、医療法人晴風園　今井病院、社会医療法人仁愛会　浦添総合病院、社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス　海老名総合病院、医療法人社団雅友愛会　太田病院、医療法人社団KNI　北原国際病院、正栄ウェルフェア株式会社機能訓練専門デイサービス「きたえるーむ富山本郷」、医療法人社団いちえ会　洲本伊月病院、医療法人孟仁会　摂南総合病院、社会医療法人財団大樹会　総合病院回生病院、香川医療生活協同組合　高松平和病院、社会福祉法人大崎ゆりかご会　多機能型事業所socio、社会医療法人近森会　近森病院、つくだ整形外科、医療法人清水会　鶴見緑地病院、医療法人社団武蔵野会　TMGあさか医療センター、医療法人財団明理会　東戸塚記念病院、医療法人社団朋和会　西広島リハビリテーション病院、医療法人横浜博萌会　西横浜国際総合病院、もりわき整形外科クリニック、医療法人吉栄会　吉川病院、徳島県厚生農業協同組合連合会　阿南医療センター、医療法人松風会　江藤病院、医療法人きたじま倚山会　きたじま田岡病院、医療法人清和会　協立病院、医療法人道志社　小松島病院、医療法人ひなた 末広ひなたクリニック、徳島健康生活協同組合　徳島健生病院、医療法人ひまわり会　中洲八木病院、医療法人平成博愛会　博愛記念病院、医療法人橋本病院、医療法人眉山病院、医療法人青鳳会　美摩病院、医療法人修誠会　吉野川病院、株式会社東京海上日動パートナーズ中国四国徳島支社　等

■口腔保健学科
社会医療法人大道会　ボバース記念病院、社会医療法人近森会　近森病院、医療法人社団　少将井　いがわ医院　歯科、医療法人くに歯科クリニック、しば歯科医院、相武台セントラル歯科、豊永歯科クリニック、山口歯科クリニック、やまざわ歯科クリニック　　等

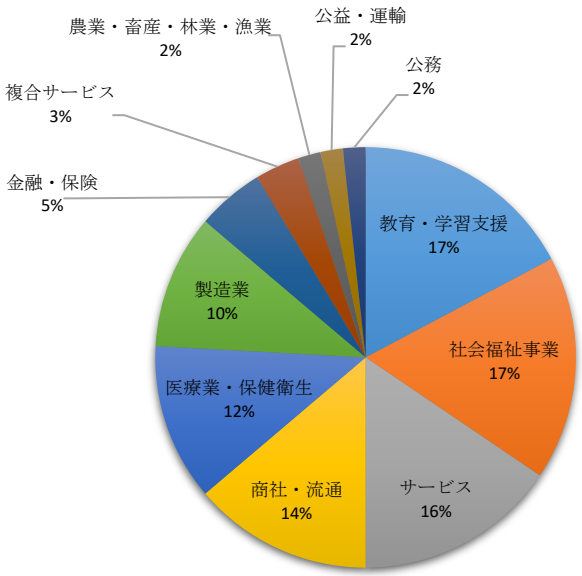
香川キャンパス：診療放射線学科、臨床工学科



■診療放射線学科
有田市立病院、雲南市立病院、沖縄県南部医療センター、沖縄県南部医療センター、香川県病院局、島根県立中央病院、徳島県病院局、土佐市民病院、兵庫県病院局、国立大学法人愛媛大学　愛媛大学医学部附属病院、国立大学法人香川大学　香川大学医学部附属病院、国立大学法人高知大学　高知大学医学部附属病院、独立行政法人労働者健康安全機構　中部労災病院、国立大学法人鳥取大学　鳥取大学医学部附属病院、独立行政法人労働者健康安全機構　大阪労災病院、医療法人倚山会　田岡病院、学校法人関西医科大学　関西医科大学附属病院、医療法人恭昭会　彦根中央病院、社会医療法人敬愛会　中頭病院、社会医療法人敬愛会　中頭病院、公益財団法人　天理よろづ相談所病院、公益財団法人　天理よろづ相談所病院、医療法人尚和会　宝塚第一病院、医療法人社団仁風会　青木病院、医療法人新松田会　愛宕病院、医療法人創治　竹本病院、高松南整形外科スポーツクリニック、社会医療法人近森会　近森病院、医療法人なぎさ会　沖の洲病院、日本赤十字社　和歌山医療センター、日本非破壊検査株式会社、医療法人財団博仁会　キナシ大林病院、医療法人財団博仁会　キナシ大林病院、医療法人明和会　たまき青空病院　　等

■臨床工学科
香川県立中央病院、さぬき市民病院、国立大学法人愛媛大学　愛媛大学医学部附属病院、国立大学法人香川大学　香川大学医学部附属病院、独立行政法人国立病院機構　大阪南医療センター、独立行政法人国立病院機構　京都医療センター、独立行政法人国立病院機構　近畿中央呼吸器センター、（大）東海国立大学機構　名古屋大学医学部附属病院、公立大学法人和歌山県立医科大学　和歌山県立医科大学附属病院、社会医療法人川島会　川島病院、医療法人協和会　川西市立総合医療センター、医療法人圭良会　永生病院、医療法人社団健愛会、公益財団法人甲南会　甲南医療センター、社会医療法人仁愛会　浦添総合病院、医療法人尽心会　亀井病院、医療法人讃楡会 高松にれクリニック、武田病院グループ、社会医療法人近森会　近森病院、医療法人社団東光会　戸田中央総合病院、社会医療法人かりゆし会　ハートライフ病院、医療法人財団博仁会　キナシ大林病院、医療法人明生会　長谷川病院、医療法人明和会　たまき青空病院、社会医療法人友愛会友愛医療センター　　等
【進学】徳島文理大学大学院工学研究科

【短期大学部】



■生活科学科生活科学専攻
医療法人　一洋会、大塚製薬株式会社、社会福祉法人カリヨン　れもん、株式会社キャン、BIJOUPIKO GROUP　　等
【進学】徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科、上田安子服飾専門学校

■生活科学科食物専攻
いちごマム、イフスコヘルスケア株式会社、株式会社魚国総本社、共同船舶株式会社、社会福祉法人　げんき・結愛・げんきこども園、医療法人社団五色会　こころの医療センター五色台、小松島市役所（保育関連）、株式会社タイヨー神戸屋、徳島市教育委員会、富士産業株式会社、（福）和田島福祉会　幼保連携型認定こども園花しんばり子ども園　　等
【進学】徳島文理大学人間生活学部人間生活学科、徳島文理大学人間生活学部食物栄養学科

■保育科
阿南市立新野こどもセンター、阿南市立桑野保育所、三好市立三野認定こども園、八万南ひまわり認定こども園、論田ひまわり保育園、ひかり保育園、エクセレント南部こども園、エクセレント羽ノ浦こども園、わかば認定こども園、児童デイ・ワンハート、日本保育サービス、徳島共和薬品　　等

■言語コミュニケーション学科
阿南市役所、猪之津株式会社、株式会社イルローザ、株式会社神戸ポートピアホテル、株式会社スリーエム、株式会社帝国ホテル、ネッツトヨタ徳島株式会社、医療法人藤田眼科、社会福祉法人蓬莱会、株式会社ホテル京阪マネジメント　等

■音楽科
株式会社マーキュリー　　等
【進学】徳島文理大学音楽学部、徳島文理大学音楽学部音楽療法コース

■商科
株式会社 阿波市場、株式会社阿波銀行、阿波製紙株式会社、医療法人倚山会　田岡病院、岡田企画株式会社、株式会社四国銀行、西予市立西予市民病院、医療法人なぎさ会　沖の洲病院、日亜化学工業株式会社、ネッツトヨタ徳島株式会社、株式会社BANKANわものや、医療法人明和会　たまき青空病院、株式会社森熊、株式会社リンテック
【進学】徳島文理大学総合政策学部、ブレーメン動物専門学校、徳島文理大学総合政策学部総合政策学科

５．管理運営の概要

(1)管理運営

法人の管理運営は、「寄附行為」「理事会規則」「常任理事会規則」及び「評議員会規程」に基づき、適切に行っている。

大学の円滑な運営を図るため、学園本部、教学部門及び事務部門の連絡調整機関として部局長会を設置し、大学の運営に関する重要事項の審議及び連絡調整を行っている。教育研究に関する重要事項を審議する場としては合同教授会を設けている。また、各学部には教授会があり、教授会は教育研究に関する事項を審議するとともに、学長に意見具申を行っている。

本学は徳島キャンパスと香川キャンパスを有しているが、効率化と負担軽減を図るため合同教授会オンラインシステムを活用するなど、両キャンパス相互の連携・協力機能の保持に配慮した運営を行っている。

(2)自己点検・評価

本学では、自己点検・評価について、大学全体として次のような取り組みを行っている。教育と研究水準のさらなる向上をめざし、また、管理運営の健全化を図ること等を目的に平成4(1992)年7月、「自己点検・自己評価に関する規程」を制定した。平成19(2007)年10月、同規程を改定し、「自己点検・評価に関する規程」及び「自己点検・評価に関する細則」を設けた。これに基づき設置した自己点検・評価委員会を中心に自己点検・評価を実施し、教育研究活動ならびに大学運営の改善・向上に努めている。平成27(2015)年10月に、自己点検・評価実施委員会を立ち上げ機能的に自己点検評価活動を行っている。第3期認証評価(平成30(2018)年～令和6(2024)年)においては、内部質保証を重点評価項目として自己点検・評価の実施が求められており、本学でも第3期認証評価の中間年にあたる令和3(2021)年度に自己点検・評価を実施している。自己点検・評価結果については、報告書にまとめるとともにホームページに公開している。また、令和5(2023)年度には、令和6(2024)年に予定されている評価機関による認証評価に向けて、「令和6年度 自己点検評価書」及びエビデンス集一覧や法令等の遵守状況一覧の作成を行った。

(3)情報公開

情報の公開は、私立学校法第47条ならびに学校教育法施行規則第172条の2に基づき、財務、経営情報および教育情報を大学ホームページにより公表している。

財務情報については「財務情報の公開に関する規程」等を制定し、学園本部に備え置き、学内関係者やその他の利害関係者からの閲覧請求に対応するとともに、学内通信「徳島文理大学通信」に掲載している。

(4)施設設備

本学は徳島市と香川県さぬき市にキャンパスを展開している。
両キャンパスは校地・校舎ともに大学設置基準を十分に満たした面積を有している。
耐震化は既に完了しており、施設設備の計画的な改修等を行い、適切な維持、管理に努めている。
令和7(2025)年4月高松駅キャンパス開設に向けた建物建設工事の進捗管理及び備品調達管理を行った。

(5)認証評価

平成16(2004)年4月1日からすべての大学、短期大学及び高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、政令で定める期間(7年以内)ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関(「認証評価機関」)の実施する評価を受けることが義務付けられている。(学校教育法第109条第2項)

本学では、平成29(2017)年度に文部科学大臣が認証する公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、平成30(2018)年3月9日付で、「評価の結果、徳島文理大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定された。

また、徳島文理大学短期大学部は一般財団法人短期大学基準協会から、平成30(2018)年3月26日付で、「徳島文理大学短期大学部は、一般財団法人短期大学基準協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから適格」と認められている。平成29(2017)年度に受審した大学機関別認証評価において指摘された「改善を要する点」について、改善報告書を令和2(2020)年7月15日付で日本高等教育評価機構に提出するとともに、ホームページに公開している。一方、分野別評価として、令和4(2022)年3月には保健福祉学部理学療法学科が一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査を受審し、認定された。また、令和2(2020)年2月に、香川薬学部が一般社団法人薬学教育評価機構の6年制薬学教育評価を受審し、適合とされた。同じく、令和5(2023)年3月に、薬学部が一般社団法人薬学教育評価機構の6年制薬学教育評価を受審し、適合とされた。

６．中期目標・中期計画

(1)計画期間
令和2年1月1日～令和7年3月31日

(2)徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部中期目標・中期計画
○育成する人材像
本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、次のような人物を育成することを目的とする。
大学は、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成する。
短期大学部は、一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し、中正穏健なる人格を涵養するとともに、我が国文化の高揚と地域の発展に貢献する有為な人材を育成する。
大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、もって、文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することのできる人物を育成する。

項　目	中　期　目　標	中　期　計　画
教育研究	**○教育研究の質の向上**	
	(1)教育課程の体系化を図ります。	・ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの一体性、整合性が確保されているか検証し、必要に応じ見直しを実施します。
		・ディプロマポリシーに沿った体系的な教育課程を編成するため、ナンバリングおよびカリキュラムツリーの活用等による順次性のある体系的なカリキュラムへの改定を推進します。
		・本学に相応しい教養教育のあり方について検討を行い、専門教育とバランスのとれた教育課程を実施します。
	(2)教授方法の工夫改善を行います。	・年間履修登録単位数の上限制の適正化や、シラバスの記載内容の見直し、学生の事前事後学修の検証を行う等、単位の実質化を図ります。
		・安心できる教育を実現するため、FDの取り組みを強化し、教育内容および教育方法等の改善を行います。
		・総合大学の特性を生かした文理融合の教育を充実し、各学部学科間の交流の拡充に取り組みます。
	(3)学修成果の点検・評価を推進します。	・適切かつ効果的な方法で情報を収集・把握し、学修成果の可視化を図ります。
		・国家資格を目指す学部・学科等において、国家試験の合格率を向上・維持します。 教員採用試験、公務員試験等を目指す学生が在学する学部学科等において、合格者数を増やすための指導を充実します。
	○教育研究環境の充実	
	(1)教育研究組織を整備します。	・社会的要請に積極的に応えるため、教学組織の見直しを随時行います。
		・本学の研究力の向上および研究活動の活性化を推進します。
	(2)教育研究の施設設備を整備します。	・既存の土地や施設を有効活用し、安全で快適な教育研究環境を提供します。
		・ファシリティマネジメントの体系的な推進を図り、教育研究施設の維持・管理を徹底します。
	(3)研究活動を支援します。	・科研費を含む外部研究資金確保に努めます。
		・研究活動にかかる不正行為防止に取り組むため、研究倫理を確立します。
大学運営	**○大学運営組織の充実**	
	(1)入学定員を確保します。	・社会の状況、高校生の進学希望等を見極め、各学科の魅力を発信することにより入学定員を確保します。
		・高校生・保護者・教員をはじめとするステークホルダーに興味関心を持ってもらうため広報活動の充実を図ります。
	(2)内部質保証を推進します。	・教育研究活動の質と学生の学修成果の水準等の内部質保証のため、自己点検・評価委員会を中心に自己点検・評価を推進します。
		・ＰＤＣＡサイクルの仕組みを確立し、内部質保証システムを構築します。

項　目	中　期　目　標	中　期　計　画
大学運営	(3)学生支援体制を整備します。	・充実した大学生活のために入学前教育、新入生導入教育等の改善に取り組みます。
		・学生からの意見・要望を生かし、学修支援、学校生活、学習環境等の充実に取り組みます。
		・学生一人ひとりの多様なニーズに対応するため、学生の心身に関する健康相談、生活相談等に取り組みます。
		・学生一人ひとりのキャリア形成および就職活動支援の充実を図り、進路選択の満足度を高める取り組みを行います。
		・学業成績および人物が優秀な学生、または経済的に就学が困難となった学生等に対する奨学金制度を整備します。
		・図書館における学術情報資源を充実させるとともに、利用方法の周知など利用の促進を図ります。
	(4)管理運営体制を整備します。	・円滑に大学運営業務を遂行するため、学内規程の整備を進めるとともに、大学に求められる社会的責任を果たすため、コンプライアンス体制を整備します。
		・大学運営に関わる教職員の知識および技能等の修得、ならびに能力および資質等の向上を目的として、SDを推進します。
		・組織の活性化を図るため、人材の流動性を高め、教職員の適切な配置を行います。
		・緊急時の危機管理等、幅広いリスクマネジメント体制の確立を図ります。
	(5)安定した財政基盤を確立します。	・安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保を図るため、中長期的な財務計画を設定します。
	(6)広報活動を強化します。	・教職員との連携を密にし、多様な広報媒体により情報発信を図ります。
		・高等教育機関としての社会的説明責任を果たすため、教育研究活動等の情報の公表を促進します。
入試制度	**○入試制度改革**	
	(1)アドミッション・ポリシーの検証を行います。	・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合性を図りながら、アドミッション・ポリシーにおける養成したい人材像や必要な素養について検証します。
	(2)新しい入試制度を整備します。	・高大接続改革に対応した入試制度を構築するため、継続的な見直し・検討を行います。
		・アドミッション・ポリシーに即して、資質の高い学生を受け入れることができるように、入試選抜方法別に選抜方法の適切性を検証します。
国際化	**○国際化の推進**	
	(1)海外大学等との連携を推進します。	・学術交流協定、高大連携協定等に基づく海外大学等との各種プログラム等を通じた連携を推進します。
	(2)国際交流を促進します。	・学生にグローバル人材としての知力・感性を付与し得る環境と機会を提供します。このため、留学生の受入れを促進するとともに、海外留学・研修制度／留学相談の充実強化を図ります。
		・海外からの留学生受入れを促進するため、留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制を整備します。
ICT化	**○ICT化の推進**	
	(1)ICTによる教育・学修の支援を行います。	・学生が情報を適切に活用する技術を習得するとともに、情報モラルや情報に対する責任を持つ態度を身につけることに取り組みます。
	(2)情報セキュリティ管理を行います。	・組織としての情報セキュリティ対策を確立します。
地域貢献	**○地域連携の推進**	
	(1)地域社会との連携を推進します。	・多彩な教育・研究をともに行い、研究成果を社会に還元するため、産学官連携を推進します。
		・各キャンパスが地域の拠点として貢献できるように、地域連携事業を推進します。
		・高校生の学習・進学に対する意欲向上、および大学の学びへの接続を目的として、高校生のための公開講座を充実します。

(3)進捗状況

1)教育研究の質の向上
「自立協同」の建学の精神のもと、文化の創造と世界の発展に貢献することのできる人材育成を目指し次の取り組みを行った。

・デジタル社会で活躍できる人材を育成するため「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関する科目を導入
・総合大学の強みを生かして他学部他学科との相互連携を図り多職種連携講義を実施
・産学官連携による研究活動の拡充推進
・学生に対する教育の充実を図るための全学授業アンケート及び学修状況アンケートの実施
・教育環境充実のための卒業予定者大学生活満足度アンケートの実施
・学生の学修改善のための電子化学修ポートフォリオの活用
・学習成果の可視化を図るため、卒業生にディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を発行

2)教育研究環境の充実
学生に高度な知識技術を身につけさせるため、教育研究を行うための頼りになる教職員組織、最先端の研究設備を整備するため以下の取り組みを行った。

・新規採用及び学科間・事務局内等の人材交流による教職員組織の整備
・SD推進基本方針に基づく校内外の研修会への参加促進
（オンライン研修については、リアル並びにオンデマンド研修の推進）
・施設設備の調査、効率的な資金配分による施設設備の整備
・施設設備の修繕・改修時期の明確化並びに施設設備の効率的運用・管理
・高松駅キャンパスの建設工事の進捗管理及び備品調達
・科学研究費を含む外部研究資金確保支援のための情報提供
・研究活動にかかる不正行為防止のための研究倫理の確立

3)大学運営組織の充実
急速に変化する時代や複雑化する社会からのニーズに対応した大学運営を行うとともに､学生が「安全」に学べる環境を整備するため以下の取り組みを行った。

・令和6年度の認証評価に向け、自己点検評価の結果を踏まえた内部質保証システムの再構築
・事前・災害発生時の危機管理体制を整備(危機管理マニュアルハンドブックの作成及び配布)
・公正・公平な業務遂行のためのコンプライアンス体制の整備
・財務基盤の確立と適正な会計処理の確立、経費削減の実施
・積極的な本学の魅力発信のため、Webオープンキャンパス、HPやSNSを活用した広報活動の強化

4)学生支援体制の整備
学生からの学習、生活、就職における様々なニーズに対応した支援体制を整備するため以下の取り組みを行った。

・大学での学びに円滑に繋がる入学前教育、新入生導入教育の実施
・学生からの意見要望を生かしたより良い支援を行うための「学生生活に関する学長との懇談会」の実施
・多くの学生が対象となる新たな本学独自の奨学金制度「ミライのわたし」の導入
・在学中を通して就職活動を支援するガイダンスセミナーの実施
・電子書籍の拡充および活用の推進など学生の満足度を高める図書館運営
・障がいのある学生への合理的配慮の提供への取組促進

5)国際化・ICT化・地域貢献の推進
複雑化する国際社会、急速に進展する情報社会で活躍する人材を育成するために国際化・ICT化を推進するとともに、地域の拠点として地域社会に貢献するために以下の取り組みを行った。

・薬学臨床体験学習ツールとして導入したVirtual Reality (VR) システムの活用
・学習用電子カルテ、高機能シミュレーター、ライブ配信システムなど看護教育のDX化の推進
・機能の充実とスマートフォンによる操作性を向上させた新学生ポータルサイトの導入
・国際社会での知力・感性を身につけることができる海外留学・研修制度の提供
・オンラインによる海外研修の成果確認に基づいた交流計画の見直し
・新しい時代に適応した教育実施のため整備した教室Wi-Fi環境の活用
・地域の拠点として貢献するため、本学の教育力を活かした地域連携事業の推進

7. 特長ある取り組み

(1)新型コロナウィルス感染拡大に対する学生支援の継続

1)「100円カレー」と「50円うどん」の提供を継続

新型コロナウィルス感染拡大の影響で経済的に困難な状況に陥っている学生を支援するため、令和3(2021)年4月から徳島・香川両キャンパスの食堂で「100円カレー」と「50円うどん」の提供を実施している。昼食の時間帯に実施し、通常410円のカレーライス(ミニサラダ付き)を100円、210円のうどんを50円で提供、差額は大学が負担した。コロナ禍における学生支援の必要性から、令和5(2023)年度もこの取り組みを継続した。

2)無料コピー機による支援を継続

新型コロナウィルス感染拡大に伴い、学生支援の一環として、令和3(2021)年12月から学生が無料で使用できるコピー機を学生支援課前に設置している。令和5(2023)年度も継続した。令和5(2023)年度の使用実績は、129,311枚であった。

(2)教育活動

1)新入生導入教育等

平成19(2007)年度より新入生導入教育として理事長、学長等による「文理学」を開講した。また、教育目標の達成のために、年度初めに学生に履修ガイド、要覧を配布するとともに、オリエンテーションを実施し、教育課程の編制方針、学生にとって卒業に必要な単位数、履修科目について説明を行っている。また、低年次に一般総合科目・専門導入科目の履修を取り入れた、くさび型の教育課程を編成している。

2)シラバス

学生が授業科目・授業内容について、キャンパスガイド及びWeb上で公開されたシラバスにより常時確認できる体制を整えている。平成25(2013)年度より、授業形態と授業時間外学習の欄を設け、学生に時間外学習を促すための取組を行っている。また、平成29(2017)年からは学生からの相談に対応するため、備考欄に「オフィスアワー」を記載している。

3)GPA

平成22(2010)年度よりGPA(Grade Point Average)を完全実施し、教育のさらなる質保証に努めている。成績通知書には、その学期に履修した科目のみについて算出した「当期GPA」と当該年度の「年間GPA」、入学後全ての学期で履修した科目について算出した「累積GPA」の3種類を記載する。なお、平成23(2011)年度からは、全ての学生に「当期GPA」を表記している。令和3(2021)年度より各学科ごとにGPAによる個別指導基準(学科・学年毎の下位1/4GPA値程度)を定め、成績下位の学生に対して指導・助言している。

4)クォーター制の導入

平成26(2014)年度から一部科目においてクォーター制を導入した。本学では、科目の特性によりクォーター制とセメスター制を併用している。クォーター制では、講義が週2回行われるため、学修に集中ができ、講義毎の理解度を向上させることができる。また、定期試験が分散し一度に行われる試験科目が減少するため、学生は一科目への取り組みを強化することができる。

5)ディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）の発行

令和4(2022)年度の卒業生(全学部・学科)から、ディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を学科ごとに発行し、学習成果の可視化を図っている。令和5(2023)年度からは社会人基礎力の測定を行っており、社会人基礎力育成の指導に役立てている。

6) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

文理を問わず全ての学生にこれからのデジタル社会において必要とされる「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的な知識や技術を身に付けさせるため、令和5(2023)年度から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」を大学、短期大学部の全学科において、さらに理工学部と人間生活学部において、応用基礎レベルのプログラムを実施した。

7)3大学医療連携事業

本学が代表校となり平成20(2008)年度に採択された文部科学省戦略的大学連携事業「香川総合医療教育研究コンソーシアム」をさらに発展させた事業で、本学、香川大学、香川県立保健医療大学の3大学が連携して、地域に密着したチーム医療を実践できる高度な総合医療人の養成に継続的に取り組んでいる。令和5(2023)年度は、香川県立保健医療大学を会場として、学術交流会を実施し、教員の講演と各大学の学生による研究内容表を行い、交流を深めた。

(3)研究活動

1)特色ある教育・研究

本学は科学研究費補助金、各種財団の研究助成金を獲得することを奨励しているが、それらの研究資金を補完するため大学独自の「学内競争資金制度」を有している。平成7(1995)年度より、若手教職員の育成、外部資金の獲得支援ならびに業務基盤の強化等を目的に、教職員を対象に学内公募を行い「特色ある教育・研究」に取り組んでいる。

令和5(2023)年度は、(1)大学教育充実事業（多様化する学生の意識と実態を踏まえ、退学防止に向けて学生の自立心・社会性・生きる力などを育成するための教育・学習方法等の改善並びに、学生の生活指導及び支援の取組など）、(2)共同研究事業(応募者が主体となって、学内(学部・学科・研究科等にまたがるもの)あるいは学外(国内外の大学・産業界等)の研究者と行う共同研究)、(3)地域活性化・社会貢献事業(産官学連携、地場産業振興、社会貢献、学生と地域の協働企画など地域活性化・地域支援につながる取組など)に加え、本学が指定する事業(特定研究)として、(4)SDGsを支援する教育・研究(環境、社会、健康、経済などの分野でSDGsを支援する取組)の4つの事業内容で学内公募を行い、合計19件の応募があった。厳正な審査の結果、それぞれ0件、7件、2件、1件の合計10件が採択された。

また、令和5(2023)年9月14日(木)に全学発表会を開催し、令和4年度終了研究者による研究成果が口頭発表された。さらに、終了研究者の中から参加者による投票により優秀研究を選出し、2件の研究が表彰された。

2)藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション

平成29(2017)年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業に「藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション」が採択され、その後の3年間(令和元年度まで)全学を挙げて本研究事業に取り組んできた。令和2(2020)年度からは、ブランディング委員会と全学研究委員会の承諾を得て、本学独自の活動として取り組んでいる。本研究は、本学が独自に開発した「緑藻類成長因子サルーシンを用いた革新的海藻種苗生産技術」を核に、海藻類の安定栽培技術(陸上養殖システム)を確立し、地域の海藻養殖産業の発展と活性化に貢献することを目的にしており、薬学・環境科学・生物(理工)学・栄養学・総合政策科学を専門とする学部学科が全学横断的に協働することで、地域を支える人材の育成と大学ブランド海藻の創生を目指した活動である。令和5(2023)年度は、大学発ベンチャー及び大学関連研究施設の候補地である牟岐町水産資源栽培センターの施設整備を進めると共に、栽培したあおさのりのブランディング戦略として、有機JAS認証基準を満たす種苗培養法の開発に取り組んだ。そして、開発した方法は、徳島県が誘致し支援している浅川栽培センター(海藻ラボ)を通じて、先行的にJAS認定機構の審査を受けて、どうにか陸上養殖技術として国内初の有機JAS認証(認証番号J36H-2318)を取得することができた。この種苗培養法は、自然の海洋生態系を模倣し、廃棄用の食品を発酵分解して利用するため、食品ロスの軽減にも繋がる次世代のSDGs技術としても注目されており、次年度(令和6年度)には、徳島県と合同で記者発表を検討中である。また、大学発ベンチャーの登記も並行して進め、牟岐町水産資源栽培センター横の用地を事業場とする合同会社アソアを設立した。一方で、短期大学部と共同であおさのりパウダーを利用したサステナブルスイーツの開発も大きく進展し、徳島県就労支援協議会のご協力を得て、障害者支援活動の一環として、あおさサブレ（商品名：あおサブレ）の販売を開始することができた。今後も産学官連携の障害者支援活動として、あおさスイーツの開発を継続したいと考えている。

3)未知の植物光合成増幅機能を発見

植物は、光エネルギーを利用して、水とCO_2から生存に不可欠な糖を作っている。これを光合成と呼ぶ。理工学部ナノ物質工学科アグリバイオ研究室は、世界で初めて、特定の周期で強度変動を繰り返している極めて暗い光(特殊光)が、光合成を大きく増幅させることを実証し、さらにその増幅メカニズムの遺伝子モデルを提唱した(Kajiyama et al., Journal of Physics and Chemistry Research 6(2),172)。

特殊光が引き起こす微弱な光合成は、植物にとっては生存の危機状態である。これに対処できる遺伝子が発現することで、光吸収効率が上がり、光合成が増幅される(図１)。本研究では、光強度が不十分であっても、光の吸収効率を上げることで、光合成が増幅することを証明した。植物生理学の教科書には、光を強くすれば光合成は増えるとだけ記述されているが、徐々に加筆修正されていくことになる。今後は、特殊光による光合成遺伝子発現メカニズムを詳細に解析して、農水産物の生産性向上とCO_2リサイクルへの応用研究を展開していく。

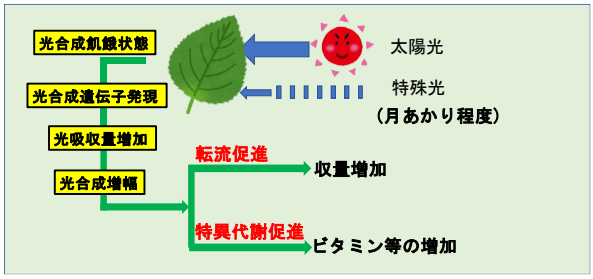


図１　特殊光による光合成増幅モデル

4)ICTを活用した教育

①VRシステムを活用した最新のロボット調剤業務の臨床体験学習

香川薬学部では、VRゴーグルと一斉視聴システムを使った双方向型の「VR体験学習」を、全国に先駆けて令和4(2022)年度より1年生の必修科目「早期体験学習」に本格的に導入している。令和5(2023)年度は、この臨場感あふれる360°視聴が可能なVRシステムを活用して「香川県初の医薬品自動入庫払出ロボット(BD RowaTM Vmax)」による最新の薬局調剤業務の体験学習を実施した。現場で働く薬剤師による解説を聞きながらのロボットを使った薬局調剤の見学に加え、普段は入ることのできないそのロボットの内部も見学でき、学生たちも興味津々であった。また、愛媛県の薬局店舗とのライブ中継による「Online体験学習」も同時におこない、大学近隣には少ない大型の調剤併設型ドラッグストアを学生たちは見学した。このように、VRシステムやICTを効果的に活用することで、遠隔地や大人数での見学が難しい施設を同時に多くの学生に平等に体験させることが可能となった。これらの取り組みにより、薬剤師と学生、および学生同士のグループディスカッションの内容が非常に充実し、講師の病院・薬局薬剤師からも大変好評であった。

②看護教育のDX化

文部科学省の令和3(2021)年度大学改革推進等補助金(ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業)に採択されたシステムを活用し、看護教育のDX化を進めている。令和5(2023)年度はその活用効果を3年生を対象に慢性期看護学実習の学内演習で検証した。学内演習で学生は高機能シミュレーターモデルを用いて実践し、その自らの実践場面を録画した動画を用いてデブリーフィングをした。演習前後で、学生の「実習に臨む力」をルーブリックで測定した結果、5項目中「観察する力」と「発展させる力」の2項目に変化があった($p<0.05$)。録画動画視聴によるデブリーフィングは、学生が自らの技術を客観視するために有効であり、実習前学内演習で見出した課題を、今後の実習で発展させる力を高める機会になった。今後も各実習前演習で活用し、その効果を検証していく予定である。

(4)教職員の職能開発

1)FD(Faculty Development)
平成19(2007)年度にFD(Faculty Development)研究部会を設置。学生の声を授業の改善に反映させることを目的に平成20(2008)年度後期から年2回、全学授業評価アンケートを実施。平成21(2009)年度より卒業生予定者を対象とした大学生活満足度アンケートを実施し、授業改善をはじめ大学生活全般についても改善に向け取り組んできた。なお、令和元(2019)年度からはWeb上でアンケートに回答できるよう改善を行い、名称も全学授業アンケートと変更。令和5(2023)年度は、FD研究部会を5回開催し、在学生対象・学修状況アンケートの質問事項や全学FD研修会の実施について協議するなど、授業改善に関しての議論を行った。

2)SD(Staff Development)
高等教育機関としての教育機能の質的向上を支援するため、SD推進委員会(3月)のもと年度計画を立て教職員等の能力開発等の研修を実施している。本年度は、新任教員研修会(4月)、防火・防災管理委･自衛消防隊合同研修会(8月)、全学防災訓練(11月)、全学SD研修会(1月)ハラスメント防止委員･相談員合同研修会(8月)ハラスメント防止講演会(2月)などを実施した。

3)四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)
平成20(2008)年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートしたSPOD(四国地区の35の高等教育機関が加盟)に参画し、FDとSDという2つの事業の効率化、高度化、実質化を行い、教育の質の保証を図り、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的な力量をもった高等教育のプロフェッショナルの育成に取り組んでいる。

(5)学生支援

1)入学前教育
総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試合格により、早くから本学への入学が内定している高校生を対象に、学習意欲の維持、高校レベルの学習の貫徹を目的に、一般総合科目の教科書、参考書、書籍等の配布、レポート提出等を実施し、e-ラーニング学習補助教材も導入している。この取り組みは、入学後に必要となる文章読解能力やレポート作成能力を助け、大学に入学する心の準備を促している。

2)学習ポートフォリオの電子化
本学では、従来の紙媒体ではなく、電子化学習ポートフォリオを導入し、学生のモチベーションと学習到達度を高める体制を整えている。ここでは、学生が自宅等での学修やアルバイト等に費やした時間も調査して分析し、担任やチューターによる指導に役立てている。

3)学生と企業等との交流会
就職活動が早期化する中、新規卒業予定学生の就職促進を図るため、昨年度に引き続き「学生と企業等との交流会」を徳島・香川両キャンパスの共催で2月3・4日に対面で実施した。
2月3日は一般企業を中心に徳島キャンパスで69社、香川キャンパスで30社の参加を得た。2月4日は病院・薬局等を中心に徳島キャンパスで60社、香川キャンパスで13社の参加を得た。この他に香川キャンパスでは2月20日に診療放射線学科の学生を対象に香川大学附属病院の関係者を招いて交流会を実施した。

(6)国際交流

本学は、アメリカの有名なマサチューセッツ工科大学と協定を結んだ日本で最初の大学である。以来、教員の国際交流がいろいろな学術領域で活発に行われている。

同様に、本学は、日本でも早期に音楽療法を導入した。これに際しては、音楽療法の先駆者であるマイケル・ローバッカー博士に師事した教員が教育に当たっている。また、ローバッカー博士は定期的に来日し、特別講義やモデルセッションの直接指導を行っている。

これらの国際学術交流を基に、現在、北米各地、欧州、オセアニア、及び、アジア各地の32大学と大学間の学術交流協定を結び、留学生の受け入れ、共同研究などの交流を積極的に推進している。

学生が将来真のグローバルセンスを体得するためには、大学時代からの人材教育が最も重要であると捉え、語学研修・異文化体験を目的として海外留学の機会を積極的に提供してきた。また、新型コロナ感染症禍にあっても、令和3(2021)年度には、韓国檀国大学校への交換留学生を派遣し、令和4(2022)年度夏以降は、短期の留学プログラムを催行するなど、他大学に先駆けて正常化に取組んできた。さらに、コロナ禍で渡航が困難になったことをきっかけに導入したオンラインによる海外研修、交流のプログラムについては留学プログラム催行後も、継続実施している。

また、本学で受け入れている留学生を主対象とした史跡・文化研修を企画しており、特に令和5(2023)年度は、中島平和財団の助成を得て、1泊2日で美波町の日和佐八幡宮の例大祭に参加し、地域住民との交流を行った。

各プログラムの令和5(2023)年度の状況は、以下のとおりであった。

1)主な国際交流研修等

①派遣

(ｱ)カナダ・ランガラ大学夏期英語短期留学

カナダの協定校であるランガラ大学が、8月の約3週間に実施している英語・異文化理解研修。研修中はカナダ人家庭でホームステイを経験し、英語力のみならず国際理解の精神を養う。令和5(2023)年度は本学から2名の学生が参加した。

(ｲ)韓国・檀国大学校夏期

韓国の協定校である檀國大学校が、8月の約3週間実施している韓国語・韓国文化研修。本学学生は多様な国々の学生と共に参加する。研修中は檀國大学校の学生寮に滞在し、各国の学生と生活を共有する。令和5(2023)年度の夏期短期留学に10名の学生が参加した。

(ｳ)オーストラリア・グリフィス大学夏期及び春期英語短期留学

8月から9月にかけて及び3月から4月にかけての約2週間又は約3週間、オーストラリアの協定校であるグリフィス大学で英語・異文化理解研修を実施している。グリフィス大学の5つのキャンパスのうち、ゴールドコースト校でホームステイをしながら、各国の学生と共に英語を学びながら英語力のみならず国際理解の精神を養う。令和5(2023)年度は夏期3名、春期2名の学生が参加した。

(ｴ)中国・広東省外語芸術職業学院　秋期中国語短期留学

令和元(2019)年度に新設した、広東省外語芸術職業学院における中国語・中国文化研修。研修中は同学院の学生寮に滞在し、中国の学生と交流する。令和5(2023)年度は新型コロナ感染症拡大の影響でビザの取得手続きが煩雑であったため中止。

(ｵ)韓国・水原大学校春期短期留学

韓国の協定校である水原大学校が、令和5(2023)年度から開始した2月の約10日間の韓国語・韓国文化研修を中心としたプログラムであり、初回となる令和6(2024)年2月は、19名の学生が参加した。

なお、檀国大学校が、令和4(2022)年度から冬のプログラムの催行を取り止めたため、その代替としても有効なプログラムである。

(ｶ)台湾・淡江大学春期中国語短期留学

台湾の協定校である淡江大学が、3月の約1週間又は約2週間実施している中国語・中国文化研修。令和5(2023)年度は参加希望者がおらず未催行。

(ｷ)中山医学大学春期インターンシップ型短期留学

2月～3月にかけての約2週間、台湾の協定校である中山医学大学の近傍のホテルに滞在し、日本語教育のアシスタントを行うとともに、同大学学生や近傍に所在する高大連携校新民高級中学の生徒と交流するインターンシップ型留学を実施している。令和5(2023)年度は参加希望者がおらず未催行であったが、(ｸ)の義守大学への留学プログラム参加者が、期間中中山医学大学を訪問し交流した。

(ｸ)台湾・義守大学春期台湾インターンシップ型短期留学参加者

3月にかけての約4週間、台湾の協定校である義守大学の学生寮に滞在し、日本語教育のアシスタント及び中国語学修を行うインターンシップ型留学であり、令和元(2019)年度開始のプログラムで、これまで参加者がいなかったが、令和5(2023)年度は7名の学生が参加した。

(ｹ)香港・香港伍倫貢学院(旧香港城市大学専上学院) 春期英語・中国語短期留学
　香港の協定校である香港伍倫貢学院、2月～3月の約10日間実施している英語及び中国語研修。令和5(2023)年度は参加希望者がおらず未催行。

(ｺ)ウィーンISAインターナショナルサマーアカデミー
　オーストリアの協定校であるウィーン国立音楽大学が、8月に約3週間実施している音楽留学。令和5(2023)年度は1名の学生が参加した。

(ｻ)令和4(2022)年度交換留学（韓国檀国大学校）
令和5(2023)年2月から6月に1名を派遣した。

(ｼ)韓国水原大学校との交流演奏会
　令和5(2023)年9月、韓国水原大学校の創立記念行事に招かれ、音楽学部の教員・学生及び一部卒業生28名（うち学生18名）からなる演奏団を派遣し、交流演奏会を実施した。
　なお、水原大学校との交流演奏は、相互訪問の形で、不定期に実施してきており、前回は令和元(2019)年10月であった。

②オンラインプログラム
(ｱ)台湾中山医学大学オンライン台湾留学
　コロナ感染症禍に短期派遣留学プログラムとして開始した台湾中山医学大学と本学学生の2日間交流のプログラムであり、令和5(2023)年8月に15名の学生が参加した。

(ｲ)フィリピンSDGsオンライン海外研修
　コロナ感染症禍の代替プログラムとして開始したSDGsへの理解の端緒とするために発展途上国の現状を知ることを目的としたオンラインプログラムである。現地のストリートチルドレン支援のNGOの報告、ゴミ山問題の現地中継レポートや現地のオンライン家庭訪問を行うほか、現地学生との意見交換会を企画している。また、このプログラムの一部（現地学生との意見交換会以外）は、人間生活学科2年必修の「コミュニティデザインII」、言語コミュニケーション学科選択・児童学科の中学英語II種免許取得希望者の必修「異文化間コミュニケーション」の一部として利用している。
　令和5(2023)年は9月に実施し32名が参加し、うち3名は、現地学生との意見交換会にも参加した。

③受入
(ｱ)夏期日本語・日本文化研修
　毎年、7月の10～14日間、台湾及び韓国並びに香港及びイタリアの交流協定校より留学生を受入れ日本語・日本文化研修を実施している。新型コロナ感染症拡大の影響で、令和2(2020)年度以降中止していたが、令和5(2023)年度、再開した。徳島キャンパスにおいては、台湾及び韓国の協定校を対象に大学生コースと高校生コースを開催してきたが、大学生コースのみを再開した。

(ｲ)令和5(2023)年度交換留学
　以下のとおり受け入れた。
　令和5(2023)年度前期、台湾義守大学から1名、台湾中山医学大学から3名、台湾嘉南薬理大学から1名、韓国檀国大学校から1名
　令和5(2023)年度後期、台湾嘉南薬理大学から1名、台湾中山医学大学から1名、韓国檀国大学校から2名

④海外からの受入れおよび海外派遣
令和5(2023)年度（留学生の数は、5月1日現在）（人）

		大学	短大	計	備　考
ｱ)学生受入	留学生	77	0	77	
	招致学生	54	2	56	短期研修を含む
ｲ)海外派遣	学生	30	2	32	
	教員	0	0	0	

令和4(2022)年度（留学生の数は、5月1日現在）（人）

		大学	短大	計
ｱ)学生受入	留学生	75	1	76
	招致学生	8	0	8
ｲ)海外派遣	学生	30	2	32
	教員	0	0	0

令和3(2021)年度（留学生の数は、5月1日現在）（人）

		大学	短大	計
ｱ)学生受入	留学生	78	3	81
	招致学生	0	0	0
ｲ)海外派遣	学生	7	0	7
	教員	0	0	0

2)留学生文化・史跡研修

従来、日帰りのバス旅行として史跡研究を実施していたが、令和5(2023)年度は、10月7日及び8日の一泊二日で日和佐八幡宮の例大祭に本格的に参加するという形式で実施し学生22名、うち留学生13名、日本人学生9名が参加した。

例大祭では、男子学生は「ちょうさ」と呼ばれる太鼓台の担ぎ手として、また女子学生は子供神輿の引手・担ぎ手として地域住民とともに参加した。日本の伝統的な文化を体感するとともに、過疎地域における伝統文化の継承にかける地域住民の思いにふれ、直面する課題を理解するなど、貴重な機会となった。

(7)地域・社会貢献

大学における地域・社会貢献と言えば、まず人材の育成、それも地元社会に貢献できる人材を育てていくことである。したがって、ただ単に地元にイベントを提供するという姿勢だけでは不十分と考えている。地域・社会貢献は目的であると同時に、学生を育むための手段と位置付けられなければならない。さらに、最初は教職員が何らかの誘導をするが、やがて学生たちが自ら学び育つ、すなわち地域・社会貢献がアクティブ・ラーニングの実践の場となることを意識している。

1)地域連携センターの主な活動

①地域学

地域の魅力を知り、課題を発見し、その解決能力を身につけるような人材育成を目的として実施している。

(ｱ)　今後の学びや研究、活動の推進を目的として徳島キャンパスの1年生全員に、前年度に顕著な地域貢献活動を行った本学学生による「地域貢献取組発表会」、徳島県知事や徳島市長による講演会などを実施した。

(ｲ)　学びや生活の基盤となる「さぬき市」について関心や理解を深め、地域志向の気持ちや地域への愛着心を醸成し、大学で修得する専門知識が地域課題とどのように関係するのかを考える契機とすることを目的として、香川キャンパスの1年生全体に、さぬき市長による講演会を実施した。

(ｳ)　地域の方々との交流を行うことで、地域活性化やまちづくり・創業などについて学ぶ、地域学スタートアップコース「万代中央ふ頭フィールドワーク」と地域学アドバンストコース「美馬市脇町を知る旅」を実施した。

(ｴ)　徳島の活性化や魅力の再発見を目指し、令和5(2023)年度に発足した、学生の自主活動である「とくしまサイコー塾」を支援している。学生自身が企画し、地域活性化をテーマにした座談会や「とくしまサイコー塾スタディツアー～上勝・勝浦で3Ｒを体験しよう～」を実施した。

(ｵ)　地域連携活動を行う「レインボーの会」等の取組を支援している。さぬき市文化祭の実行委員としての活動やさぬき市ボランティアネットワーク等と連携した一斉清掃、吃音のある若者と交流することで吃音に対しての理解を広める「注文に時間がかかるカフェ」の運営を実施した。

(ｶ)　学生時代の貴重な思い出づくりや級友・教職員との親睦を図ることを目的として、四国の誇る伝統文化である「遍路」について学び、体験するために、徳島キャンパスでは、第1番札所霊山寺から第3番札所金泉寺までのコースを、香川キャンパスでは、第86番札所志度寺から結願寺大窪寺までのコースを、徒歩とバスで巡る「遍路ウォーク」を実施した。

② 防災・減災

(ｱ)　地域と考える防災講座「日常生活から災害時にも役立つロープワーク」を実施し、地域住民や学生が参加した。

(ｲ)　災害時に車いすを使用する要配慮者等を安全に避難場所へ移動支援ができる技術を身につけることを目指し、「車いす避難サポーター養成講座」を徳島県・和歌山県・奈良県で実施し多くの学生及び一般受講者の避難活動における意識の高揚につながった。

(ｳ)　平成27(2015)年度からスタートした減災科学プロジェクトは、国際的地震学者を講師に迎え、学生・行政・企業関係者の聴講による減災科学シンポジウムの開催や三好市・高松市などでフィールドワーク調査を実施した。

③ 自治体等との連携

(ｱ)　徳島県が実施している「とくしま創生アワード」及び「県集落再生加速化支援費補助金」の審査業務を通して新事業創出に携わった。令和5(2023)年度「とくしま創生アワード」ひらめき賞に本学総合政策学部2年生が奨励賞を受賞した。

(ｲ)　「上板町STOPフレイル！With徳島文理大学」を上板町と連携して開催、「くすりと健康フェア」を徳島県と連携して開催し、地域への健康啓発に努めた。

(ｳ)　徳島県総合大学本部と連携し、「徳島科学技術アカデミーステップアップ事業」では、小学生を対象に、3Dプリンターを使ってペン立て等を作成した。また、「徳島リカレント推進事業」では、在職者や離職者を対象に「保育教材の製作と活用講座」及び「幼児の感覚統合を促す遊具の作成と活用講座」を開講した、さらに、学生を対象とした「大学･地域連携課題解決フィールドワーク事業」では、上勝町においてローカルSDGsを実践した。

(ｴ)　土庄町との連携協定により、瀬戸内海タートル・フルマラソン全国大会の運営補助員として、令和4(2022)年度6人、令和5(2023)年度7人の学生が参加した。

(ｵ)　徳島県文化の森総合公園内にある3施設(県立博物館、県立近代美術館、県立鳥居龍蔵記念博物館)の常設観覧料が無料となる「徳島県キャンパスメンバーズ制度」を平成30(2018)年度より実施しており、令和4(2022)年度64人、令和5(2023)年度74人が利用した。

④ 他大学等との連携

(ｱ)　「とくしま産学官連携プラットフォーム」に参画し、高等教育機関の魅力の共同発信、高校生への共同講義、共同でのFD・SDの開催等を実施した。

(ｲ)　「コンソーシアムとくしま」に参画し、遠隔授業コンテンツの作成、単位互換科目受講生の募集、就業体験型インターンシップへの参加等を実施した。

(ｳ)　「大学・地域共創プラットフォーム香川」に参画し、進学・教育部会幹事として高等教育機関の魅力の共同発信、留学生の交流、共同でのFD・SD研修の開催等を実施した。

(ｴ)　「海外大学とのオンライン交流事業」において、本学学生が県内とASEAN諸国の大学間で意見交換を行い、デジタル社会の消費者が直面する問題とよりよい消費者となるための提言ショートムービーを各校毎に作成した。

(ｵ)　香川県内の小学生を対象とした講座を令和元(2019)年度から「徳島文理こども大学」として実施しており、昨年度は他大学・短大と連携して、香川キャンパスの6学科が「香川わくわく子ども大学」として6講座を開講し、親子97組（小学生121人）が参加した。

⑤ 公開講座等

(ｱ)　地方創生を担う人材育成を目的とした公開授業(集客交流産業論)や思春期ピアカウンセラー養成講座を実施し、本学学生等が受講した。

(ｲ)　地域と考えるSDGs講座「これからの子ども家庭福祉に求められる人材とは」及び「家族と地域コミュニティの融和的未来」を実施し、本学学生等が受講した。

(ｳ)　本学が有する人的資源及び教育･研究を広く地域の学校に還元し、地域の学校に有用な情報を発信することで、地域貢献の推進を図ることを目的に「地域連携型出張講義プログラム」を実施している。昨年度、32校54講座を実施した。

2)徳島音楽コンクール

第15回徳島音楽コンクールを令和5(2023)年10月7日(土)に徳島キャンパスにおいて開催した。本コンクールは、音楽学習者の能力を育み、さらに音楽に対する理解と関心を高めることを目的に、会長本学理事長、顧問徳島県知事、徳島新聞社理事社長をはじめとする本学実行委員会が主催し、徳島新聞社共催、徳島県、NHK徳島放送局と四国放送の後援により毎年開催している。審査部門は、ピアノ、声楽、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、電子楽器、邦楽器の8部門で、今回は全国から197人(組)の参加があった。また11月4日には、むらさきホールにおいて「徳島音楽フェスティバル」を開催し、各部門の全金賞受賞者が演奏した。審査の結果、グランプリ1名、審査員特別賞3名、部門最優秀賞6名、今回新たに創設した未来賞1名を選出した。

3)高校生のための公開セミナー2023

高大接続改革の一環として、高校生に大学で学ぶ学問の魅力に触れてもらうことを目的として開催している。令和5(2023)年度は、徳島・香川両キャンパスでのべ18講座を開催し、41名の高校生が参加した。参加者の中からは、「スポーツ動画でフォームを分析したり、自分の姿勢を分析できたのが良かった」「実際に活動し学べるのは理解しやすく興味が深まった」「性感染症について正しく理解することで、他人も自分も守れるということがよくわかった」などの感想が寄せられた。今後は、高大接続のためのセミナーとして、高校生が高校の学びの段階で思考力・判断力・表現力などを育み、主体的な学びにつながるようセミナーの内容を検討する。

4)中学生による薬剤師の業務体験

中学生に対して将来の進路選びに役立ててもらうことを目的として、令和5(2023)年8月、香川県三豊市財田町において「中学生による薬剤師の業務体験」を開催した。本企画は三豊市、ライム調剤薬局（高松市）と徳島文理大学香川薬学部の合同企画であり、三豊市内の中学生18人が参加した。分包機を使ったお菓子の分包、ジュースと水の水剤調整そして着色した2つのワセリンの混合の3コーナーを全員がローテーションして体験できるようにした。それぞれのコーナーを現役薬剤師と本学薬学科5年生がペアで担当し、中学生たちとコミュニケーションをとりながら調剤手法やポイントを指導した。

参加した中学生からは「思ったより難しかったが楽しかった」「貴重な体験になった」「薬剤師の仕事に興味を持った」などの感想があった。また、薬学科5年生からは「OSCEや実務実習で身に付けた技術を中学生に指導できたので自信になった」「教えることの難しさと楽しさを感じることができた」との声が聞かれた。結果として、中学生の薬剤師、薬学部に対する興味向上はもちろん、薬学生の意識向上、モチベーションアップにもつながった。

この企画が好評であったため、三豊市からは「令和6(2024)年度は中学生だけでなく小学生向けにもこのような企画を開催してほしい」と要望されている。

5)学内ライトアップ

平成18(2006)年度から、地域の住民の方に大学に親しみを持ってもらい、地域と共に発展する大学となることを目的に、キャンパス内をLEDによるイルミネーションでライトアップしている。令和5(2023)年度は教職員と学生による点灯式を12月1日に香川キャンパスで、12月8日に徳島キャンパスで行った。点灯後は、本学連による阿波踊り披露、音楽学部の学生によるコンサートやハンドベル・軽音フリーミュージック部による演奏、ダンス部によるパフォーマンスで盛り上がった。徳島キャンパスでは約35万球のLEDがむらさきホール前のメインストリートを中心に、香川キャンパスでは7万5千球のLEDが正門から管理棟までを中心に1月末までキャンパスを彩った。長年この催しを行っているので認知度も上がり、この時期の観光スポットになっており、地元はもとより遠方からの問い合わせもある。新型コロナウイルス感染も第5類に移行し、冬を楽しもうと例年以上に多くの一般客がキャンパスに足を運んでくれた。

6) とくしまボランティアパスポート

令和6(2024)年2月15日、徳島県庁において「とくしまボランティアパスポート(上級編)」を修了した6名のうち本学学生4名に徳島県知事から表彰状が授与された。この制度は、本学と徳島県が連携して、『次代を担う人材の育成と若者の社会参加の促進に資すること』を目的に平成28(2016)年から始まり、今年で7回目の受賞となる。積極的に取り組んだ累計120時間以上ボランティア活動に参加したことが認められての表彰となった。

7) 全学地域清掃ボランティア活動

令和5(2023)年5月30日、12月1日「全学地域清掃ボランティア活動」を授業が始まる7：45から8：45まで、徳島キャンパス内とその周辺道路、歩道で清掃活動を行った。早朝にもかかわらず、学生、教職員を合わせて100名の参加者があり、各自ゴミ袋、トング、軍手を持ち活動を行った。終了後は、清々しい気分で授業に臨めた。

8) 能登半島地震被災地支援

被災された方々を支援するため令和6(2024)年1月19日(金)～2月9日(金)まで学生・教職員を対象とした義援金活動を実施した。徳島キャンパスでは、学生有志延べ35人が、令和6(2024)年1月22日(月)～25日(木)の昼休み学内において「募金キャンペーン」を行った。

また、学内11カ所に募金箱を設置し、皆様からご協力をいただいた。集まった義援金21万1,504円は、令和6(2024)年2月19日(月)学生2名が「日本赤十字社徳島県支部」に贈呈した。

9)香川わくわく子ども大学

大学・地域共創プラットフォーム香川事業として令和5(2023)年7月から8月にかけて、香川県内小学4年生から6年生を対象に、「香川わくわく子ども大学」を香川キャンパスで開催した。6学科の教員が専門性を活かして8講座を開講し、応募総数300件の中から抽選により親子97組の参加があった。小学生だけでなく保護者も驚きや興味・関心を持ちながら実験や体験などに取り組み、熱心にメモを取ったり講師に質問したりしていた。「将来に向けたきっかけや興味を引き出すチャンスを与えてもらい有難かった」など、参加者から高い評価を頂いた。

10)思春期ピアカウンセラーの活動

思春期ピアカウンセリングとは、同年代の仲間(ピア)による傾聴・共感を通し、性＝生(命)の正しい知識を伝えるカウンセリングである。その養成講座を受講しカウンセリング手法を学んだ学生を思春期ピアカウンセラーと呼ぶ。本学看護学科でも毎年、数名の思春期ピアカウンセラーを養成し、活動をしている。その一環として、令和5(2023)年度は、徳島県内の中学校6校、高校2校へ出向き、思春期ピアカウンセリング活動を行った。成果を思春期ピアカウンセリング全国大会や、徳島県立男女共同参画総合支援センター主催のフレアキャンパス企画委託事業で報告した。このような一連の活動は、中学生・高校生や主催者からも好評を得ている。

令和5(2023)年4月には看護学科内に常時相談活動ができるようにピアルームを設置し、思春期ピアカウンセラーが同じ看護学生の多様な悩みや思春期の心のケアに対応している。今後も、思春期ピアカウンセリング活動を継続する予定である。

11)車いす避難サポーター養成講座

令和元(2019)年度から災害時の要配慮者への新たな取り組みとして、中学生や高校生、一般市民、医療福祉関係者、自治体、企業、自主防災会などの方々を対象とし、車いす避難サポーター養成講座を開講している。令和5(2023)年度は徳島県、和歌山県、奈良県で計19回開催し690名が受講、受講者は延べ1,623名となった。講座では大学内で実施している避難サポート技術に関する最新知見も紹介した。参加者からは「車いすの特性が理解でき、災害時に役立つサポート方法が身についた。地域で広めたい。」などの感想が寄せられた。今後も、各関係機関や教育機関などとも連携し、地域防災力の向上に向けて多くの方々に普及啓発を行っていく。

12)上板町STOPフレイル！with 徳島文理大学

令和5(2023)年9月17日(日)9時から13時に上板町農村環境改善センターにて上記のイベントが初めて開催され、教職員21名と学生37名が参加した。ステージイベントとして、本学理学療法学科教授による講演「フレイルを予防し元気で長生き」の他、本学口腔保健学科准教授による講演「みんな一緒に口から健康『口健体操』！」、本学短期大学部音楽科准教授と音楽療法コースの学生4名による音楽療法を実施した。また、ブースイベントとして、理学療法学科では簡易フレイルチェックやインボディを用いた筋量測定、運動機能検査、健康相談等を、口腔保健学科ではお口の元気度として、かむ力や運動力、潤い度を測定した他、歯科医の教員がお口の相談を、本学短期大学部生活科学科食物専攻では食生活相談とベジメーターによる野菜摂取量チェックを実施した。ステージもブースも多くの上板町の住民の方々で一杯となり、盛況に終えることができた。大変好評であったため、次年度も開催する予定としている。

13)特別養護老人ホーム訪問　－音楽療法実習の直接指導－

本学名誉博士であり音楽療法の世界的権威であるマイケル・ローバッカー博士が4年ぶりに来学され、令和5(2023)年7月29日(土)～8月4日(金) にわたり音楽学部で集中講義を行った。8月2日(水)には、ローバッカー博士が学生とともに本学の臨床実習受け入れ先の特別養護老人ホーム健祥会モルダウへ訪問し、入所者の方に楽しい時間を過ごしてもらえるように工夫しながら学生の音楽療法実習の指導をおこなった。学生と入所者の方が一緒に体を動かしたり歌唱を行ったり、学生のギターに合わせて入所者の方が太鼓を演奏するなど楽しい時間を過ごしてもらうことができた。

14)「芋ビール」と「おつまみチュロス」でサステナブルな地域づくりに貢献！

令和6(2024)年1月13日(土)、徳島市内の阿波おどり会館内の物産観光交流プラザ「あるでよ徳島」において、本学総合政策学科の学生が開発した“芋ビール”と“おつまみチュロス”のお披露目会を行った。阿波おどりの文理大学連や人形浄瑠璃部が応援に駆け付け、多くのギャラリーとマスコミが注目するイベントとなった。この芋ビールとおつまみチュロスは総合政策学科の学生が、阿南市那賀川町の活性化に貢献するため、那賀川町の地域食材を活用して取り組んできたものである。具体的には、若者目線からサステナブルな地域づくりに貢献するため、地元の金時芋農家とクラフトビール醸造所とコラボした全国的にも数少ない「芋ビール」に加え、クラフトビール製造過程で生じる麦芽搾りかすや阿波牛、米粉を活用した「おつまみチュロス」を開発したものである。令和6(2024)年度においても、学生と地域が協働したプロジェクトを展開していくこととしている。

15)地域課題の解決策を実践する上勝阿波晩茶づくり―持続可能な暮らしを考える学び―

令和5(2023)年8月1日に徳島県上勝町において、学生13名が上勝阿波晩茶づくりを行った。阿波晩茶は夏の盛りに十分成長した一番茶葉を摘み、桶に漬けて乳酸菌発酵させることで酸味のある独特の味わいとなり、各戸で違った乳酸菌を用いるため、味が異なる茶ができるのが最大の特長である。しかし、近年は集落の過疎高齢化により晩茶農家の急減が課題となっている。

そこで、人間生活学科では令和4(2022)年度から、晩茶文化を継承する取組みの一つである「桶オーナー制度」(主催：一般社団法人上勝阿波晩茶協会)に参加し、酷暑の中の茶摘み、舟擦り、桶入れ、茶干し等一連の行程を行い、完成した茶葉は「にんにんの阿波(our)晩茶」として地域イベント等で提供している。さらに、文化の継承方法を検討するため茶葉の配布とともにアンケート調査を行い、その成果は「上勝阿波晩茶祭り2023」(令和5(2023)年12月10日開催)で報告した。これらは持続可能な暮らしを考える実践的な学びとなっている。

16)産官学連携でモリンガ販売拡大を通じて地域活性化

人間生活学部食物栄養学科の学生有志団体「もちっとむぎゅっとの会」は、徳島県南部の牟岐町を舞台に地域活性化の活動に取り組んでいる。平成29(2017)年から牟岐町内で行っているもち麦栽培を応援するとともに、農家などがつくる「牟岐の農業を守る会」と亀井製麺所(上板町)、スーパーマーケット、牟岐町、徳島県と産官学連携で、もち麦を使った商品の開発に取り組んでいる。

令和5(2023)年度は、新しくモリンガという食材を中心に活動を行った。モリンガのパウダーには徳島県民が摂取不足な栄養素の食物繊維・カルシウムをはじめビタミンA・B・Dが豊富に含まれている。大学祭では、モリンガを使用したクロッフルとモリンガを使用した炊き込みご飯を販売し、12月にはモラスコむぎでカフェを開店した。また、モリンガの特徴を勉強した上で試作を重ね、モリンガレシピ集（16レシピ掲載）を発行した。令和5年度地域貢献活動リスタートフォーラム（とくしま産学官連携プラットフォーム・徳島県主催）で「牟岐町の特産品を活かした地域活性化事業－産学官の取り組み－」を発表した。

このような活動を通して、参加学生はさまざまな年齢や属性の人とのコミュニケーション能力を養い、マーケティングのノウハウなど学内の講義や実習では経験できない学びを経験している。

17)短期大学部・保育科の地域貢献

①第40回おとぎのくに

学生が自分たちで創作したミュージカルやブラックシアター、ハンドベルなどを近隣の保育所や附属幼稚園の幼児と保育者を招待して上演する行事である。令和5(2023)年度は11月29日・30日の2日にわたり開催し、約1000人に観覧していただいた。衣装や動画の制作、当日の誘導などでは生活科学科や商科、メディアデザイン学科の協力を得た。他分野の学生と交流し協働でイベントを行うことは、将来チームで仕事にあたるための貴重な学びとなっている。

②第19回保育セミナー

学生と保育者が共に学ぶ機会として開催している。令和5(2023)年度は7月22日にオンラインで開催し、教職員・学生119名、保育関係者者81名が参加した。第1部は学生が手遊びやパネルシアターなど保育実技を発表した。第2部では、テレビ等のメディアでも活躍されている大豆生田啓友（おおまめうだひろとも）氏によって「こども・保育は面白い」と題した講演を行っていただいた。実践事例と共に、最先端の研究結果を踏まえたお話をしていただいた。

③ペンギンクラブ子育て支援イベント

主に未就園の子どもと保護者を対象とした子育て支援イベントである。教員が指導する運動遊びやリズム遊びなどの他、学生がスタッフとして参加して絵本の読み聞かせや手遊びを行っており実践的な学びの機会となっている。令和5(2023)年度は8回開催し、親子体操やリズム遊び、口腔保健学科の協力による「歯の健康」などをテーマに6回開催することができた。繰り返し参加する親子が多く、毎回好評である。参加した親子はのべ95組201人である。

④とくしまリカレント教育推進事業

徳島県の委託を受け、本学教授等による2件のリカレント講座を開催した。1件目は「幼児の感覚統合を促す遊具の作成と活用講座」(6日間計12時間)、2件目は「表現活動をもっと楽しくする保育教材の制作と活用」(2日間計10時間)の講座である。2件とも参加者は現職保育者であり、参加者数は前者が15名、後者が20名であった。2講座とも終了後のアンケート結果では高い満足度が示されており、次年度も開催してほしいという要望が寄せられた。

18)短期大学部・生活科学科の地域貢献

①SDGsの視点から取り組む「あおさのりスイーツ」の開発

令和4(2022)年に引き続き、薬学部の独自技術(通年陸上完全養殖)により開発された「あおさのり」の有効利用を図ることを目指し、スイーツ開発に取り組んだ。活動内容は以下の2つである。

令和4(2022)年に完成したサブレの商品化。昨年提案したサブレは「あおサブレ」という商品名で販売することに決定した。パッケージデザインやオリジナルキャラクターを学生が提案した。製造は障がい者の授産施設に委託し、利用者の社会的自立を支援することとした。「あおサブレ」は令和6(2024)年3月15日の卒業式において販売を開始。県内の幾つかの店舗でも扱っていただける体制を整えた。

学生による新たなスイーツの提案。学生による提案として、バターサンド、タルト、チョコレートを試作。短大フェスタにて試食会を実施し意見の集約に努めた。「総合科目D(スイーツ開発)」という授業を開講することにより他学部他学科の学生が参加したことは、総合大学ならではの融合的な取組であり、教育効果の高い内容に深化させることができた。

令和6(2024)年度は、あおサブレ販売を継続的に発展させる他、大学発の「健康志向のサステナブル・スイーツ」第2弾として「チョコレート」の商品化を図るとともに試食会で要望のあった和菓子の開発を行い、産官学の連携事業としてさらに発展させることを目指す。

消費者まつり

令和5年度
試作3種類

あおサブレ

②シカ肉の有効活用としてシカ肉献立考案とシカ肉ソーセージ商品化

食物専攻では平成28(2016)年から地域連携フィールドワーク講座に参加してきた。野生鳥獣による農産物の食被害に対し捕獲された野生鳥獣の有効活用として、エシカル消費を目指し、学生たちは様々な活動に取り組んでいる。

シカ肉を利用したレシピを学生が考案し、学生食堂での提供を令和5(2023)年度も継続している。コロナ禍では実施できなかった対面での献立提供は、TFTとのコラボレーションを行い、1食あたり20円の給食費寄付として社会貢献に携わった。献立には、「あおさのり」を利用したソースを使用し、好評を得た。

令和5(2023)年度は、学生が考案したシカ肉ソーセージを地元食品会社の協力により、商品化することが出来た。大学祭の短大フェスタで来場者にお披露目した後、地域イベントとして松茂クラフトフェアや、徳島食の博覧会2023（道の駅いたの）にも出店し、いずれの会場においても完売した。エシカル消費の実践で、地域の活性化にも貢献している。

19)短期大学部・商科の地域貢献

農山漁村地域の活性化に向けたSDGsの推進

徳島県では、平成22(2010)年度から「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業」を実施しており、本学は平成24(2012)年度に「とくしま農山漁村(ふるさと)協働パートナー協定」を締結した。この取組は、社会貢献に前向きな企業・大学等と応援を求める農山漁村地域の間を徳島県が取り持ち、農作業支援や地域の活性化活動等を両者の協働により実施するものである。

令和5(2023)年度は、これまで商科で取り組んだ「ゆずの収穫体験(吉野川市美郷)」や「とくしま農山漁村ふるさと応援し隊事業研修会」での発表等が評価され、徳島県知事より本学に対して感謝状と記念品が贈呈された。

このような地域活性化に向けた取り組みは、地域の歴史や伝統文化について学び、学生の多角的な視点から地域が抱える課題を把握し解決に導くことに繋がっている。また、学外で学ぶ貴重な機会となり、地元の方々との交流はコミュニケーション力も高められ、多様な考えを傾聴する力を養うことができる。

令和5(2023)年度は、ふるさと団体「那賀川こまち」を応援するため、間伐作業・郷土料理体験(那賀川町)に参加した。初めて食べるそば米汁等の郷土料理を味わいながら、林業の仕事内容について知識を深めた。

(8)徳島文理中学・高等学校、小学校、附属幼稚園の活動

1)徳島文理中学・高等学校の教育

建 学 の 精 神　：「自立協同」
教 育 方 針　：「進学指導を中核とした人間形成」
「品位と知性に富む豊かな人間性の育成」
「21世紀をリードする国際人の育成」

−真にゆとりある私立中高一貫教育−

① 豊富な授業時間と6年間の継続的・系統的な指導によって、受験科目については6年間の内容を5年間で終える先取り学習を実施している。

② 高校3年生では類型別コースで志望する大学・学部・学科に応じた難易度の科目を自由に選び、「ゆとり」を持った受験対策によって顕著な難関大学合格実績を上げている。

③ 中学2年生より「応用」「発展」の習熟度別クラス編制とし、さらに高校2年生からは文系・理系別に「難関」「応用」「発展」クラスなどに細分化して、習熟度に応じた効果的な指導を行っている。

④ 最新の耐震基準に基づく環境に優しい安心・安全な本館と広々とした運動場、本格的な日本庭園を有し、本校の教育環境は理想的なものとなっている。

⑤ 中学校入試では前期･後期入試を実施するとともに、高校入試では推薦選抜と一般選抜を実施するなどして生徒募集に努め、難関大学・学部への現役合格を目指している。

⑥ 私学魅力アップ事業を活用して、卒業生による全校生徒対象の「トップ講演会」を開催したり、大学教授等を招き、医歯薬系、工学系、文系の分野別講演会を高1、高2生対象に3回実施している。中3生対象には「国際理解（世界の国々を知ろう）」のテーマで県内在住の外国人やJICA関係者を招いた講演会をシリーズで開催している。

⑦ 代々木ゼミナール講師（英数国）を招いた中3生対象の90分2コマの講演会は、91～98％の生徒が勉強の仕方を学ぶ上で参考になったと好評だった。駿台予備学校講師（英数国）を招いた高2生対象の「特設スーパー講座」と題した50分4コマの講義は、89～97％の生徒が受験勉強の参考になったと答えるなど好評だった。

⑧ 北京師範大学第二附属中学とは、1980年以来友好交流を続けている。再開するタイミングを検討している。オーストラリアでの語学研修はコロナで中断していたが、2024年にシドニー郊外のキララハイスクールと相互訪問するなどして、グローバル時代を視野に入れた国際交流を積極的に推進する予定である。8月に本校から34名が訪問し、10月には先方から27名が来校する予定である。

⑨ 県内外の強豪チームを招いた小中学生対象の本校主催「第16回文理杯争奪剣道大会」には、県内外から小学生の部に28チーム、中学生女子の部に19校、男子の部に26校が参加し熱戦が繰り広げられた。また、フェンシング部は、中学生、高校生共に全国大会に出場するなど活躍している。

⑩ 「いじめに関する調査」や「学校評価アンケート調査」を実施し、関係者で分析し、冊子にまとめ、公表し、今年度の反省と次年度の組織づくりに反映させた。多くの項目で改善が見られた。

⑪ 「教職員指導力アップ事業」と題して、様々な分野の講師を招き、教職員、生徒、保護者対象の各種講演会、研修会を開催して、「人権教育」「生徒理解」「大学入試」「スマホ依存症予防」などについて理解を深めた。

⑫ ICT環境整備に努め、タブレットを中学校で1人1台、高校で必要数購入し、電子黒板機能を備えたプロジェクターを各教室に設置した。調べ学習や課題研究、日々の教育活動に積極的に活用している。各教科におけるデジタル教材の効果的活用が目下の課題である。

2)徳島文理小学校の教育

建学の精神　　「自立協同」
校　　訓　　「正しく　強く　美しく」
めざす子ども像　①思いやりのある美しい心をもった子ども（自他の尊重）
②なかよく助け合い協力できる子ども（連帯と協調）
③よく考え、正しい行いのできる子ども（自主・自立の精神）
④苦しいことに負けずに努力する子ども（強い意志）
⑤じょうぶな体をもった子ども（健康と安全の習慣）
⑥あいさつのできる礼儀正しい子ども（礼節・品位）
⑦学習に力いっぱいがんばる子ども（旺盛な学習意欲）

① 充実した授業内容

文理小学校の6年間では、国公立小学校より約900時間多くの授業時間数を設定している。授業時間数にゆとりを持たせ、独自のカリキュラムを編成し教育内容を充実させ、児童一人一人に行き届いた教育を実践している。また、基礎基本はもとより、応用・発展にも十分踏み込んでいる。さらに、3年生以上で国語と算数も教科担任制を導入したり、全学年で一人一台のタブレットを使ったICT活用教育等を行ったりして、指導方法にも工夫をしている。1年生では、スタートカリキュラムを実施して、スムーズな学校生活を開始している。低学年・中学年・高学年の発達段階に応じたステージで、個別指導・先取り学習・6年生の補習等を実施して、成果をあげている。

② 学習の基盤としての国語力の育成

読書入門の1～3年生までは、親子読書会をとおして読書に興味と親しみを持たせ、読書への意欲づけと習慣化する態度を育てている。また、各学年毎に課題図書「これだけは読もう20冊」の奨励を契機とし、読後の感想文を校内・全国各分野コンクールへ応募し、優秀な成果をあげている。低・中・高学年別の3つの図書室に、国の基準冊数の約5.4倍の蔵書を誇っている。さらに、国語科を重視するとともに、毎日の日記指導・適宜の作文指導を充実させて、国語力を高めている。

③ 伝統文化の尊重

・日本の伝統文化にふれ、作法を体験してお茶の心を学ぶため全校茶会を行っている。
・古典等の音読を行い、日本の伝統文化に慣れ親しむ。
1年（俳句）　2年（詩歌）　3年（論語）　4年（百人一首）　5年（古典文学）　6年（自作短歌）

④ 一味会

むらさきホールにて、日頃の音楽成果を発表する学習発表会を行っている。
4年生では、学級ごとに英語力を活かした英語劇を披露している。

⑤ 遷都学習

5～6年生の2年間で首都変遷の歴史をたどり史実を確かめる臨地学習を行っている。
ここ3年間は、コロナ禍で目的地の変更をしたが、令和6年度から元に戻して実施する。

⑥ 英語教育

昭和59(1984)年の開校以来、教科として特設された英語の時間では、1年生から6年生まで段階的・発展的な授業を展開している。各学年とも週に2時間の授業があり、高学年(5、6年生)ではそのうち1時間をネイティブスピーカーの教師が指導している。6年間で学習する単語数も約1500語となっており、国公立小学校が目指す約600～700語を大きく上回っている。英語になれ親しみ、将来において使える英語の基礎をつくること、広い視野をもつ子どもを育てることを目標として、聞く・話す・読む・書くの4技能を生かした先進的な指導を行っている。

⑦ ICT活用教育・デジタル化の推進

ICTを効果的に活用でき、学習の基盤として、情報モラルを含めた情報活用能力を育成している。次の4つの柱を定めて取り組んでいる。欠席や自宅待機時に、オンライン授業も実施している。校内のWiFi環境等も整備済で、校務もデジタル化を進めている。
・目的に応じた情報活用のための技能・実践力を高める。
・電子黒板・書画カメラ・デジタル教科書等を利用して、各教科等でのICT活用を図る。
・プログラミングツールを活用して、その理解と論理的思考力を育成する。
・情報社会で適正に活動できるように、情報モラル・セキュリティ力を身につける。
・校内ネットワークを高速化・大容量化するとともに、一人一台の最新高機能タブレット端末を活用して効果をあげている。

3)附属幼稚園の教育

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、その事を教職員全員が自覚した上で、環境を通した教育に当たっている。また、優秀な教員の援助と助言のもと、一人ひとりに寄り添い、幼児期にふさわしい生活を展開している。

① 教育方針

【健康】自分のことは自分でできる、心身ともに健康な子どもに
【知性】ものをよく認識し、よく思考し、理性的に行動できる子どもに
【徳性】優しさと思いやりがあり、お友達と仲良くできる子どもに

② ７つの特色

(ｱ)一貫教育体制

徳島文理小学校、徳島文理中学校、徳島文理高等学校と強い連携を保っている。

(ｲ)教育環境の充実

・運動場を拡張し芝生を張り、園児が思いきり遊び、のびのびと活動できる環境、また、菜園や花壇を広げ季節の野菜や草花の栽培、うさぎの飼育を行い、自然や動物とふれあえる環境となっている。

・安全面や衛生面には配慮し、床暖房、指つめ防止用ゴムパッキン、アクリルガラス窓、滑り止め、各教室には冷暖房等を備え、園内の各所に防犯カメラを設置している。

・衛生面ではトイレとシャワールームを2つの保育室の間に設置し、「安心感」「清潔さ」「使いやすさ」に留意している。

(ｳ)大学・短期大学部の学生との連携

徳島文理大学・短期大学部の学生と接することで、多様な経験を豊かにし、幼児の人間関係の発達を促している。

(ｴ)特設保育の設定

通常保育のプラスαとして、専門の指導員のもと、音楽や英会話、絵画・折り紙、体育遊び、茶道などの特別な教育を通じて、感性や感覚を養うことを目的として教育を行っている。

(ｵ)大学内の施設・設備の利用

大学イベントへの参加、構内施設の施設・設備の利用により、多様な環境体験を積み、豊かな知性を養っている。また、地震・津波の避難訓練では学生と園児が手を取り合って避難を行うなど、園児が安心して参加できる避難訓練を実施している。

(ｶ)子育て支援体制

望ましい子育てのあり方や、育児不安の解消のために、随時、子育て相談を実施している。また、平成25(2013)年10月から3歳の誕生日を迎えた子どもの入園を開始した。

(ｷ)預かり保育の実施

園内の教室にて預かり保育を実施している。専任教諭による保育を行い、制服から普段着に着替え、子ども達がリラックスした雰囲気の中で過ごせるよう努めている。(月～金曜：保育終了後～18:30　春・夏・冬休み：8:00～18:30)

③ 令和5(2023)年度の特長ある取り組み

感染対策と安全管理の実施

「子どもの育ちのためにすべきこと」と「感染対策のためにすべきこと」の二つの役割を熟慮し、そのバランスをとりながら日々の保育や行事のあり方を検討した。各組、各特設保育室、リズム室等の全保育室に空気清浄機を設置し、サーキュレーター、天井扇風機を使用するなど環境整備を図りながら、手洗いうがい、手指消毒や適切な距離や会話等について、日々の保育の中で丁寧に説明し自分たちなりに考えて行動できるようにしている。

情報発信

HPをリニューアルし、Instagramを駆使して、広く敏速に園行事や保育内容について発信することで、保育の「見える化」につなげ、多くの方に園の魅力を理解していただけるよう努めた。

小学校との連携・接続

一年間を通して、徳島文理小学校1年生児童と年長組幼児が交流を行った。一緒に活動することにより、小学生に憧れを持ち、自身の成長を喜び、小学校という施設、児童、先生を身近に感じられるようになった。今後も幼小の接続の教育を意識して、「学びの芽生え」から「自覚的な学び」への円滑な移行を図る。

Ⅲ．財務の概要

１．決算の概要

(1)貸借対照表関係

1)貸借対照表の状況と経年比較

（百万円）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	88,830	88,685	88,633	89,074	89,462
流動資産	9,533	9,451	9,729	9,257	8,164
資産の部合計	98,363	98,136	98,362	98,331	97,626
固定負債	1,617	1,611	1,605	1,604	1,568
流動負債	1,386	1,262	1,346	1,184	1,026
負債の部合計	3,003	2,873	2,951	2,789	2,594
基本金	106,955	110,377	111,133	117,736	126,034
繰越収支差額	△ 11,595	△ 15,114	△ 15,722	△ 22,194	△ 31,001
純資産の部合計	95,360	95,263	95,411	95,542	95,033
負債及び純資産の部合計	98,363	98,136	98,362	98,331	97,626

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2)財務比率の経年比較

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産構成比率	90.3%	90.4%	90.1%	90.6%	91.6%
有形固定資産構成比率	48.4%	50.1%	49.1%	54.5%	61.9%
特定資産構成比率	41.8%	40.1%	40.9%	35.9%	29.5%
流動資産構成比率	9.7%	9.6%	9.9%	9.4%	8.4%
固定負債構成比率	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%
流動負債構成比率	1.4%	1.3%	1.4%	1.2%	1.1%
内部留保資産比率	48.1%	46.6%	47.6%	42.2%	34.9%
運用資産余裕比率（年）	5.3	5.2	5.6	5.0	4.0
純資産構成比率	96.9%	97.1%	97.0%	97.2%	97.3%
繰越収支差額構成比率	-11.8%	-15.4%	-16.0%	-22.6%	-31.8%
固定比率	93.2%	93.1%	92.9%	93.2%	94.1%
固定長期適合率	91.6%	91.5%	91.4%	91.7%	92.6%
流動比率	687.8%	748.7%	722.7%	781.6%	795.7%
総負債比率	3.1%	2.9%	3.0%	2.8%	2.7%
負債比率	3.1%	3.0%	3.1%	2.9%	2.7%
前受金保有率	775.2%	892.2%	837.6%	874.4%	917.3%
退職給与引当特定資産保有率	99.0%	99.3%	99.7%	99.7%	102.1%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
減価償却比率	65.6%	67.4%	68.6%	64.8%	60.6%
積立率	83.7%	78.4%	78.2%	68.3%	55.3%

(2)資金収支計算書関係

1)資金収支計算書の状況と経年比較

（百万円）

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	7,122	7,017	6,706	6,708	6,440
手数料収入	84	75	82	74	62
寄付金収入	56	33	25	38	47
補助金収入	1,068	1,271	1,252	1,328	1,099
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	136	123	126	106	115
受取利息・配当金収入	616	579	621	492	446
雑収入	263	188	250	246	354
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,180	1,026	1,126	1,015	843
その他の収入	2,387	4,953	2,492	8,277	9,822
資金収入調整勘定	△ 1,429	△ 1,398	△ 1,262	△ 1,386	△ 1,344
前年度繰越支払資金	8,938	9,150	9,153	9,430	8,879
収入の部合計	20,422	23,017	20,571	26,327	26,762

（百万円）

支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	4,776	4,639	4,567	4,583	4,879
教育研究経費支出	2,123	2,384	2,172	2,246	2,267
管理経費支出	474	486	489	546	544
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	629	3,117	442	6,502	8,043
設備関係支出	371	341	320	345	258
資産運用支出	1,305	1,505	1,505	1,505	1,505
その他の支出	1,759	1,578	1,822	1,878	1,710
資金支出調整勘定	△ 165	△ 184	△ 175	△ 156	△ 180
翌年度繰越支払資金	9,150	9,153	9,430	8,879	7,736
支出の部合計	20,422	23,017	20,571	26,327	26,762

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2)活動区分資金収支計算書

（百万円）

科目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	8,660	8,662	8,395	8,441	8,095
	教育活動資金支出計	7,373	7,508	7,228	7,375	7,690
	差引	1,287	1,153	1,167	1,066	404
	調整勘定等	68	△ 68	89	△ 184	△ 250
	教育活動資金収支差額	1,354	1,086	1,257	882	154
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	597	3,272	672	6,484	8,021
	施設整備等活動資金支出計	2,301	4,957	2,261	8,347	9,801
	差引	△ 1,704	△ 1,686	△ 1,590	△ 1,862	△ 1,780
	調整勘定等	△ 63	19	1	△ 12	39
	施設整備等活動資金収支差額	△ 1,767	△ 1,667	△ 1,588	△ 1,874	△ 1,741
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		△ 413	△ 581	△ 332	△ 992	△ 1,587
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	2,236	2,022	2,269	2,107	2,008
	その他の活動資金支出計	1,611	1,439	1,661	1,665	1,565
	差引	625	583	609	442	443
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	625	583	609	442	443
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		213	2	277	△ 550	△ 1,144
前年度繰越支払資金		8,938	9,150	9,153	9,430	8,879
翌年度繰越支払資金		9,150	9,153	9,430	8,879	7,736

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

3)財務比率の経年比較

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動資金収支差額比率	15.6%	12.5%	15.0%	10.4%	1.9%

(3)事業活動収支計算書関係

1)事業活動収支計算書の状況と経年比較

（百万円）

科目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	7,122	7,017	6,706	6,708	6,440
	手数料	84	75	82	74	62
	寄付金	50	31	25	36	45
	経常費等補助金	1,004	1,228	1,207	1,272	1,080
	付随事業収入	136	123	126	106	115
	雑収入	268	131	248	200	336
	教育活動収入計	8,665	8,605	8,393	8,395	8,077
	事業活動支出の部					
	人件費	4,780	4,576	4,558	4,537	4,824
	教育研究経費	4,122	4,159	3,753	3,633	3,584
	管理経費	590	600	599	645	643
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	9,493	9,335	8,910	8,815	9,051
	教育活動収支差額	△ 828	△ 729	△ 517	△ 420	△ 974
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	616	579	621	492	446
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	616	579	621	492	446
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	616	579	621	492	446
経常収支差額		△ 212	△ 151	104	71	△ 528
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	97	65	55	77	43
	特別収入計	97	65	55	77	43
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	44	12	10	17	25
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	44	12	10	17	25
	特別収支差額	54	53	44	60	18
基本金組入前当年度収支差額		△ 158	△ 97	149	131	△ 509
基本金組入額合計		△ 803	△ 3,422	△ 759	△ 6,609	△ 8,300
当年度収支差額		△ 962	△ 3,520	△ 611	△ 6,478	△ 8,809
前年度繰越収支差額		△ 10,640	△ 11,595	△ 15,114	△ 15,722	△ 22,194
基本金取崩額		7	0	4	6	2
翌年度繰越収支差額		△ 11,595	△ 15,114	△ 15,722	△ 22,194	△ 31,001

（参考）

事業活動収入計	9,378	9,249	9,069	8,963	8,566
事業活動支出計	9,537	9,347	8,920	8,832	9,076

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2)財務比率の経年比較表

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費比率	51.5%	49.8%	50.6%	51.1%	56.6%
人件費依存率	67.1%	65.2%	68.0%	67.6%	74.9%
教育研究経費比率	44.4%	45.3%	41.6%	40.9%	42.1%
管理経費比率	6.4%	6.5%	6.6%	7.3%	7.5%
借入金等利息比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率	-1.7%	-1.1%	1.6%	1.5%	-5.9%
基本金組入後収支比率	111.2%	160.4%	107.4%	375.2%	3410.3%
学生生徒等納付金比率	76.7%	76.4%	74.4%	75.5%	75.6%
寄付金比率	0.9%	0.6%	0.4%	0.6%	0.8%
経常寄付金比率	0.5%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%
補助金比率	11.4%	13.7%	13.8%	14.8%	12.8%
経常補助金比率	10.8%	13.4%	13.4%	14.3%	12.7%
基本金組入率	8.6%	37.0%	8.4%	73.7%	96.9%
減価償却額比率	22.3%	20.2%	19.0%	16.9%	15.6%
経常収支差額比率	-2.3%	-1.6%	1.2%	0.8%	-6.2%
教育活動収支差額比率	-9.6%	-8.5%	-6.2%	-5.0%	-12.1%

２．経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

(1)経営状況の分析

教育活動収支において、学生数減少による学生生徒等納付金収入減少が主要因となり、事業活動収入が3億9,706万円減少しました。

事業活動支出については、退職金支払増加等一過性の要因により、2億4,322万円の増加となった結果、経常収支差額は5億2,769万円の支出超過となりました。

純資産構成比率については97.3%と、引き続き高い水準を維持しており、財務状況は安定しています。

(2)経営上の成果と課題

令和7年4月の香川キャンパスの移転・開学により、教育環境の充実がより図られ、今後の学生数の増加は十分に期待できます。

他方で、学生の選択肢を減らさないように、現在の学部・学科を維持し、必要に応じて定員の調整などを検討してまいります。

今後、新校舎建設に伴う償却負担増加や光熱水費の上昇等の課題に対し、引き続き適正な経費管理を実施し、安定的な経常収支を確保することが重要な経営課題となっています。

(3)今後の方針・対応方策

18歳人口が減少するこの状況においても、学生募集強化を継続し、学生数の増加を図ることで、学生生徒等納付金を主体とした収入の安定化を目指します。

予算執行にあたっては、教育の質の向上を目指すと同時に、その必要性を十分に考慮し執行することで、健全な財務状況を維持いたします。

監 査 報 告 書

令和 6 年 5 月 21 日

学校法人 村 崎 学 園
理 事 会 御 中

学校法人 村崎学園
監 事 新 見 延 安
監 事 細 澤 英 一

私たち監事は、私立学校法第３７条第３項及び学校法人村崎学園寄附行為第１１条第３項に基づき、学校法人村崎学園の令和５年度(令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況等について監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

１．監査方法の概要

理事会、評議員会、部局長会、合同教授会等、重要な会議に出席し、理事長及び幹部職員等から業務の執行について説明・報告を聴取するとともに、重要な決裁書類等を閲覧しました。また、公認会計士の監査に立ち会い、諸会計帳票の点検及び実地調査等を行い、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況を監査しました。

２．監査の結果

（１）会計帳簿は記載すべき事項を正しく記載し、事業報告書、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び財産目録の記載と合致し、適法かつ正確に学校法人の収支状況及び財政状況を示していると認めます。

（２）学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

以 上

監 査 報 告 書

令和 6 年 5 月 21 日

学校法人　村 崎 学 園
評　議　員　会　御　中

学校法人　村崎学園
監 事　新見延安
監 事　細澤英一

私たち監事は、私立学校法第３７条第３項及び学校法人村崎学園寄附行為第１１条第３項に基づき、学校法人村崎学園の令和５年度(令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況等について監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

１．監査方法の概要

理事会、評議員会、部局長会、合同教授会等、重要な会議に出席し、理事長及び幹部職員等から業務の執行について説明・報告を聴取するとともに、重要な決裁書類等を閲覧しました。また、公認会計士の監査に立ち会い、諸会計帳票の点検及び実地調査等を行い、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況を監査しました。

２．監査の結果

（１）会計帳簿は記載すべき事項を正しく記載し、事業報告書、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び財産目録の記載と合致し、適法かつ正確に学校法人の収支状況及び財政状況を示していると認めます。

（２）学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

以　上